

# ミドル・シニアの学びと職業生活についての定量調査

## [PART2 趣味の学習の実態・効果]

### 調査結果

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

パーソル 総合研究所

日本の就業者（ミドル・シニア層）9,000名への調査を行った【PART1】の報告書※1では、仕事に関する学び直しを実行しているミドル・シニアは就業者全体の14.4%であり、約8割が学び直しを行っていない実態を確認した。また、学び直しによる収入増の効果が一定確認されたものの、収入やキャリアへの不安・危機感を煽るだけでは学び直し行動には至らないことも確認された。組織のキャリア自律・育成支援等によりキャリアビジョンを明確にすること、4つの学び直しマインド（好奇心、エンジョイメント、自己効力感、いけ図々しさ）を高めることがより有効であった。※1 「ミドル・シニアの学びと職業生活に関する定量調査【PART1】」（2023年8月）

ミドル・シニア従業員の活性化は、雇用組織にとって重要な経営課題であるが、曖昧で不確かな将来へ備えること（自助・共助）は多くの従業員にとっても本来的に重要な課題でもある。AIなどの技術が急速に進化・普及する中、求められる学びも変わらざるを得ない。就業者が働くことを通じて自らを更新し続ける意欲を育むためにも、学習という行為を狭く捉えすぎず、提供する教育施策を再構築していく必要もあるだろう。

そこで、本報告書では、仕事に関連はしないものの学習を行動化している「**趣味学習層**」※2へ着目し、その実態を確認するとともに、なぜ彼・彼女らが仕事・キャリアに関する学びにまで手を広げていないのか、どうすれば学習対象を仕事や自身のキャリアにも向けることができるのかを把握することを目指した。雇用組織やはたらく個人として、学び直しの議論を前向きに促進するための追加的な観点として、以下の分析結果を報告する。

1. ミドル・シニアの趣味の学習実態と学習の効果 「仕事・収入面」、「心理面」
2. 意欲あり趣味層※3と学び直し層の類似点
3. 意欲あり趣味層が学び直し層に移行するにはどうしたらよいか

見出し	頁
調査結果サマリ・提言	P.4~12
ミドル・シニアの趣味の学習実態	P.13~34
ミドル・シニアの趣味の学習の効果 〈仕事・収入面〉	P.35~44
ミドル・シニアの趣味の学習の効果 〈心理面〉	P.45~50
意欲あり趣味層と学び直し層の類似点	P.51~62
意欲あり趣味層が学び直し層に移行するには	P.63~70
Appendix 回答者属性・質問項目詳細	P.71~83

## はたらく個人へ向けて

- 趣味の学習は、「人間関係が広がる」、「将来のキャリアや生活不安の解消に生きる」
- 学び方は人それぞれだが、コミュニティ参加型の趣味の学びは仕事にも活かされやすい
- 過去・将来のキャリアや自分の関心を振り返る時間が、趣味と仕事を結び付ける

子どもの頃、家の周りを探検したり、好きな図鑑を何度も読み返すなかで新たな発見に心を躍らせた。習い事での練習が成果につながった時の喜びや達成感、自尊心を育む貴重な経験となった。これは、多くの方が共有する「学び」の原体験ではないだろうか。しかし、大人になるにつれ、「学び」とは資格取得や昇進・昇格のための机上での勉強が想起され、本来の楽しさから遠ざかってしまう人も少なくない。

現在、ミドル・シニア層においても「リ・スキリング（学び直し）」が重要な課題となっているが、「学び」とは本来的に広く、多様であったことを思い返せば、職業的側面に限定されるものではない。

本調査では、楽しみながら行っている趣味的領域の学習を通じ、「人間関係が広がった（49.1%）」「将来の生活への不安が減った（37.3%）」「将来のキャリアに活かされると思う（36.9%）」といった仕事や収入への波及効果が確認された。趣味の学習は、熟練せずとも楽しみや喜びを感じられる傾向もあるため、自身のキャリアと結び付けることができれば、職業生活をより豊かにする機会ともなり得る。

もし、仕事に関連した学び直しに二の足を踏むのならば、まずは興味・関心を向けられる趣味的領域の学びに踏みだしてみてもどうか。学ぶ内容や個人の学習観によって学び方も様々あるが、時に他者と関わり、教え・学び合う機会を持つことは、新たな人的ネットワークを築く事にもつながる。興味・関心を共にする仲間ができれば、そのコミュニティは職場でも家でもない、新たな居場所ともなり得る。ミドル・シニア層にとっては、趣味的学習を通じて多様な居場所を持つことが、将来のより豊かな生活につながるかもしれない。

## 経営層・人事部門へ向けて

- 趣味的領域を学ぶ「趣味学習層」は、仕事・キャリア領域を学ぶ「学び直し層」と学びのレディネス（学習への前向きな態度・習慣）を有する点などが共通し、潜在的な学び直し層として期待できる
- 趣味学習層の学び直し層への移行には、キャリア意識を高めるための教育施策が有効
- 趣味の学習は、人脈を広げ、仕事への意欲を向上させる越境学習※としての効果が期待できる

日本の就業者は加齢とともに「学び」から遠ざかる傾向がある。刻々と変化するビジネス環境に適応していく為にも、従業員の学び直しを促進したいと考える組織は多い。しかし、その気のない者に対して組織側が一方的に手厚く教育訓練を課したところで、その効果は限定的なものとなろう。いかに従業員側の能動性を引き出し、自己調整行動を促すかが重要なポイントとなる。

そこで、2つの観点から趣味的領域に「学び」を見出している「趣味学習層」に目を向けたい。1) 趣味学習層は学びのレディネスを有しているため、個人のキャリア意識を高める施策などを通じて仕事領域との接合を見いだせば、学び直し層への移行が期待できる。

2) これまでの企業の人材育成において、「実務に直結する学び」には教育予算を充てるが、趣味的領域は福利厚生での位置づけとされていた組織は少なくない。変化の激しい今日、どのような学びが実務に直結し、何がしないのかの線引きは益々難しい。だとすれば、「何を学ぶか」ではなく、従業員の学ぶ姿勢（意欲）や学び得た有形・無形の資産を社内にいかに往還する（周囲に共有し、活かす）ことができているかを評価してはどうか。これは単に趣味活動を補助するのではなく、その活動の中に「学び」を見い出すことのできる人財を育む施策と位置付けたい。従業員が自身の興味・関心に基づいた学びを行い、周囲と共有する機会を設けることは、非学習層の学習意欲を刺激することにもつながる可能性がある。このような試みとして、企業内の部活動など、趣味的活動や学習イベントを組織として開催する事例もあるが、自社らしい教育施策としての工夫の余地も多分にあると考える。

※越境学習：法政大学大学院の石山 恒貴教授は、越境学習を「自分にとってのホームとアウェイを行き来することによる学び」と定義している。

調査名称	パーソル総合研究所「ミドル・シニアの学びと職業生活についての定量調査」[PART2 趣味の学習の実態・効果]
調査内容	・ミドル・シニアの業務外の学び（学び直し、趣味）の実態と効果を明らかにする。 ・学び直す意欲があるのに学び直せないミドル・シニアの学び直し行動を促進する個人・企業要因を明らかにする。
調査手法	調査会社モニターを用いたインターネット定量調査
調査時期	2023年 3月24日 - 3月28日
調査対象者	■スクリーニング対象者：全国の就業者 <b>35～64</b> 歳男女 最終学歴高卒以上 n=36,537 ※令和2年国勢調査の雇用形態・学歴別の構成比に合わせてウェイトバック処理 ■本調査対象者：業務外学習の実施状況・学び直し意欲により割付 ① 仕事関連学習層 n=1,800 ② 非仕事関連学習層 n=2,700 ③ 学び直し意欲あり・非学習層 n=2,700 ④ 学び直し意欲なし・非学習層 n=1,800 ①～④の合計 n=9,000 ※回答の早い上位10%のデータを削除 ※一部の分析では、ウェイトバック処理後のスクリーニング対象者の①～④の区分・学歴の構成比に合わせてウェイトバック処理
実施主体	株式会社パーソル総合研究所
共同研究	産業能率大学 齋藤弘通研究室

※報告書内の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

※図中の（）内の数値はn数を示す。

**引用について** 本調査を引用いただく際は出所を明示してください。

出所の記載例：パーソル総合研究所+産業能率大学 齋藤研究室「ミドル・シニアの学びと職業生活についての定量調査【PART2】」

- **ミドル・シニア就業者**: 35～64歳就業者と定義。35～54歳をミドル、55～64歳をシニアと定義。
- **学び直し**: 業務外の時間に、仕事やキャリアに関して継続して学習することと定義。  
\*調査設問中では、「本業(現在の仕事)に関する学習」「本業以外の仕事やキャリアに関する学習」を行っているとの回答により把握。
- **趣味の学習**: 業務外の時間に、仕事やキャリアとは無関係の趣味として継続して学習することと定義。  
\*調査設問中では、「スポーツに関する学習」「文化的な趣味に関する学習」「レジャーに関する学習」「ボランティア、NPO活動に関する学習」「ライフイベント(出産・育児・療養・介護等)や生活に関する学習」「その他の学習」を行っているとの回答により把握。
- **学び直しタイプ**: 学び直す意欲と学習実施状況に基づき、以下の3タイプ(詳細6タイプ)に分類。

意欲 \ 行動	学び直しをしている ※趣味の学習との両立も含む	特に学んでいることはない	趣味の学習だけしている
全体	タイプ1 <b>学び直し層</b>	タイプ2 <b>非学習層</b>	タイプ3 <b>趣味学習層</b>
学び直す意欲がある	<b>学び直し積極層</b>	<b>口だけ層</b>	<b>意欲あり趣味層</b>
学び直す意欲がない	<b>やむなく学び直し層</b>	<b>不活性層</b>	<b>意欲なし趣味層</b>

## クリエイティブな知的職業では、学び直し者も多いが趣味の学びだけの者も多い

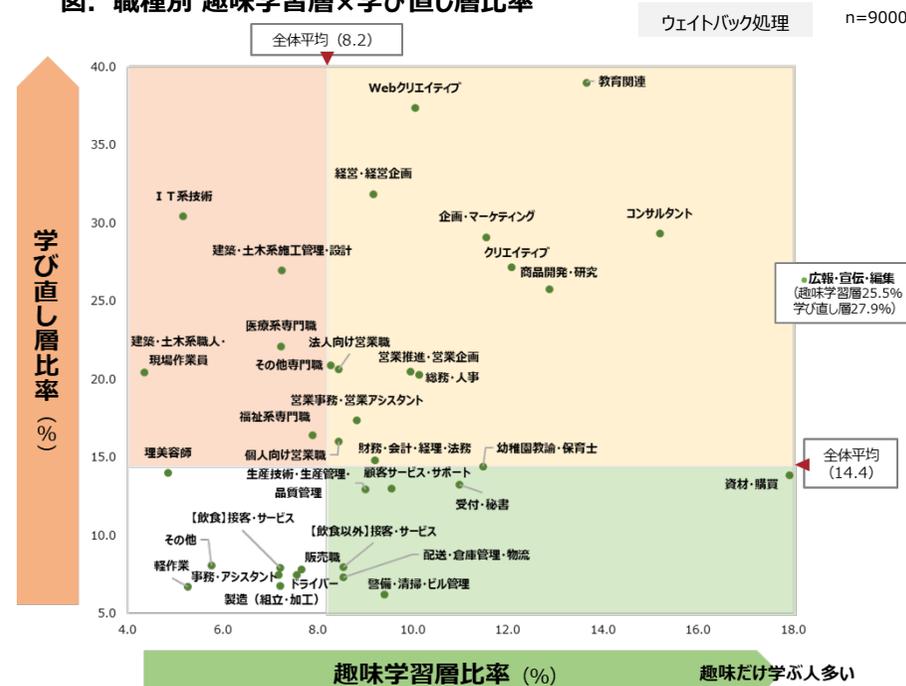
Page.13-34

- 30代後半は学び直し層（業務外の仕事・キャリアに関する学習者。趣味の学習を並行する者も含む）・趣味学習層（趣味の学習だけ行う者）ともに多いが、40代～50代前半にかけていずれも減少。50代後半～60代に再び趣味学習層が増加。学び直し層はより減少。

- 「女性フリーランス」「公務員・団体職員」や「教育、学習支援業」、「広報・宣伝・編集」「コンサルタント」「教育関連」「Webクリエイティブ」の職種（図）、高学歴者や高職位者は、学び直し層も多いが、趣味学習層も多い傾向がある。

- 趣味学習層が多く、学び直し層が少ないのは、「嘱託社員」や「男性派遣社員」、「生活関連サービス業、娯楽業」や「資材・購買」「受付・秘書」「幼稚園教諭・保育士」の職種。
- 「パート・アルバイト」は趣味学習層、学び直し層ともに少ない。
- 趣味の学習内容としては、「文化（学問、芸術など）」が32.2%と最も多い。詳細な分類では、「英語」学習者が14.4%と最も多く、「音楽」や「資産形成・資産運用」も多い。

図. 職種別 趣味学習層×学び直し層比率



## 趣味学習者の約半数が人間関係、約4割が将来の生活・キャリアに活けると回答

Page.35-44

- 趣味の学習を通じて、約半数が人間関係の拡大、約4割が将来の生活やキャリア、仕事の意欲向上の効果を実感（図）。
- 趣味学習の習熟度（学習分野の習得度合い）が高いほど、仕事や収入への波及効果を実感。特に、習熟度が「報酬を受け取れる／社会に認められる」以上と答えた趣味学習層（約6%）は、半数以上が「新たな収入源につながった」等の効果を実感。趣味の学習を通じた仕事や収入への波及効果を感じるミドル・シニア就業者ほど、将来のキャリアや収入への不安が少ない。

- 趣味の学習内容が「資産形成・資産運用」で

図. 趣味の学習による仕事・収入への波及効果を感じている割合

趣味学習層 n=2700

63.3%、「経済・金融」で53.1%、

「科学技術・工学」で43.5%、「介護」で

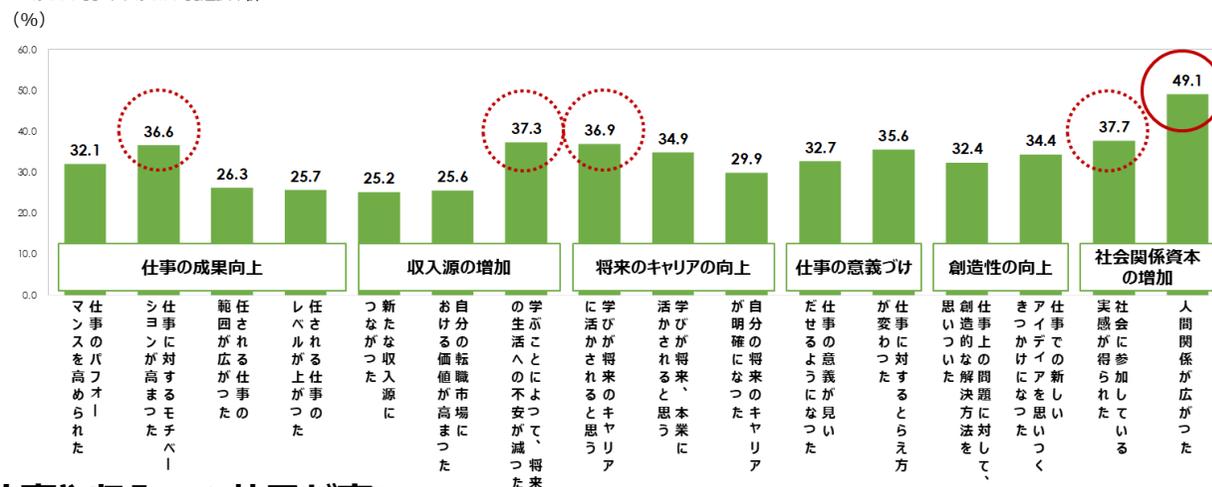
37.5%が、趣味の学習によって「新たな

収入源につながった」と回答。

- 特に、「コミュニティ参加型」の学び方が、

趣味学習による人間関係拡大、ひいては仕事や収入への効果が高い。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計



## 趣味の学習から幸福感を感じている割合は、学び直しと変わらず約8割

Page.45-50

- 趣味学習層の約8割が、「学ぶことで興味・関心の範囲が広がった」「今の学び活動をこれからも続けたい」「学ぶことが楽しい」と回答。この割合は、仕事やキャリアに関連する学び直しの効果とほとんど変わらない（図）。

- 「学ぶことが楽しい」といった趣味の学習による

幸福感を感じる割合は、学習期間3カ月～

6カ月未満で急激に高まり、**学び直し層よりも**

**短期間で幸福感を感じる傾向。**

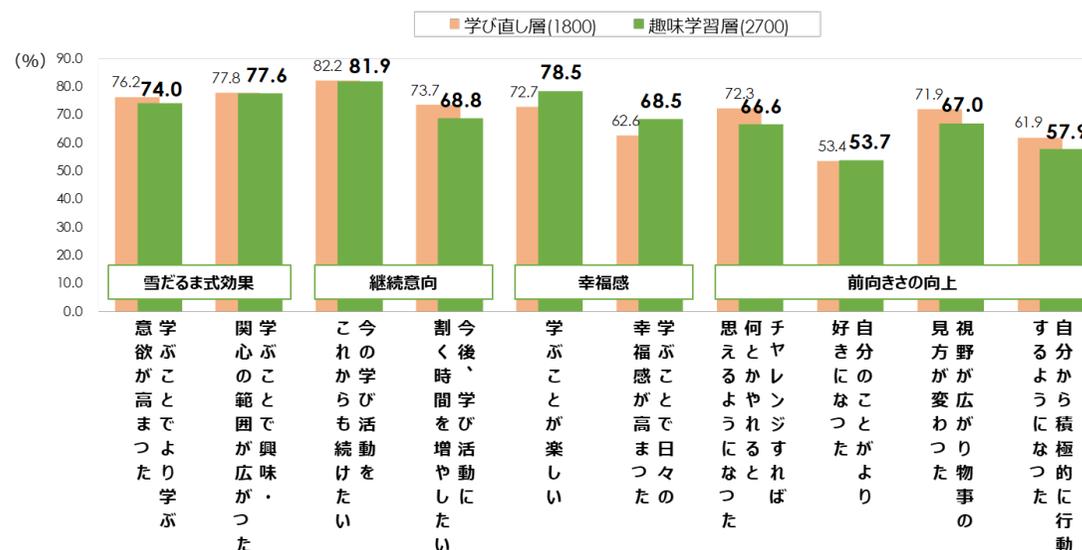
- 趣味の習熟度と心理的効果は関係なく、

初学者でも心理的効果は高い。

- 趣味の学習の継続意向や幸福感は、ミドル

よりもシニア就業者の方がやや高い。

図. 業務外学習による心理的効果（学び直し・趣味の比較）



## 学び直す意欲はあるが趣味の学びだけ行う者は、潜在的な学び直し層

- 意欲あり趣味層（学び直す意欲があるが趣味の学習だけしている）は、ミドル・シニア就業者の学び直しと関連する個人特性や過去経験、職場の人材マネジメント施策や学び方が、学び直し層と類似（図）。

- 具体的には、自分の興味関心を追求する行動や、学びを楽しむマインド、刺激を受けられる人脈に差がなかった。また、上司が学び直しに熱心、業務の負荷が低い、職務範囲が無限定、副業・兼業が自由といった環境面も差がなかった。

意欲あり趣味層は、その他の多くの点でも

学び直し層に近く、学び直しの

ポテンシャルがあると言える。

- 一方、「仕事と興味関心の一致度」や「キャリアのセルフアウェアネス※」は何も学習していない層よりは学び直し層に近いものの低い傾向があった。

図. 学び直し層と比較した、意欲あり趣味層（学び直す意欲があるが趣味の学習だけしている）の特徴

		学び直し層との一致点	類似点（学び直し層よりは低い、他の層に比べ高い）
個人特性	キャリア意識	「自己追求行動（興味関心を追求する行動）」が高い	「仕事と興味関心の一致度」や「キャリアのセルフアウェアネス」が高い
	学び直しマインド	「エンジョイメント（何事も楽しむマインド）」が高い	「好奇心」「いけぬかしさ」「自己効力感」が高い
	人間関係	刺激を受けられる知り合いが多い	-
	過去経験	-	学生時代：自主的に勉強していた人が多い 20代：業務外学習や、プロジェクトを率いた経験が多い 社会人全体：通常業務とは異なるプロジェクトへの参加や部下や後輩の育成経験が多い
人材マネジメント要因	上司	上司が仕事関連の学びに熱心	-
	職務特性	（主観的な感覚として）仕事の負荷が低い	成果の明確さ、技能の高度さ、クリエイティビティが多い
	人事管理	職務範囲が無限定	所属組織の育成の手厚さやキャリアの透明性が高い
	学習風土	自由に副業・兼業ができる	所属組織に学び直しに積極的な従業員や、職場外のセミナーや勉強会への参加奨励が多い
	研修訓練	-	技能研修やキャリア研修、自己啓発支援の経験率が多い

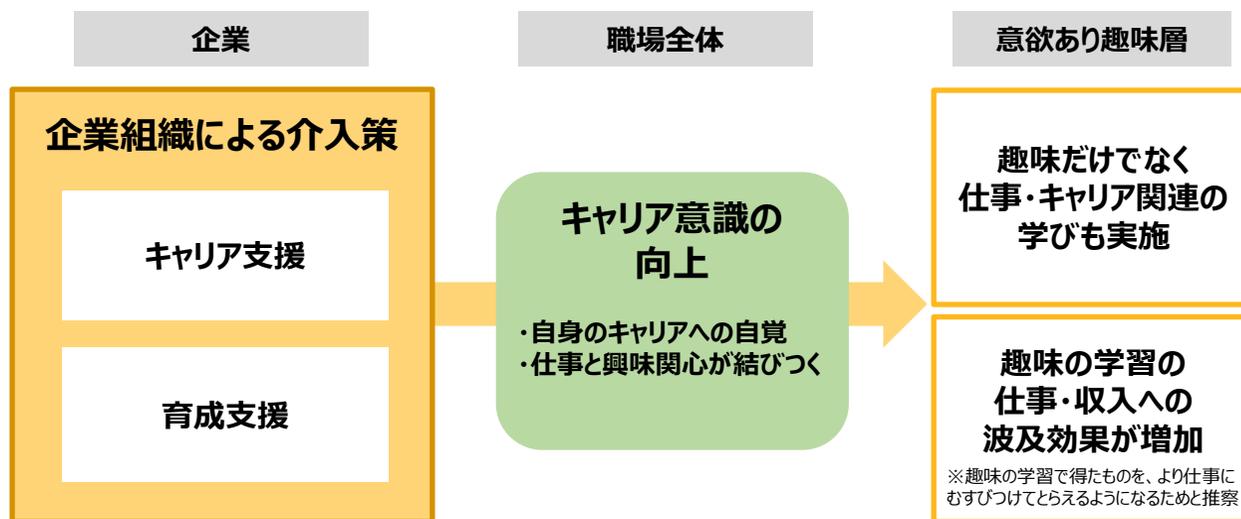
※ 過去のキャリアで得た経験・スキルや未来の目標を意識化できている度合い

## 意欲あり趣味層への学び直し促進策には、キャリア支援・育成策が有効

- 学び直す意欲があるミドル・シニア就業者のうち、13.1%は趣味の学習だけをしている。「意欲あり趣味層」に、学び直しの意欲を行動に移すことを阻害している要素を取り除き、学び直しを促進するための組織的介入策を探った。
- 学び直し層よりも意欲あり趣味層で低かった「キャリアのセルフアウェアネス※」「仕事と興味関心の一致度」は、「キャリアプランニング研修」「キャリアの透明性（キャリアパスの明示、社内公募等）」「副業・兼業の自由さ」といったキャリア自律支援策や、「目標管理」といった育成支援策があるミドル・シニア就業者で高い傾向がある（図）。

図. 調査結果から示唆された意欲あり趣味層の学び直し促進策

- 上記の施策によって意欲あり趣味層の「キャリアのセルフアウェアネス」や「仕事と興味関心の一致度」が高まれば、学び直しの実施や趣味学習自体の仕事・収入への波及効果の増加につながる。



# ミドル・シニアの趣味の学習実態

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

パーソル 総合研究所

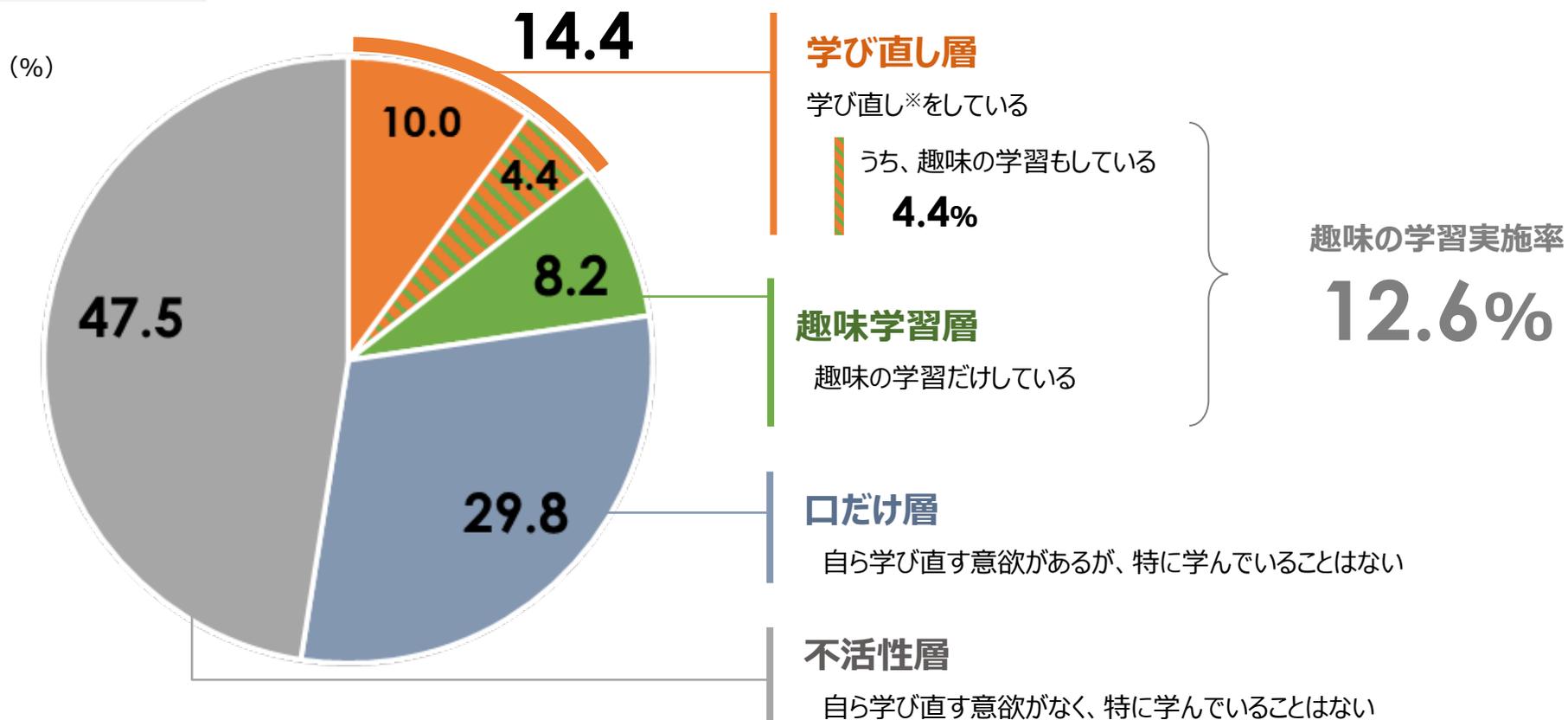
ミドル・シニア就業者の中で、学び直しをしている「学び直し層（14.4%）」のうち、4.4%が同時に趣味の学習も実施。

趣味の学習だけしている「趣味学習層（8.2%）」と合わせると、12.6%が趣味の学習を行っている。

以降は、趣味学習層（8.2%）に焦点をあて、分析した。

ウェイトバック処理

全体 n=36,537（スクリーニング調査）



※ 学び直し：業務外の時間に、仕事やキャリアに関して継続して学習すること

趣味学習層の学習内容としては、「文化（学問、芸術など）」が最も多く、32.2%を占める。

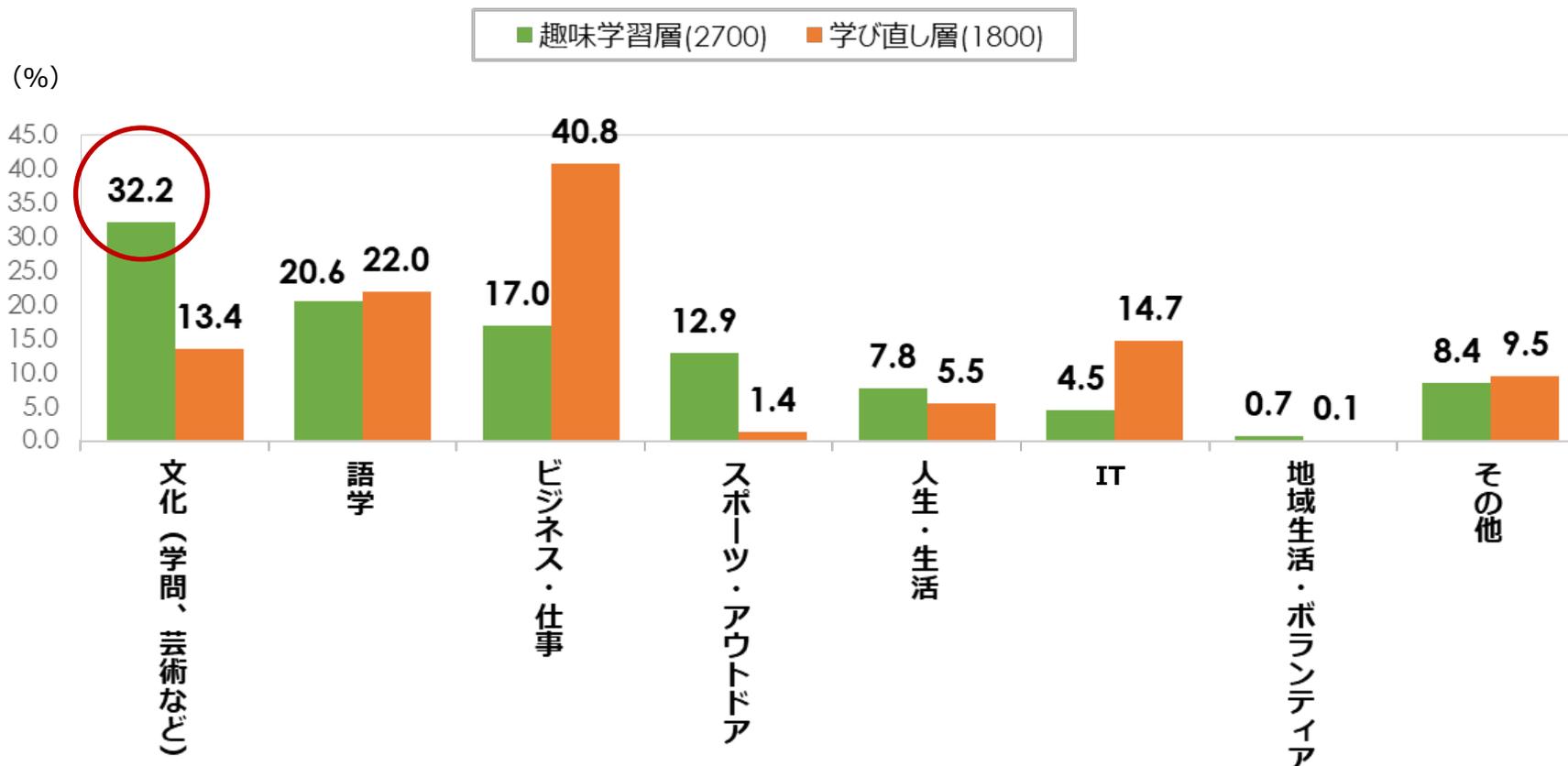
次いで、「語学」、「ビジネス・仕事」、「スポーツ・アウトドア」が続く。

Q. あなたの最も力を入れている学びの内容について、具体的に何を学んでいるのかを記入してください。

※自由記述回答を分類し、集計（その他はN/Aや分類できない抽象的な回答）

※複数回答を含む

( ) 内はn数



趣味の学習内容の詳細（97分類）をみると、最も多いのは、「英語」の14.4%。

次いで「語学」「音楽」「その他スポーツ」「資産形成・資産運用」と続く。

Q. あなたの最も力を入れている学びの内容について、具体的に何を学んでいるのかを記入してください。

趣味学習層（趣味の学習のみ実施） n=2700

※自由記述回答を分類し、集計（N/Aも集計対象としたがランキングからは除外）

※複数回答あり

No	分類	学習内容	学習者の割合
1	語学	英語	14.4
2	語学	語学（英語と特定されない）	6.7
3	文化	音楽	6.6
4	スポーツ・アウトドア	その他スポーツ	5.6
5	ビジネス・仕事	資産形成・資産運用	5.2
6	文化	歴史	4.9
7	IT	IT	2.8
8	文化	美術・芸術	2.3
9	文化	手芸・DIY	2.0
10	IT	PCスキル	1.5
11	人生・生活	介護	1.5
12	スポーツ・アウトドア	ゴルフ	1.4
13	人生・生活	健康	1.4
14	文化	華道・フラワーアレンジメント	1.3
15	文化	書道	1.3
16	文化	読書	1.3
17	文化	茶道	1.3
18	ビジネス・仕事	経済・金融	1.2

No	分類	学習内容	学習者の割合
19	スポーツ・アウトドア	レジャー	1.2 (%)
20	人生・生活	料理	1.1
21	ビジネス・仕事	経理・会計	1.1
22	ビジネス・仕事	ライティング・読解	1.0
23	文化	宗教	1.0
24	ビジネス・仕事	農業	1.0
25	ビジネス・仕事	医療・医学	0.9
26	人生・生活	子育て	0.9
27	その他	分類できない自己啓発	0.9
28	ビジネス・仕事	科学技術・工学	0.9
29	人生・生活	その他人生・生活	0.9
30	文化	スピリチュアル	0.9
31	スポーツ・アウトドア	テニス	0.9
32	スポーツ・アウトドア	筋トレ	0.8
33	ビジネス・仕事	ビジネス	0.8
34	スポーツ・アウトドア	格闘技	0.8
35	文化	心理学	0.7
36	文化	動物	0.7
		...	

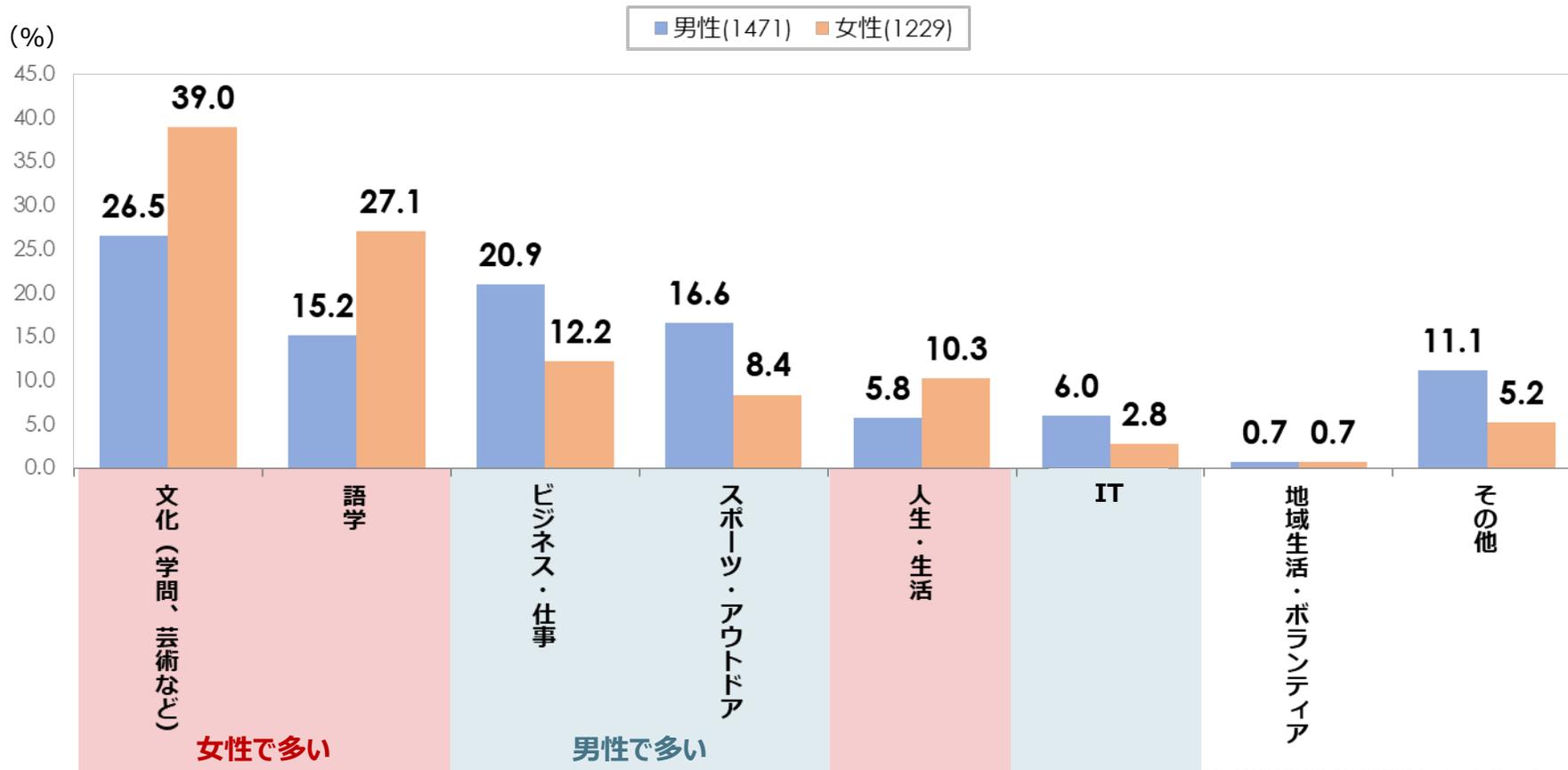
趣味の学習内容には男女差があり、女性は「文化（学問、芸術など）」「語学」「人生・生活」の学習者が多く、男性は「ビジネス・仕事」「スポーツ・アウトドア」「IT」の学習者が多い。

Q. あなたの最も力を入れている学びの内容について、具体的に何を学んでいるのかを記入してください。

※自由記述回答を分類し、集計（その他はN/Aや分類できない抽象的な回答） ※複数回答を含む

趣味学習層 n=2700

( ) 内はn数



男性は女性に比べ「資産形成・資産運用」「歴史」「IT」などの学習が多く、  
女性には男性に比べ「語学」「英語」「音楽」などの学習が多い。

【凡例】男女間で実施率に5pt以上の差があった項目を抜粋 ( ) 内はn数

趣味学習層 (趣味の学習のみ実施) n=2700

## 男性に多い趣味学習内容

趣味の学習内容	男性実施率 (1471)	女性実施率 (1229)	男性-女性 (pt)	(%)
資産形成・資産運用	6.7	3.4	3.2	
歴史	6.3	3.1	3.2	
IT	4.1	1.3	2.8	
その他スポーツ	6.7	4.2	2.5	
ゴルフ	2.2	0.4	1.8	
レジャー	2.0	0.2	1.7	
経済・金融	1.8	0.5	1.3	
乗り物	1.2	0.0	1.2	
科学技術・工学	1.4	0.2	1.1	
サッカー	1.0	0.1	0.9	
経理・会計	1.4	0.7	0.8	
筋トレ	1.2	0.4	0.7	
ゲーム	1.0	0.2	0.7	
ランニング	1.0	0.3	0.7	
ビジネス	1.1	0.4	0.7	
物理学	0.6	0.0	0.6	
写真	0.7	0.2	0.6	
教育	1.0	0.4	0.5	
数学	0.7	0.2	0.5	
人材育成	0.7	0.2	0.5	

## 女性に多い趣味学習内容

趣味の学習内容	男性実施率 (1471)	女性実施率 (1229)	女性-男性 (pt)	(%)
語学 (英語と特定されない)	3.3	10.9	7.6	
英語	12.0	17.2	5.1	
音楽	5.2	8.3	3.1	
手芸・DIY	0.6	3.6	3.0	
書道	0.3	2.6	2.3	
茶道	0.2	2.5	2.3	
美術・芸術	1.6	3.1	1.5	
子育て	0.3	1.7	1.4	
華道・フラワーアレンジメント	0.7	2.1	1.4	
着付け	0.0	1.3	1.3	
料理	0.6	1.8	1.2	
スピリチュアル	0.3	1.5	1.1	
手話・点字	0.2	1.3	1.1	
動物	0.3	1.2	0.9	
ダンス	0.3	1.1	0.9	
介護	1.1	2.0	0.9	
栄養学	0.1	0.7	0.7	
メンタルヘルス	0.1	0.7	0.7	
健康	1.1	1.7	0.6	
読書	1.0	1.6	0.6	
心理学	0.5	1.1	0.6	

男性の年代別にみると、「資産形成・資産運用」は年代が低いほど多く、「歴史」や「介護」は年代が高いほど多い。

女性の年代別にみると、「子育て」は年代が低いほど多く、「音楽」や「華道・フラワーアレンジメント」は年代が高いほど多い。

【凡例】年代間で実施率に有意差があった項目を色付け ( ) 内はn数

趣味学習層（趣味の学習のみ実施） n=2700

### 男性 年代別 ※男性全体の降順

趣味の学習内容	35-44歳 (443)	45-54歳 (446)	55-64歳 (582)	(%)
英語	12.6	12.8	11.0	
その他スポーツ	7.9	4.5	7.6	
<b>資産形成・資産運用</b>	<b>8.4</b>	<b>7.8</b>	<b>4.5</b>	
<b>歴史</b>	<b>4.1</b>	<b>6.3</b>	<b>8.1</b>	
音楽	4.3	4.5	6.5	
IT	5.0	4.7	2.9	
語学（英語と特定されない）	2.7	3.6	3.4	
ゴルフ	0.9	2.7	2.9	
レジャー	1.4	2.5	2.1	
経済・金融	1.6	1.8	1.9	
美術・芸術	1.1	2.2	1.5	
PCスキル	0.9	1.8	1.9	
経理・会計	1.1	2.5	0.9	
科学技術・工学	1.1	0.7	2.1	
乗り物	0.7	1.3	1.5	
筋トレ	1.1	1.1	1.2	
ビジネス	1.6	0.7	1.0	
<b>介護</b>	<b>0.5</b>	<b>0.4</b>	<b>2.1</b>	
健康	1.1	0.7	1.4	
読書	0.7	0.9	1.4	

### 女性 年代別 ※女性全体の降順

趣味の学習内容	35-44歳 (394)	45-54歳 (403)	55-64歳 (432)	(%)
英語	17.0	16.9	17.6	
語学（英語と特定されない）	8.1	12.9	11.6	
<b>音楽</b>	<b>5.8</b>	<b>7.7</b>	<b>11.1</b>	
その他スポーツ	5.6	3.2	3.9	
手芸・DIY	2.5	4.0	4.2	
資産形成・資産運用	4.6	3.7	2.1	
歴史	4.1	3.2	2.1	
美術・芸術	4.1	3.0	2.3	
書道	3.6	2.5	1.9	
茶道	2.0	2.0	3.5	
<b>華道・フラワーアレンジメント</b>	<b>0.5</b>	<b>2.0</b>	<b>3.7</b>	
介護	1.0	1.7	3.0	
料理	2.5	0.7	2.1	
健康	1.8	1.5	1.9	
<b>子育て</b>	<b>3.0</b>	<b>1.0</b>	<b>1.2</b>	
読書	1.8	1.5	1.6	
スピリチュアル	1.8	1.5	1.2	
PCスキル	1.3	1.7	1.2	
<b>IT</b>	<b>0.8</b>	<b>2.5</b>	<b>0.7</b>	
ライティング・読解	0.3	2.0	1.6	

男女ともに、趣味学習層比率は年齢により「C字型」の軌跡をたどる。40代～50代前半に減少し、60代前半にかけて再び増加。  
一方、学び直し層は年齢を経るにつれ減少。40代～50代前半には仕事・趣味ともにプライベートの時間を割くことに消極的になり、定年を迎える前後で趣味の学習を始める就業者が多いと考えられる。

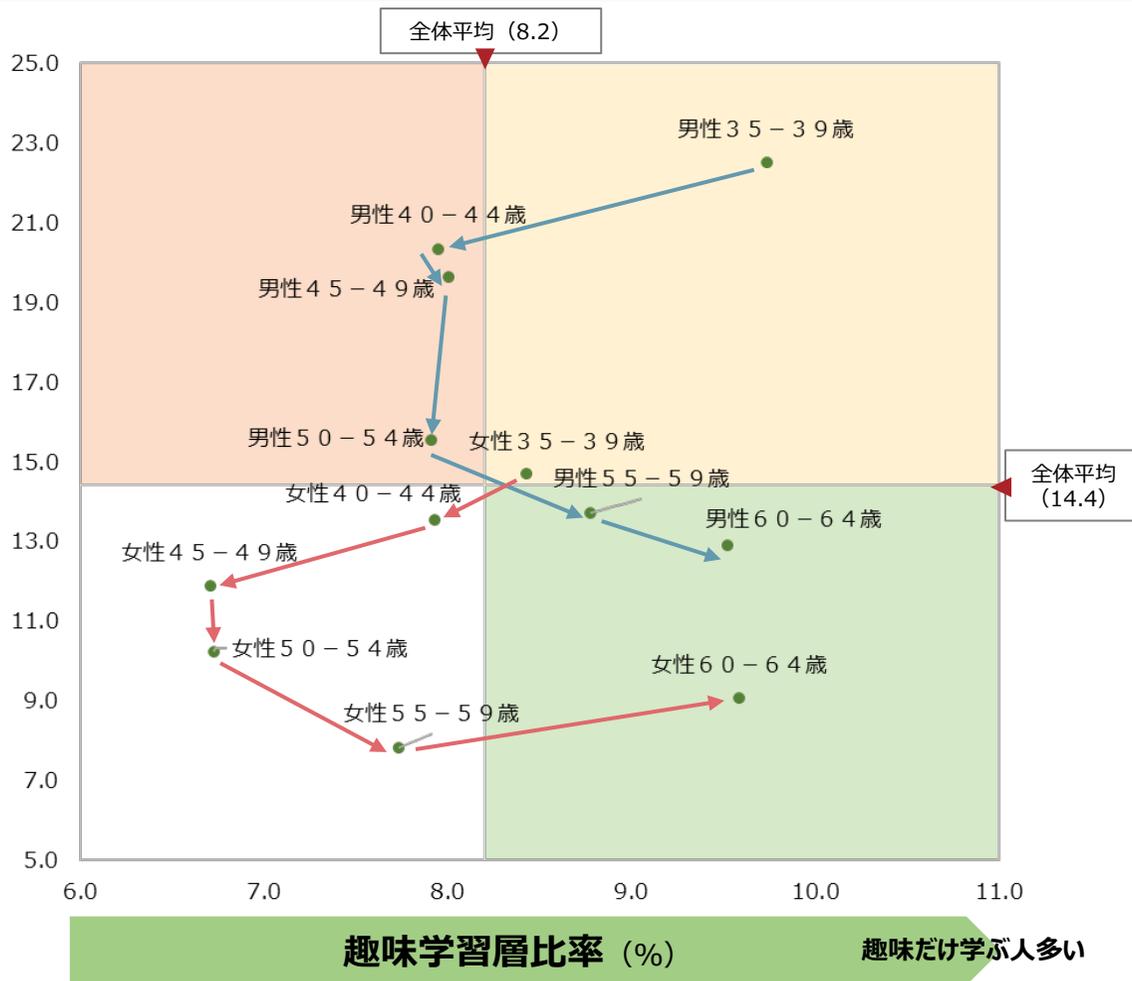
ウェイトバック処理

n=36,537  
(スクリーニング調査)

※学び直し層には、学び直しと趣味学習両方実施者を含む

学び直す人  
多い

学び直し層比率 (%)



【凡例】

学び直し層が多い	どちらも多い
どちらも少ない	趣味学習層が多い

サンプル数

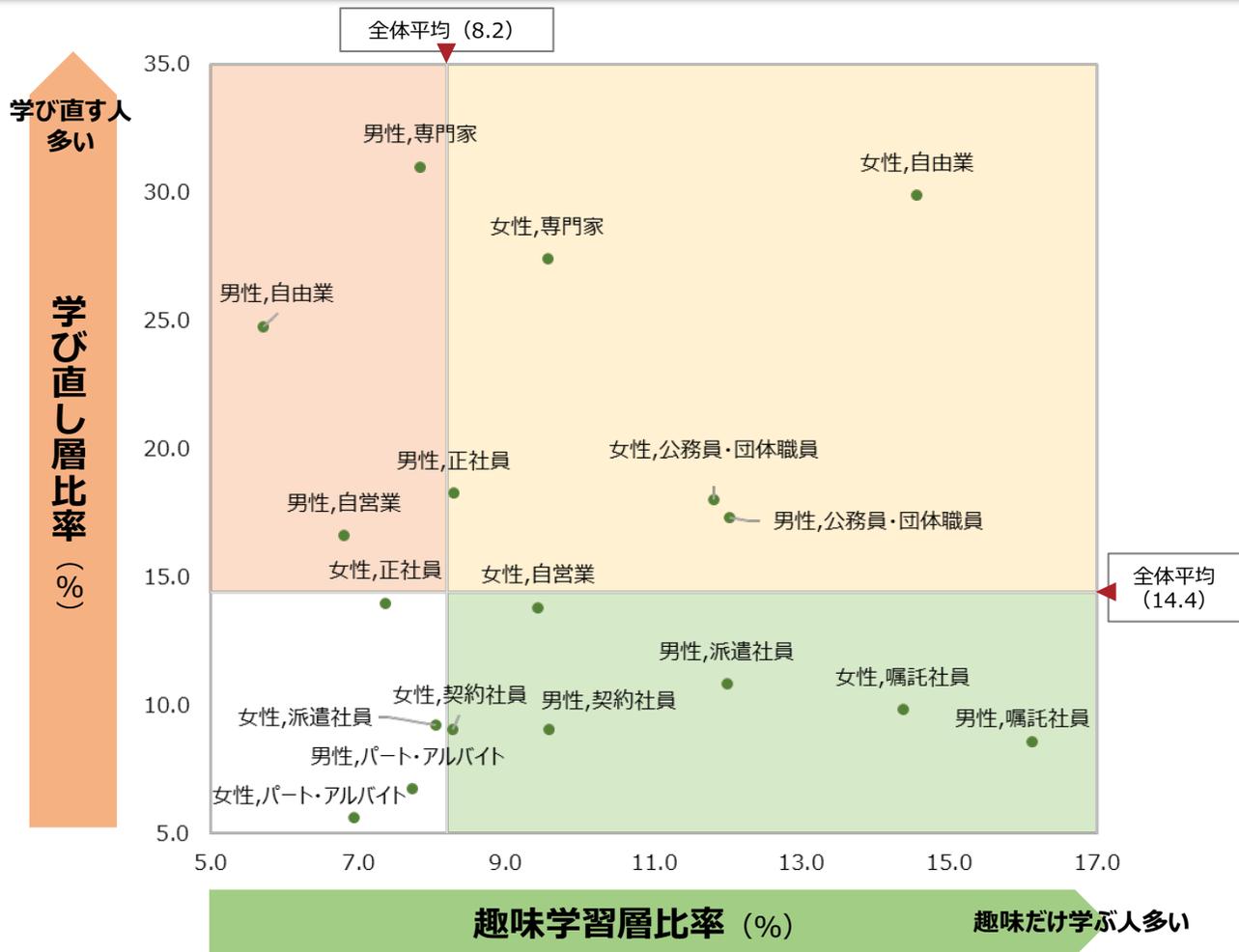
男性 35-39歳	(2,646)
男性 40-44歳	(3,302)
男性 45-49歳	(3,431)
男性 50-54歳	(3,619)
男性 55-59歳	(3,634)
男性 60-64歳	(3,178)
女性 35-39歳	(2,494)
女性 40-44歳	(2,791)
女性 45-49歳	(3,001)
女性 50-54歳	(3,117)
女性 55-59歳	(3,024)
女性 60-64歳	(2,299)

「女性自由業者（フリーランス）」や、「公務員・団体職員」は、学び直し層・趣味学習層ともに多い。「嘱託社員」や「男性派遣社員」は、趣味学習層は多いが学び直し層は少ない。「パート・アルバイト」は、どちらの学習も少ない。

ウェイトバック処理

n=36,537  
(スクリーニング調査)

※学び直し層には、学び直しと趣味学習両方実施者を含む



【凡例】

学び直し層が多い	どちらも多い
どちらも少ない	趣味学習層が多い

サンプル数

男性, 正社員	(13,935)
男性, 契約社員	(737)
男性, 派遣社員	(310)
男性, 嘱託社員	(150)
男性, 公務員・団体職員	(1,688)
男性, 専門家	(203)
男性, 自営業	(1,636)
男性, 自由業	(274)
男性, パート・アルバイト	(876)
女性, 正社員	(7,208)
女性, 契約社員	(741)
女性, 派遣社員	(744)
女性, 嘱託社員	(112)
女性, 公務員・団体職員	(682)
女性, 専門家	(287)
女性, 自営業	(830)
女性, 自由業	(216)
女性, パート・アルバイト	(5,905)

業種別にみると、「生活関連サービス業、娯楽業」「国家公務・地方公務」は、趣味学習層が多く学び直し層は平均的。

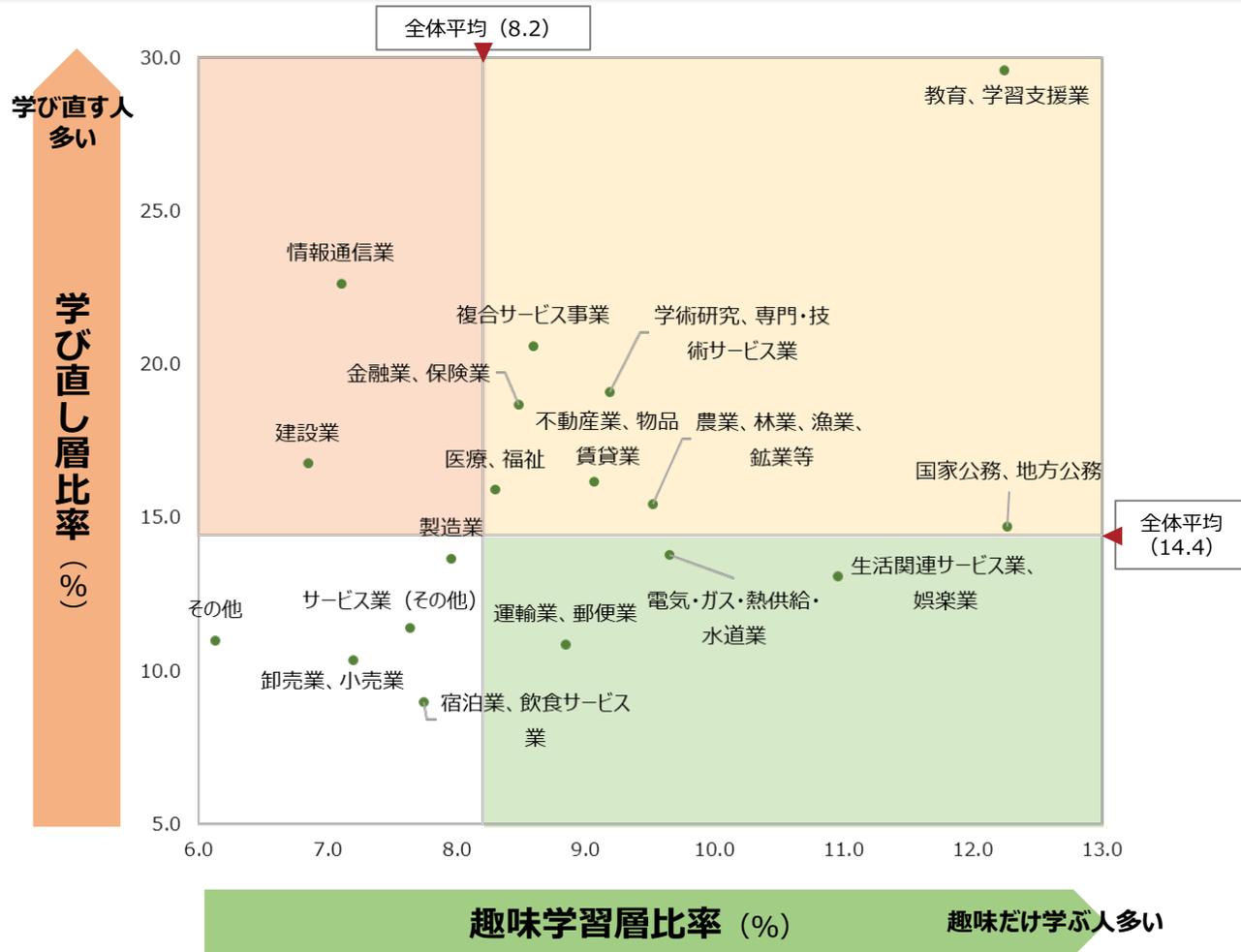
「教育、学習支援業」はどちらも多く、学習行為への積極性がうかがえる。

「情報通信業」は学び直し層が多いが、趣味学習層は少ない。

ウェイトバック処理

n=9000

※学び直し層には、学び直しと趣味学習両方実施者を含む



【凡例】

学び直し層が多い	どちらも多い
どちらも少ない	趣味学習層が多い

サンプル数

国家公務、地方公務	(370)
教育、学習支援業	(346)
生活関連サービス業、娯楽業	(209)
電気・ガス・熱供給・水道業	(136)
農業、林業、漁業、鉱業等	(87)
学術研究、専門・技術サービス業	(151)
不動産業、物品賃貸業	(211)
運輸業、郵便業	(498)
複合サービス事業	(46)
金融業、保険業	(363)
医療、福祉	(929)
製造業	(1,676)
宿泊業、飲食サービス業	(327)
サービス業 (その他)	(953)
卸売業、小売業	(1,128)
情報通信業	(479)
建設業	(522)
その他	(567)

「広報・宣伝・編集」「コンサルタント」「教育関連」「Webクリエイティブ」などは、学び直し層、趣味学習層ともに多い。知的でクリエイティブな職種は、仕事・趣味問わず学習行為に積極的なことがうかがえる。「資材・購買」「受付・秘書」「幼稚園教諭・保育士」は、趣味学習層が多いが学び直し層は少ない。「IT系技術職」は、学び直し層は多いが、趣味学習層は少ない。

ウェイトバック処理

n=9000  
※30人未満の職種は  
グレー網掛け

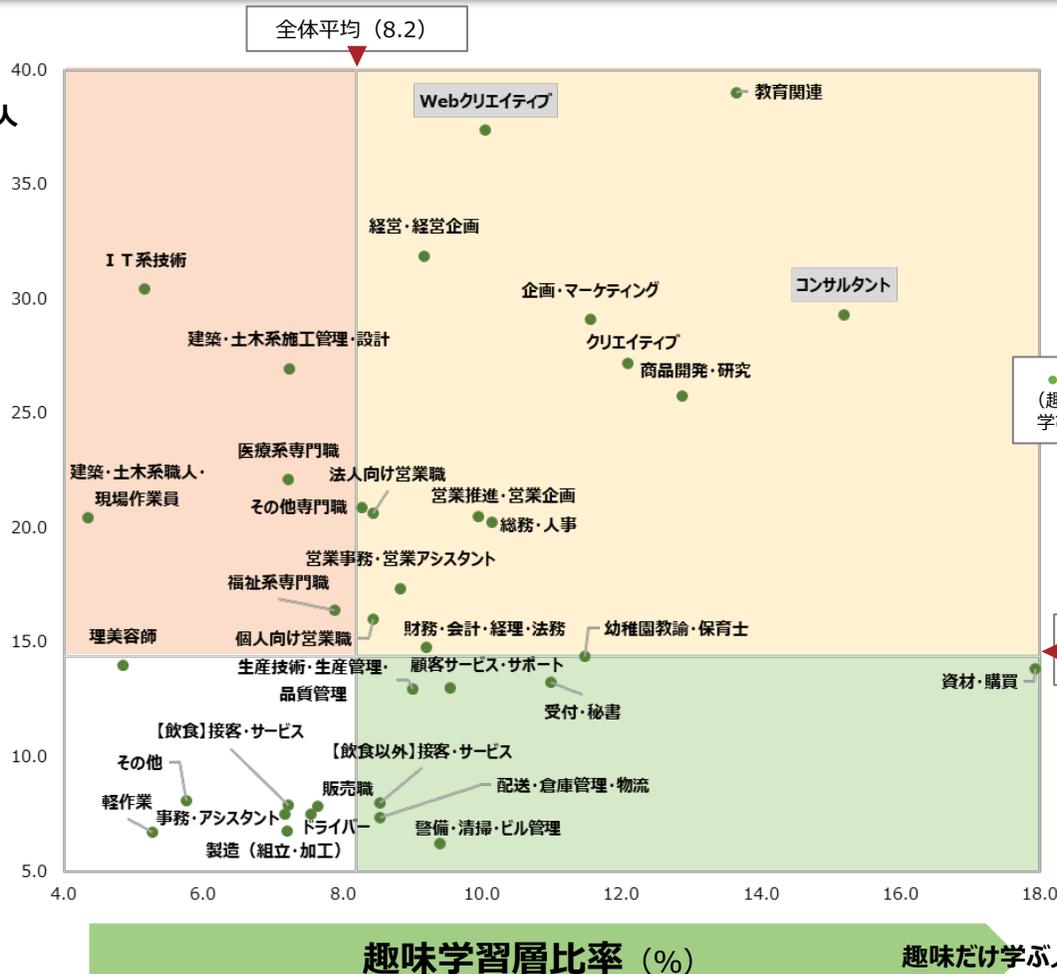
※学び直し層には、学び直し  
と趣味学習両方実施者を含  
む

学び直し層  
多い

学び直し層比率 (%)

【凡例】

学び直し層 が多い	どちらも 多い
どちらも 少ない	趣味学習層 が多い



サンプル数

教育関連	(197)
Webクリエイティブ	(25)
経営・経営企画	(269)
IT系技術	(326)
コンサルタント	(19)
企画・マーケティング	(66)
広報・宣伝・編集	(33)
クリエイティブ	(52)
建築・土木系施工管理・設計	(153)
商品開発・研究	(139)
医療系専門職	(337)
その他専門職	(187)
法人向け営業職	(306)
営業推進・営業企画	(92)
建築・土木系職人・現場作業員	(79)
総務・人事	(423)
営業事務・営業アシスタント	(159)
福祉系専門職	(299)
個人向け営業職	(159)
財務・会計・経理・法務	(469)
幼稚園教諭・保育士	(59)
理美容師	(47)
資材・購買	(61)
受付・秘書	(45)
顧客サービス・サポート	(252)
生産技術・生産管理・品質管理	(342)
その他	(661)
【飲食以外】接客・サービス	(253)
【飲食】接客・サービス	(245)
販売職	(433)
ドライバー	(167)
事務・アシスタント	(1,405)
配送・倉庫管理・物流	(228)
製造（組立・加工）	(592)
軽作業	(169)
警備・清掃・ビル管理	(255)

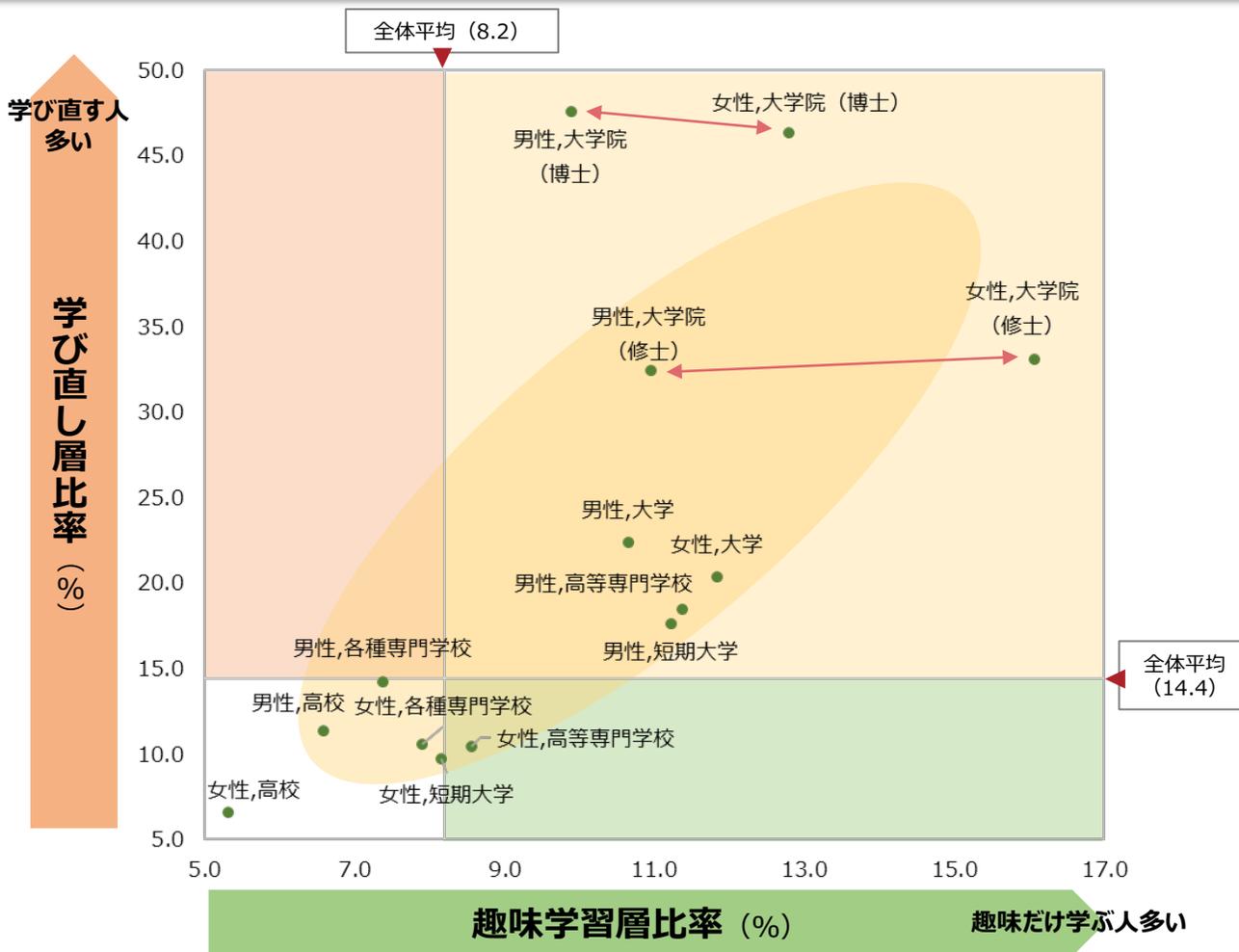
最終学歴別にみると、高学歴のミドル・シニア就業者ほど趣味学習層、学び直し層ともに多い傾向。

特に女性の「大学院（博士）卒」「大学院（修士）卒」は趣味学習層が多い。

ウェイトバック処理

n=36,537  
(スクリーニング調査)

※学び直し層には、学び直しと趣味学習両方実施者を含む



【凡例】

学び直し層が多い	どちらも多い
どちらも少ない	趣味学習層が多い

サンプル数

男性,高校	(8,765)
男性,各種専門学校	(1,802)
男性,高等専門学校	(648)
男性,短期大学	(376)
男性,大学	(7,178)
男性,大学院 (修士)	(860)
男性,大学院 (博士)	(182)
女性,高校	(7,574)
女性,各種専門学校	(1,947)
女性,高等専門学校	(535)
女性,短期大学	(2,870)
女性,大学	(3,482)
女性,大学院 (修士)	(238)
女性,大学院 (博士)	(80)

職位が高いほど、趣味学習層、学び直し層ともに多い。

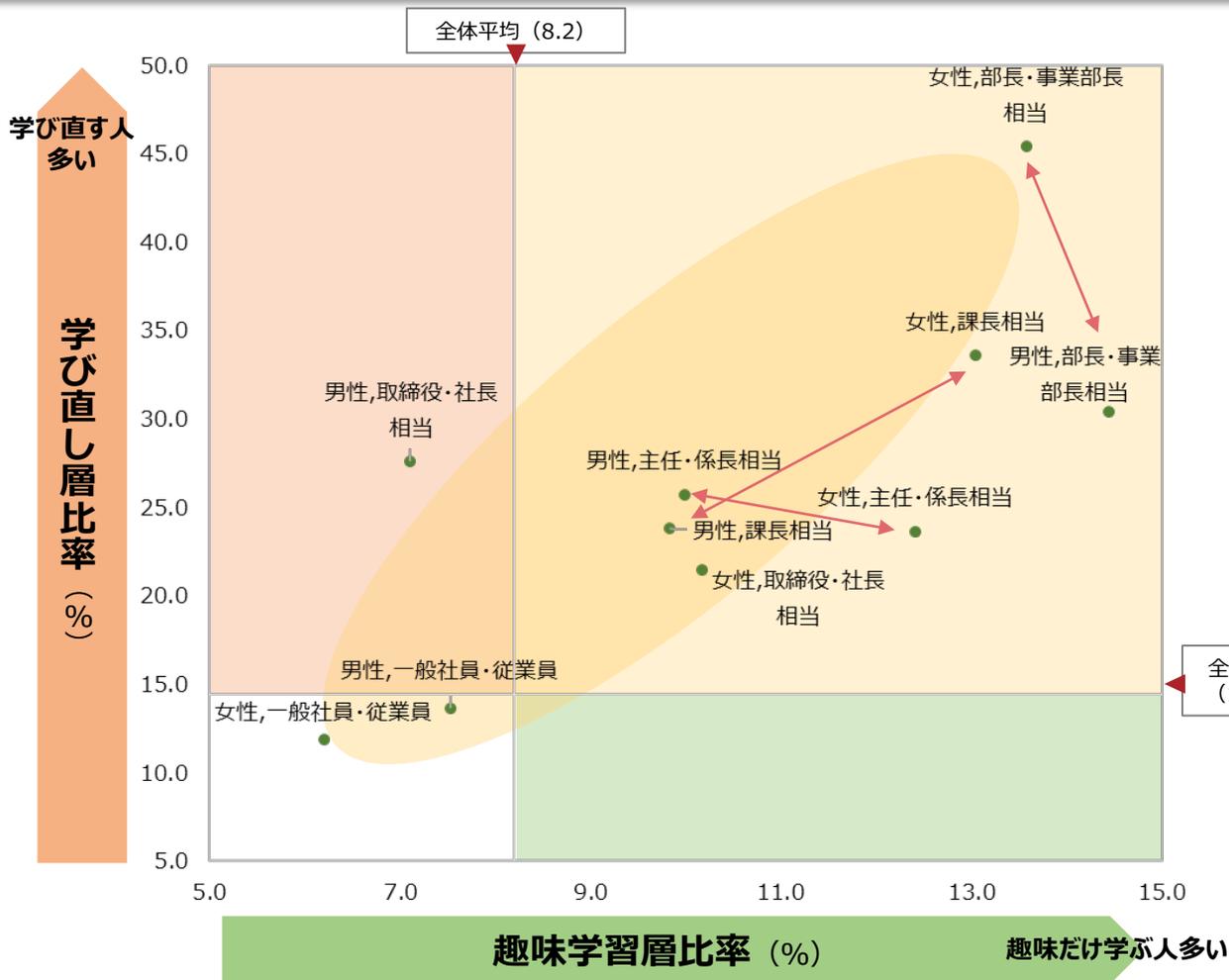
女性の「部長・事業部長相当」は男性の同職位に比べ学び直し層が多く、

女性の「課長相当」「主任・係長相当」は男性の同職位に比べ趣味学習層が多い傾向がある。

ウェイトバック処理

※正社員、公務員、専門家、  
自営業に限定  
n=5,353  
(「その他管理職」除外)

※学び直し層には、学び直し  
と趣味学習両方実施者を含む



【凡例】

学び直し層が多い	どちらも多い
どちらも少ない	趣味学習層が多い

サンプル数

男性,一般社員・従業員	(1,674)
男性,主任・係長相当	(703)
男性,課長相当	(538)
男性,部長・事業部長相当	(277)
男性,取締役・社長相当	(337)
女性,一般社員・従業員	(1,431)
女性,主任・係長相当	(232)
女性,課長相当	(58)
女性,部長・事業部長相当	(38)
女性,取締役・社長相当	(65)

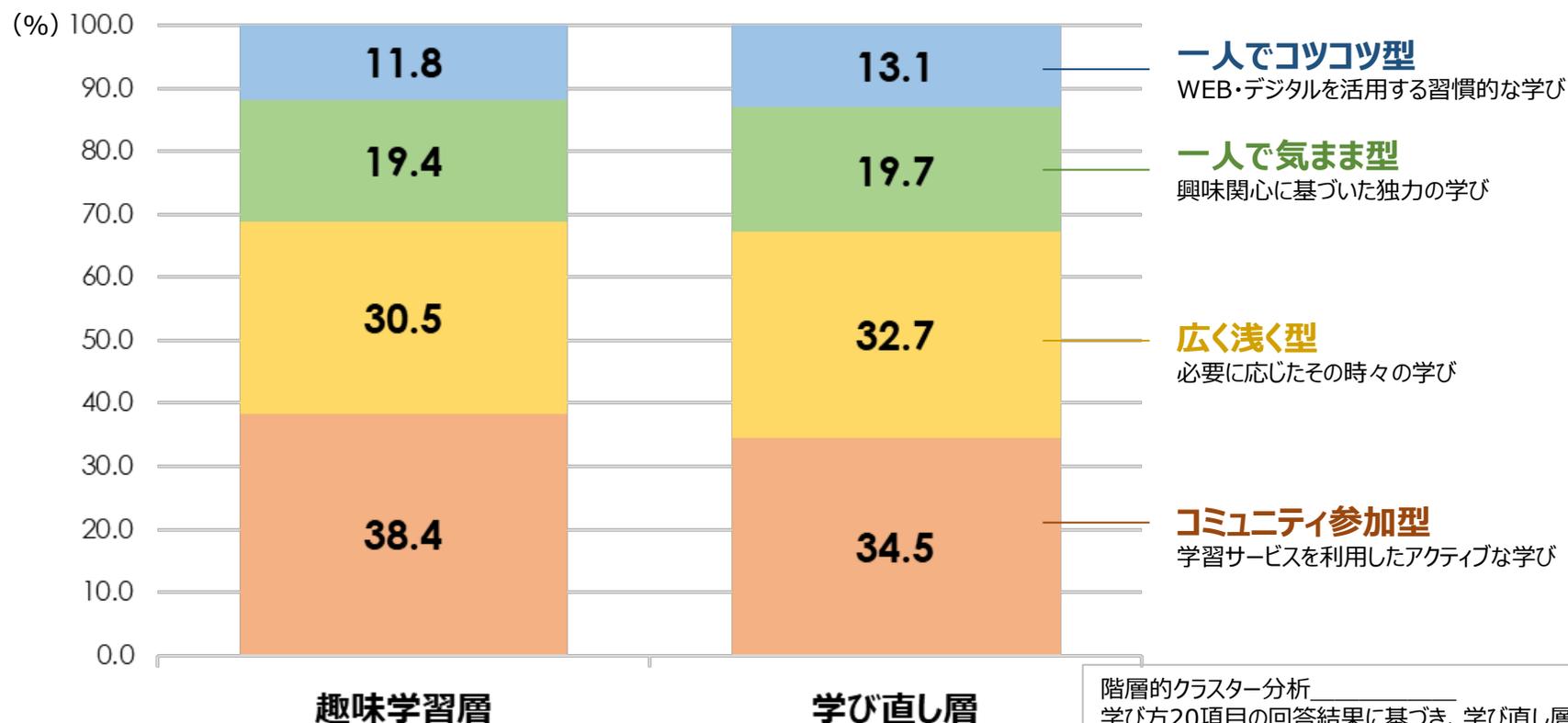
ミドル・シニア就業者の約半数を占める不活性層と比べ、趣味学習層、学び直し層の社会的属性の特徴を確認した。類似点も多いが、趣味学習層特有の特徴として、「労働時間が短い」就業者や「派遣社員」「公務員・団体職員」に多く、「自営業」「情報通信業」「事務職」には少ない。

不活性層との比較	趣味学習層の特徴	学び直し層の特徴
年代	35～39歳に多い	35～39歳に多く、55～64歳に少ない
雇用形態	派遣社員／公務員・団体職員に多く、 自営業に少ない	自由業／専門家に多く、 パート・アルバイトに少ない
業種	教育・学習支援業に多く、情報通信業に少ない	教育・学習支援業に多い
職種	間接部門に多く、事務職に少ない	情報処理・通信技術／専門・技術／間接部門／ 商品開発・研究／サービス／営業・販売職に多い
最終学歴	高校卒／各種専門学校卒／短期大学卒に少ない	高校／各種専門学校／短期大学卒に少ない
企業規模	特徴なし	企業規模が大きいほど多い
年収	年収が高いほど多い (学び直し層ほど顕著でない)	年収が高いほど多い
労働時間	週当たり勤務時間が短いほど多い	特徴なし

【凡例】■ 趣味学習層に特徴的な項目 ■ 学び直し層に特徴的な項目

※趣味学習層（1）と不活性層（0）、学び直し層（1）と不活性層（0）を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析（変数増加法）で有意な効果が確認された社会的属性を抜粋  
【趣味学習層】n=3556、Cox-Snell R<sup>2</sup> : .066、Nagelkerke R<sup>2</sup> : .090 【学び直し層】n=2893、Cox-Snell R<sup>2</sup> : .167、Nagelkerke R<sup>2</sup> : .223

業務外学習者（趣味学習層・学び直し層）の学び方に基づいて類型化したところ、4つのタイプを導出した。  
 趣味学習層では、「コミュニティ参加型」「広く浅く型」「一人で気まま型」「一人でコツコツ型」は、4 : 3 : 2 : 1の割合。  
 学び直し層と割合はほとんど変わらない。



階層的クラスター分析  
 学び方20項目の回答結果に基づき、学び直し層  
 (n=1800)と趣味学習層(n=2700)を同時に  
 分析し、4つのクラスターに分類  
 ※項目の詳細と得点はAppendix (Page80) 参照

学び方の4タイプの特徴は以下の通り。学習サービスを利用し仲間と学ぶ「コミュニティ参加型」が、最も趣味の学習への投資額が高く、独学・座学で学ぶ「一人で気まま型」が最も少ない。

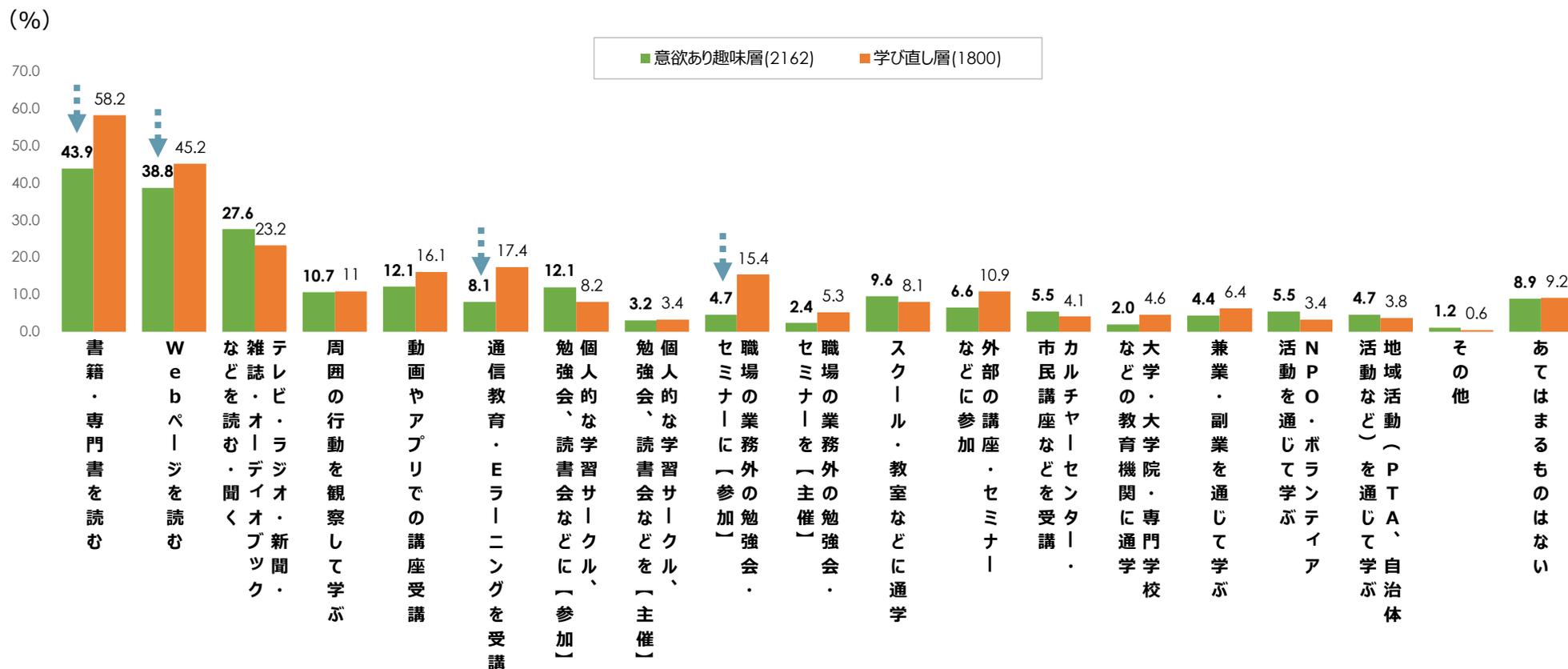
自宅でWEBやデジタルも活用しながら自分のペースで習慣的に学ぶ「一人でコツコツ型」が最も趣味の学習時間・期間が長い。

趣味学習層 n=2,700

	コミュニティ参加型 約4割	広く浅く型 約3割	一人で気まま型 約2割	一人でコツコツ型 約1割
平均学習時間	30分/日	29分/日	28分/日	37分/日
平均学習期間	8.5年	6.6年	7.9年	10.0年
平均投資額	4万6千円	2万7千円	1万6千円	2万3千円

4タイプ中最高・最低項目のうち、特徴的な上位5項目を抜粋(学び直し層を含む)データに基づく	1	仲間と学んでいる	3日坊主になりがちだ	座学で学んでいる	自ら学ぶ内容や順序を決めて学んでいる
	2	人と対話しながら学んでいる	人からの助言や世間のニーズにもとづいて学んでいる	1人で集中して学んでいる	自宅で学んでいる
	3	人から教わりながら学んでいる	学び方はその時々で決めている	独力で学んでいる	自分なりの興味・関心にもとづいて学んでいる
	4	他者からのフィードバックが得られる	自身にとって馴染みのない分野を学んでいる	他者からのフィードバックを得る機会はない	学び方に自分なりのスタイルがある
	5	学習サービス・教育機関を利用して学んでいる	様々な分野を広く浅く学んでいる	1人で学んでいる	WEBやデジタルを活用して学んでいる

意欲あり趣味層の学習方法は、「書籍・専門書を読む」が最も多く、次いで「Webページを読む」であり、学び直し層と同様。学び直し層に比べて、「書籍・専門書」「Webページを読む」「通信教育・Eラーニング受講」「職場の勉強会・セミナー参加」といった座学での学習が少ない。



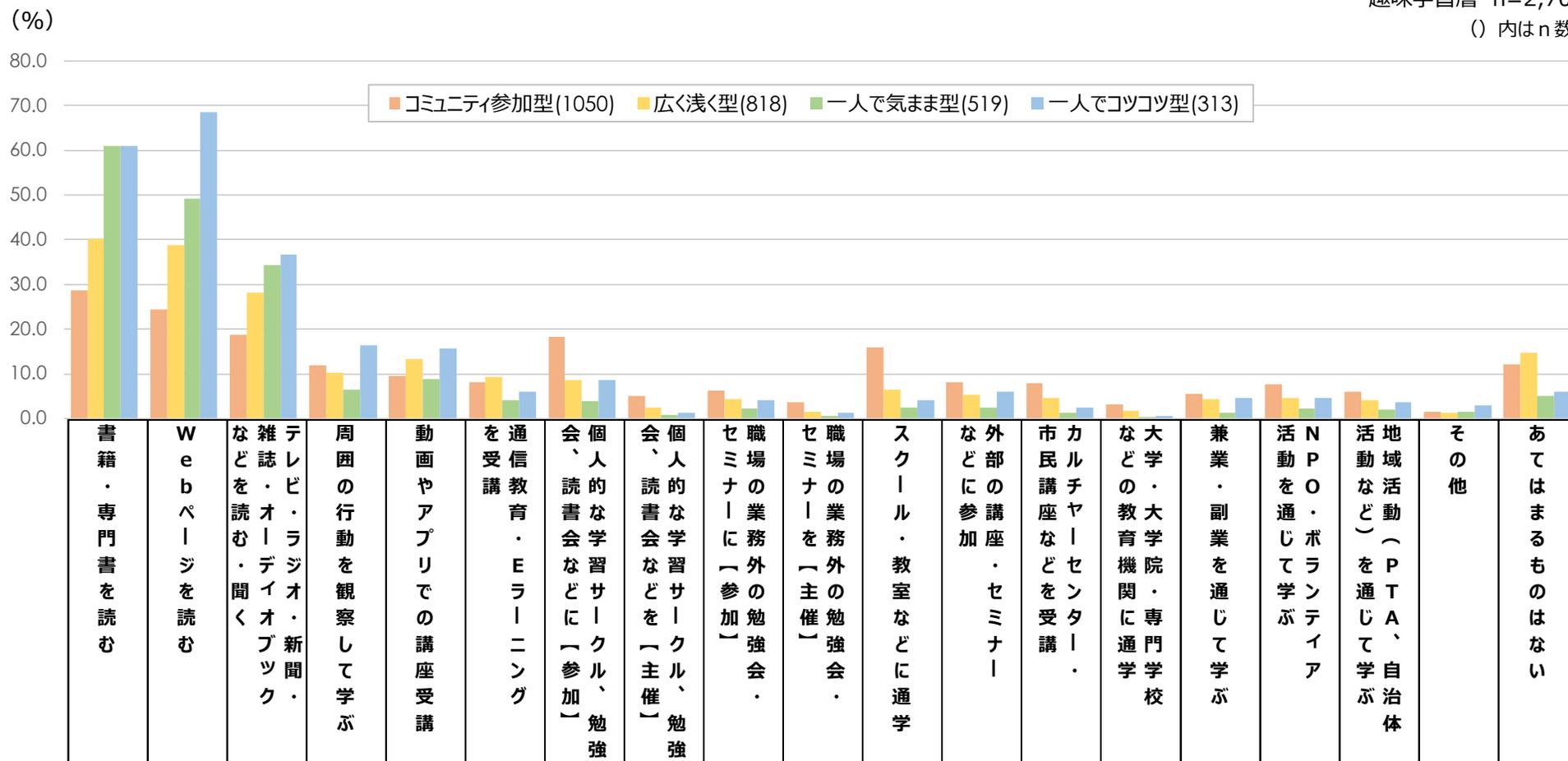
( ) 内はn数

学び方の4タイプごとの学習方法の違いは以下の通り。

コミュニティ参加型は、「個人的な学習サークル」「スクール・教室」「カルチャーセンター・市民講座」などで趣味を学ぶ傾向。一人でコツコツ型は、「Webページを読む」や「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等」「周囲の行動観察」「動画・アプリでの講座受講」などが多い。

趣味学習層 n=2,700

( ) 内はn数



趣味学習層の学び方をみると、男性の40代以上は、「広く浅く型」や「一人でコツコツ型」が多く、60代で顕著。男性シニアは仲間と趣味を学ぶことは少ないことが分かる。学び直し層では、男女ともに、年齢が上がるにつれて「コミュニティ参加型」は減り、一人で行う学びが多くなる傾向。

		趣味学習層 n=2,700					
		(%)	n数	コミュニティ参加型	広く浅く型	一人で気まま型	一人でコツコツ型
男性	35 - 39歳		211	50.7	24.6	17.5	7.1
	40 - 44歳		232	35.3	33.2	19.0	12.5
	45 - 49歳		220	36.4	31.8	18.6	13.2
	50 - 54歳		226	35.4	32.7	18.6	13.3
	55 - 59歳		275	35.3	33.8	17.8	13.1
	60 - 64歳		307	30.3	35.8	18.2	15.6
女性	35 - 39歳		177	36.7	29.4	23.2	10.7
	40 - 44歳		217	44.7	25.3	20.3	9.7
	45 - 49歳		197	40.1	25.9	23.9	10.2
	50 - 54歳		206	40.8	29.1	19.4	10.7
	55 - 59歳		218	44.0	28.0	17.4	10.6
	60 - 64歳		214	42.1	29.4	18.7	9.8

		学び直し層 n=1,800				
		n数	コミュニティ参加型	広く浅く型	一人で気まま型	一人でコツコツ型
	206	41.3	27.7	20.4	10.7	
	226	40.3	27.9	20.8	11.1	
	229	31.9	39.3	19.2	9.6	
	171	30.4	26.3	22.8	20.5	
	148	31.8	31.1	22.3	14.9	
	165	28.5	34.5	18.2	18.8	
	122	39.3	32.8	14.8	13.1	
	141	34.8	39.7	21.3	4.3	
	115	30.4	36.5	22.6	10.4	
	99	32.3	32.3	22.2	13.1	
	84	32.1	34.5	15.5	17.9	
	94	37.2	33.0	11.7	18.1	

【凡例】色が濃いほど多い（4つのタイプそれぞれで色付け）

雇用形態別に趣味学習層の学び方をみると、公務員・団体職員は「コミュニティ参加型」が多く、半数弱を占める。派遣社員は「一人でコツコツ型」が多い傾向。学び直し層をみると、正社員で「コミュニティ参加型」が多いが派遣社員では顕著に少ない傾向。

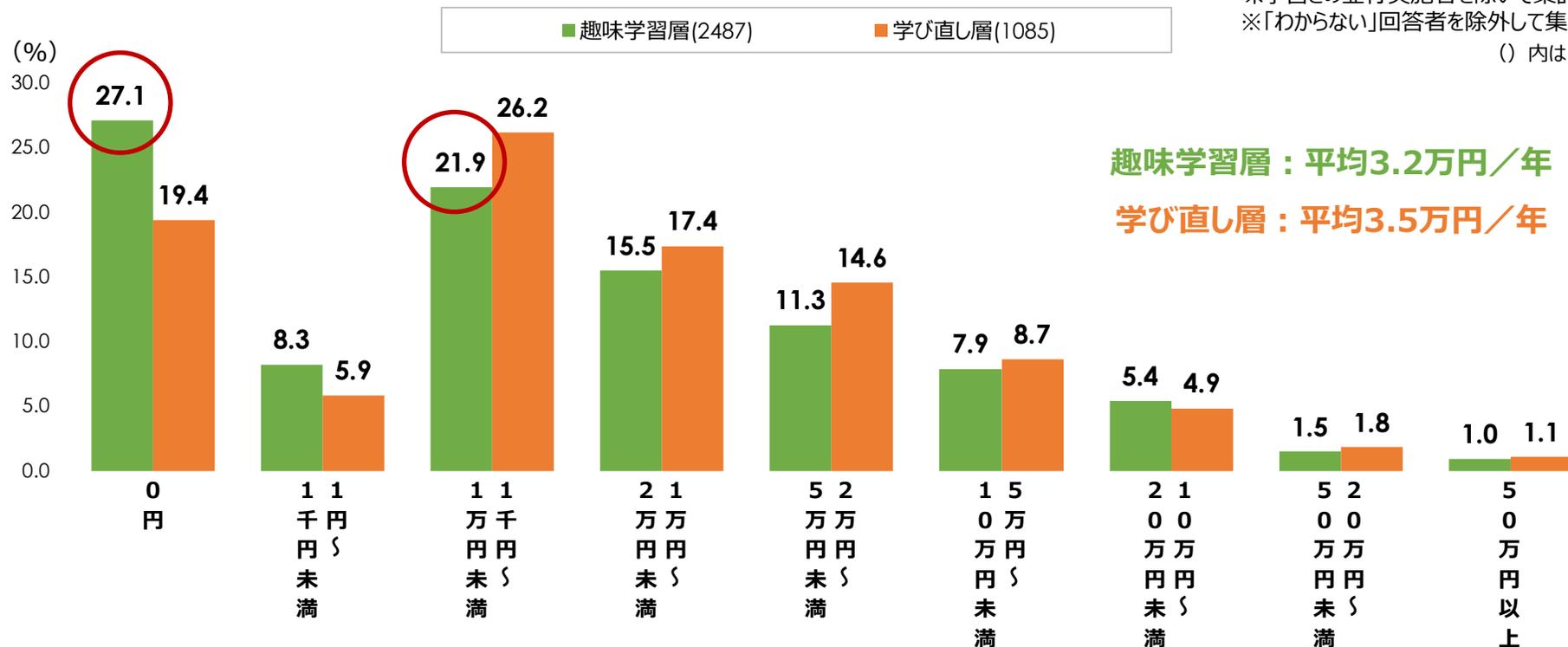
		趣味学習層 n=2,700			
(%)	n数	コミュニティ参加型	広く浅く型	一人で気まま型	一人でコツコツ型
正社員	1,331	37.9	33.3	16.9	11.9
契約社員	152	36.2	31.6	18.4	13.8
派遣社員	121	37.2	25.6	18.2	19.0
嘱託社員	39	30.8	38.5	20.5	10.3
公務員・団体職員	245	44.1	25.7	18.4	11.8
専門家	53	37.7	30.2	26.4	5.7
自営業	151	35.8	36.4	16.6	11.3
自由業	48	37.5	25.0	31.3	6.3
パート・アルバイト	560	41.8	24.1	24.5	9.6

		学び直し層 n=1,800			
n数	コミュニティ参加型	広く浅く型	一人で気まま型	一人でコツコツ型	
1,120	36.9	33.1	18.7	11.3	
66	28.8	27.3	28.8	15.2	
32	12.5	37.5	31.3	18.8	
6	0.0	33.3	50.0	16.7	
138	33.3	38.4	13.8	14.5	
72	30.6	27.8	22.2	19.4	
144	34.0	27.8	19.4	18.8	
47	23.4	40.4	10.6	25.5	
175	32.6	30.3	26.3	10.9	

【凡例】色が濃いほど多い（4つのタイプそれぞれで色付け）

趣味学習層の学習への投資額（年間）をみると、「0円」が27.1%と最も多く、次いで「1千円～1万円未満」が21.9%。

学び直しと比べ、学習への投資額はやや少ない傾向。

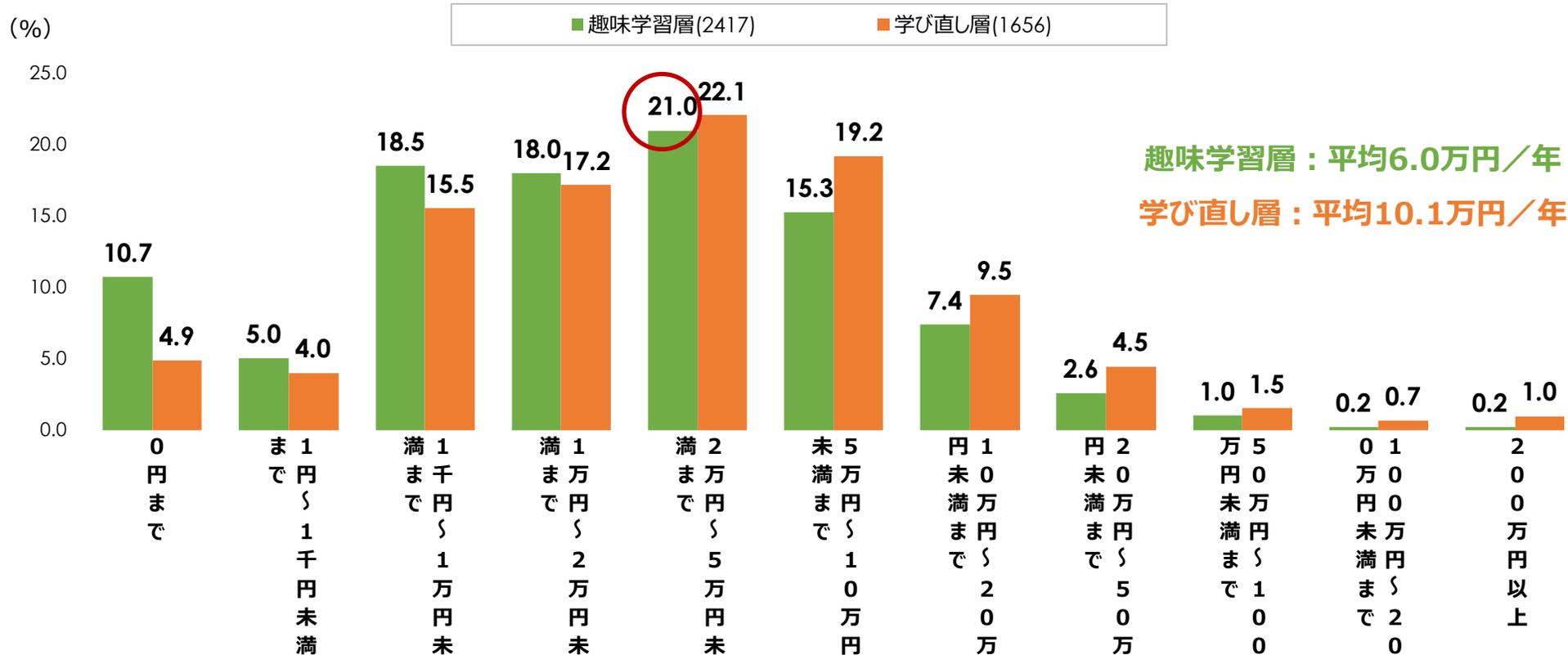


※学び直し層は、設問設計の都合上、趣味学習との並行実施者を除いて集計  
 ※「わからない」回答者を除外して集計  
 ( ) 内はn数

趣味学習層の学習への許容投資額（年間）をみると、「2万円～5万円未満まで」が21.0%と最も多い。

学び直しと比べ、学習への許容投資額は少ない傾向。

※「わからない」回答者を除外して集計  
( ) 内はn数



# ミドル・シニアの趣味の学習の効果 〈仕事・収入面〉

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

パーソル 総合研究所

趣味の学習を通じて、仕事や収入の面でどのような効果を実感しているかを見た。「人間関係が広がった」は約半数が実感。

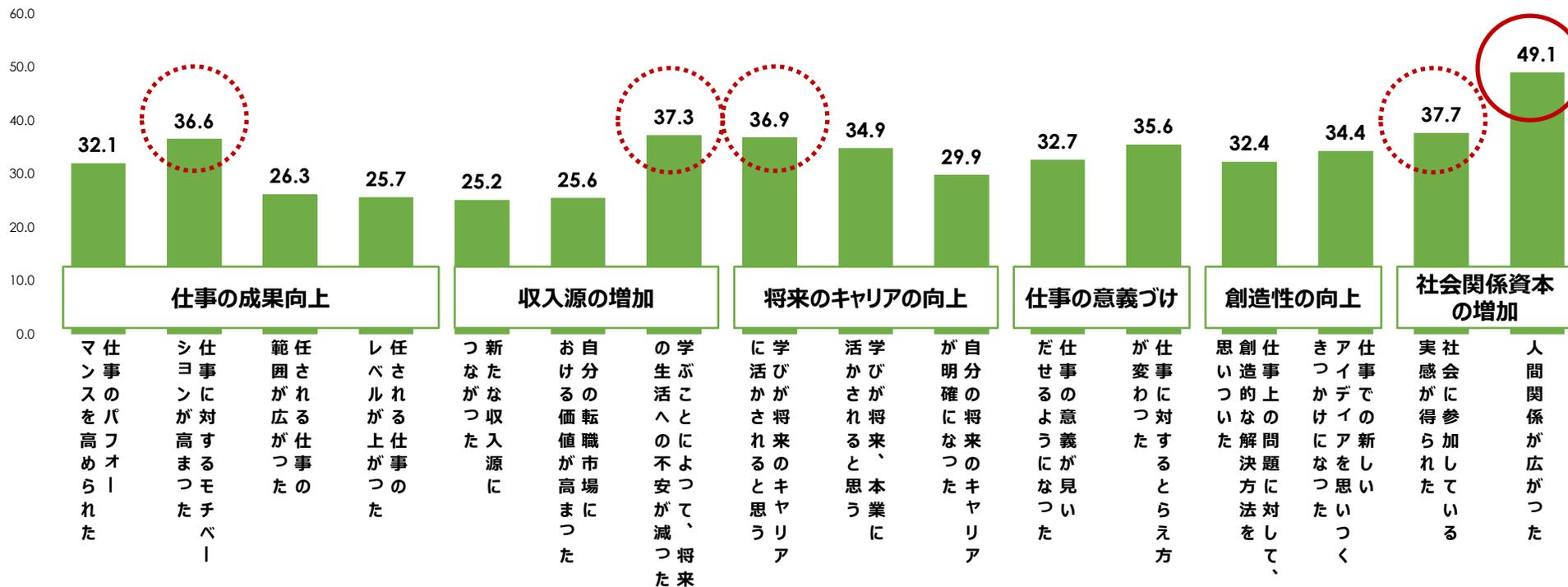
次いで、「社会に参加している実感が得られた（37.7%）」「将来の生活への不安が減った（37.3%）」が多い。

社会関係資本の増加だけでなく、約4割は将来の生活やキャリア、仕事のモチベーションへの効果を感じている。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

趣味学習層 n=2700

(%)

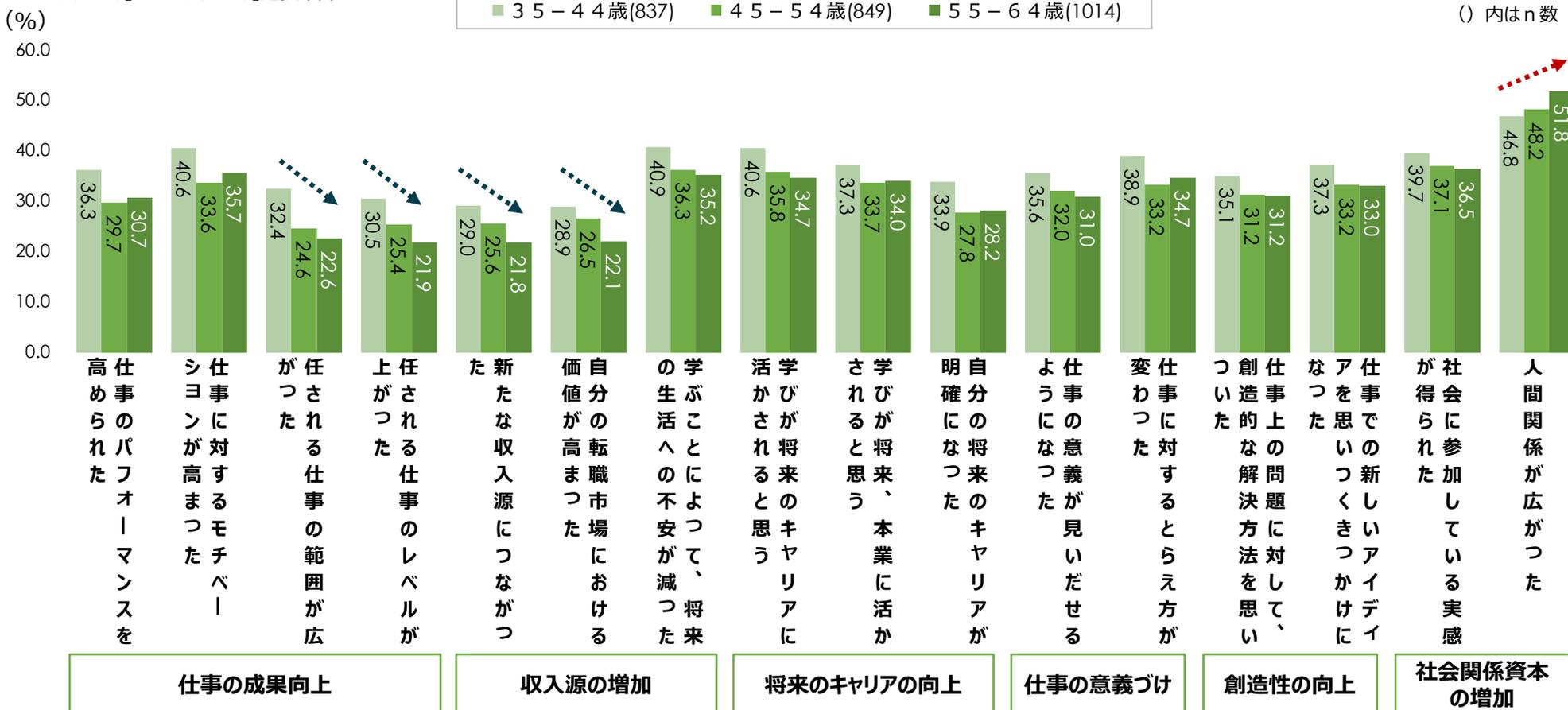


趣味の学習を通じて仕事や収入への効果を実感することは、年代が上がるにつれ減少。「人間関係が広がった」効果は増える傾向。年代が上がるにつれ、仕事や収入への効果から、生活の充実へと関心が移っていると考えられる。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

趣味学習層 n=2700

( ) 内はn数



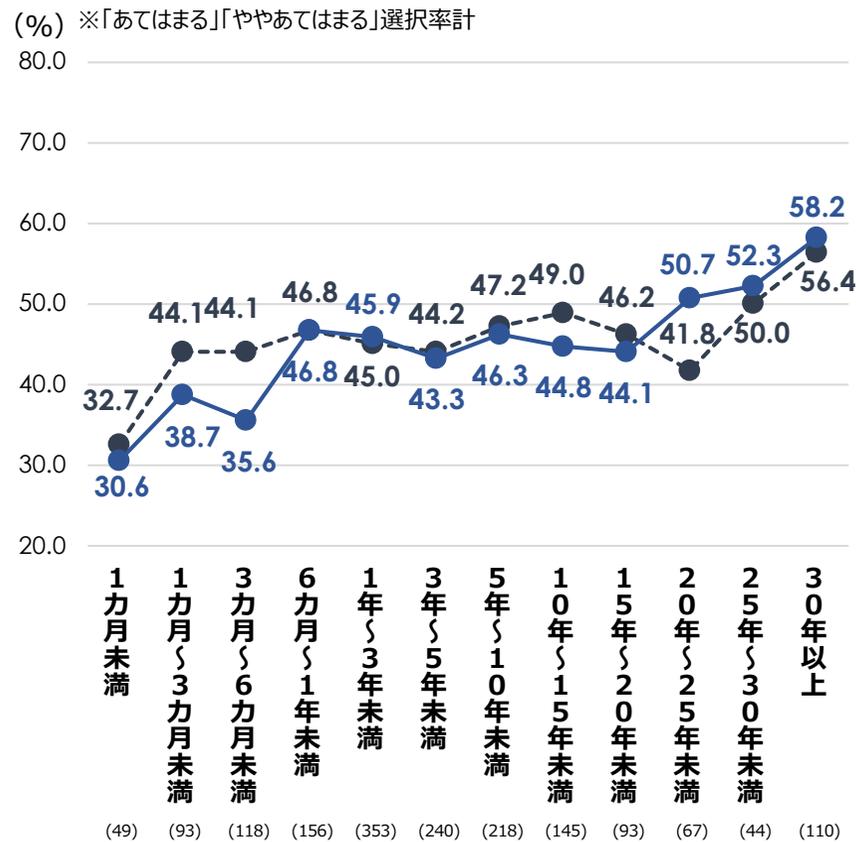
趣味の学習の継続期間が長いほど、学習によって「人間関係が広がった」と実感する人が増える傾向がある。

学び直し層に比べ、この効果はやや強い傾向がある。

## 趣味学習層

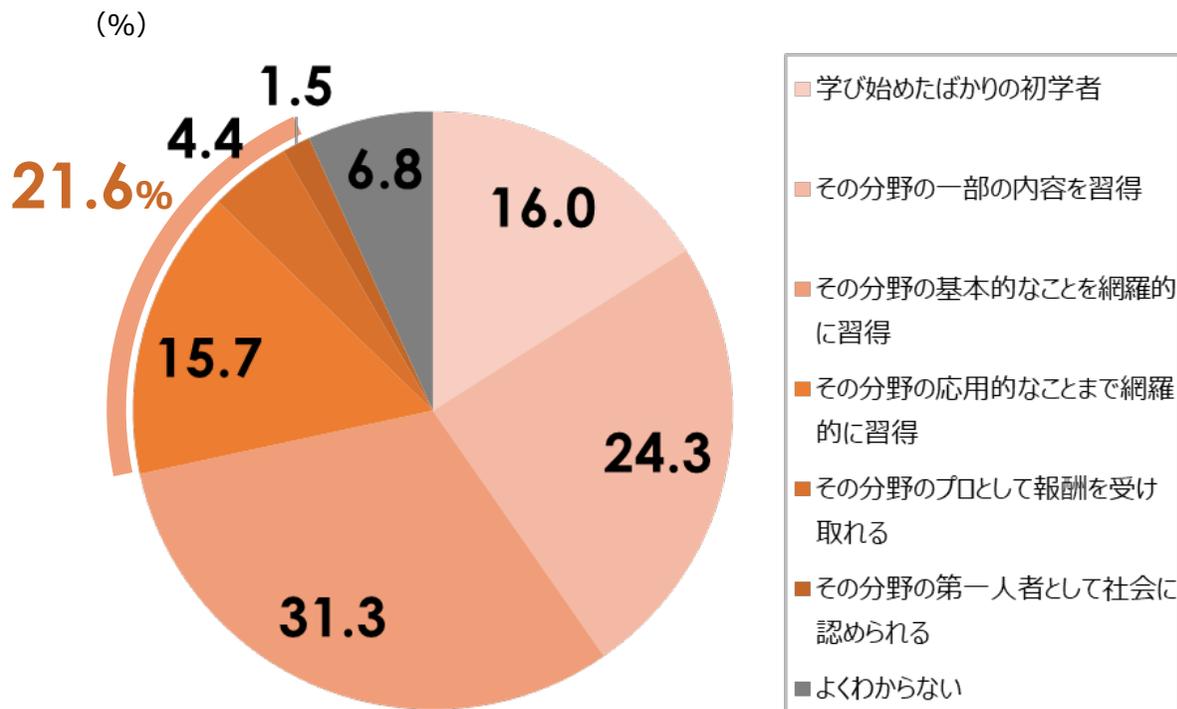


## 学び直し層



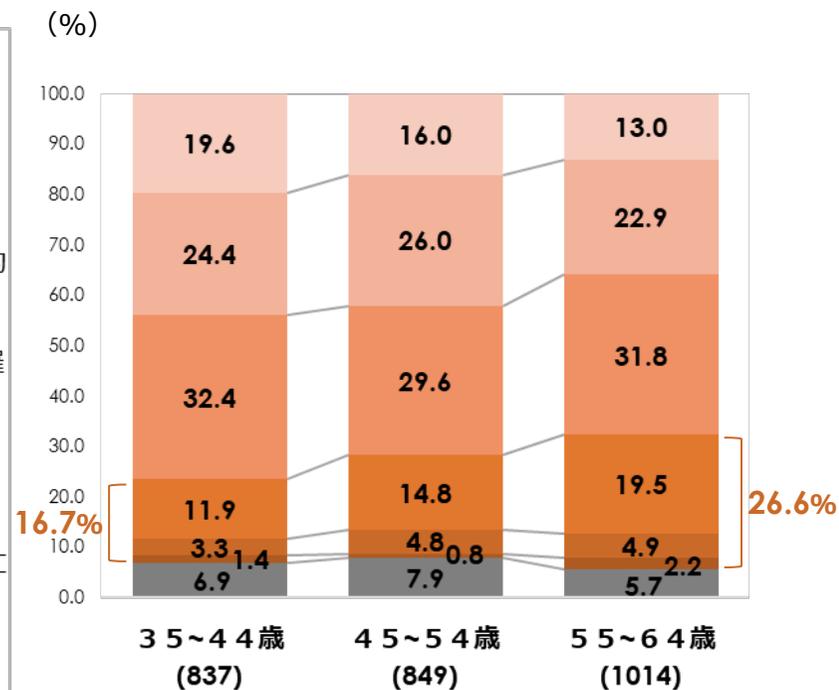
趣味学習の習熟度についてたずねると、「その分野の応用的なことまで網羅的に習得」以上の習熟度と答えた割合は21.6%、55歳～64歳のシニア世代では26.6%と、年代が高いほど趣味の習熟度はやや高い傾向がある。

全体



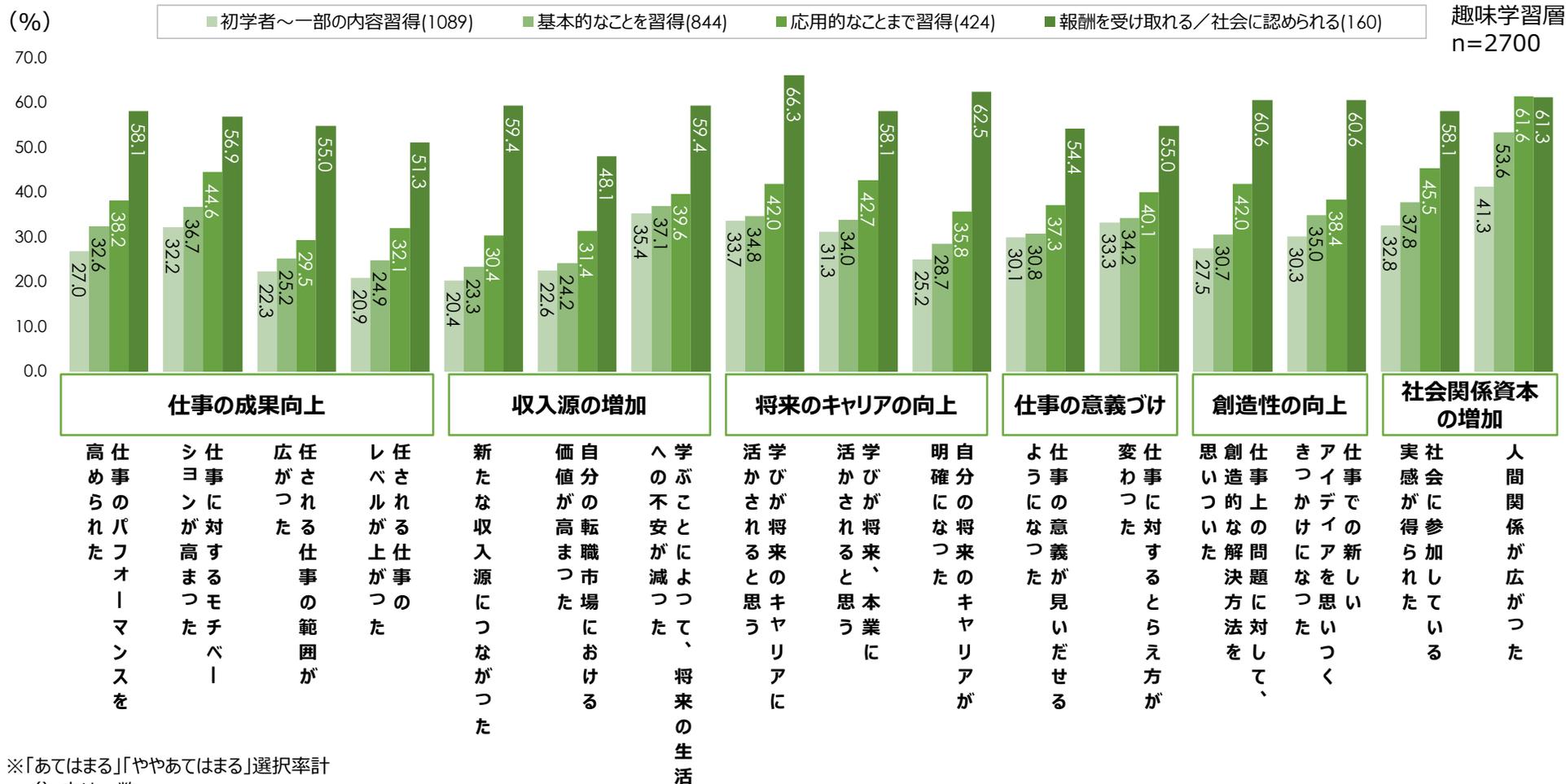
趣味学習層 n=2,700

年代別



( ) 内はn数

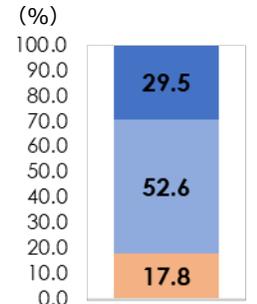
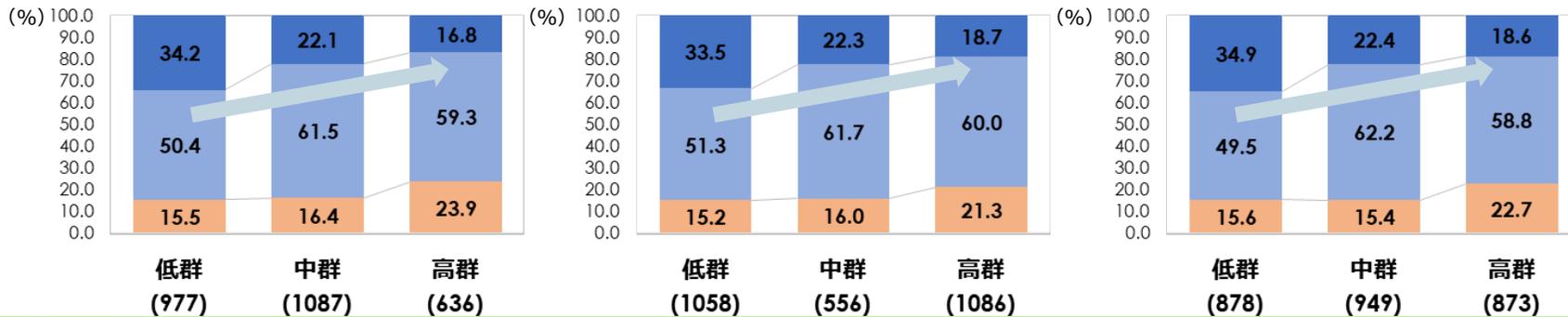
趣味の学習の習熟度が高いほど、仕事や収入への波及効果を感じている割合が高い。習熟度が「報酬を受け取れる／社会に認められる」以上と答えたミドル・シニア就業者（趣味学習層の6%）は、半数以上が仕事や収入への効果を実感。



趣味の学習を通じて、「仕事の成果向上」や「収入源の増加」といった仕事や収入への波及効果を実感しているミドル・シニア就業者ほど、将来のキャリアや収入への不安感は全くないとする層の割合が高くなる。

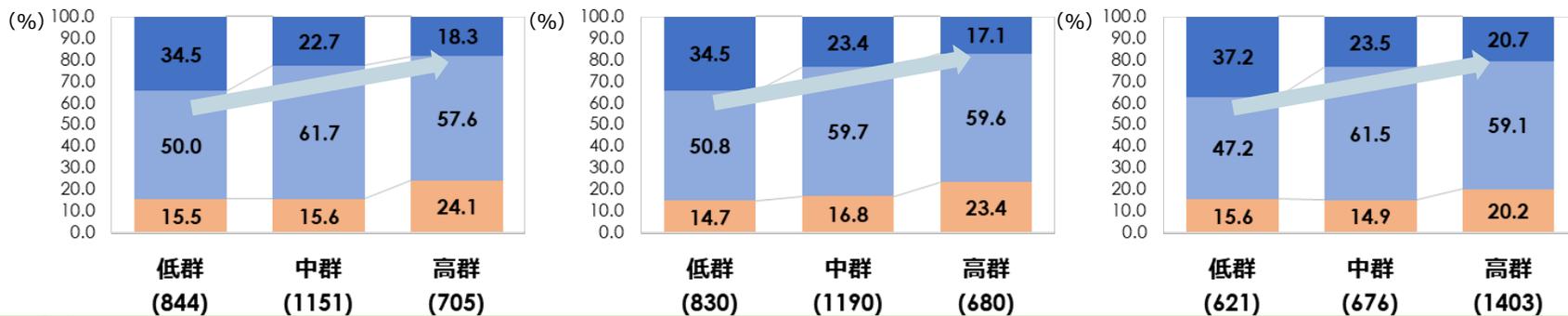
■ 将来の収入やキャリアへの不安は全くない ■ 将来の収入やキャリアに漠然とした不安感がある ■ 将来の収入やキャリアに強い危機感を持っている

趣味学習層  
n=2700



全体(9000)

※ウェイトバック処理



( ) 内はn数

※重回帰分析によって、性別・年代・雇用形態・業種・職種・企業規模・年収を統制しても、趣味学習による仕事の成果向上、収入源の増加、社会関係資本の増加がキャリア不安を有意に抑制(調整済R<sup>2</sup>値：.077、ステップワイズ法)。

学び方のタイプにより、学習効果は異なる。趣味学習層は「コミュニティ参加型」が仕事や収入への効果を実感しやすく、特に「社会関係資本の増加」の実感度が高い。仲間と趣味について学ぶ活動は、仕事や収入にもつながりやすいことが分かる。学び直し層は「一人でコツコツ型」も仕事や収入への効果実感が高く、趣味学習層とは異なる。

## 趣味学習層

n=2,700

(pt) ※ 1～4 pt	一人でコツ コツ型 (313)	コミュニティ 参加型 (1050)	広く浅く型 (818)	一人で気ま ま型 (519)
仕事の成果向上	1.88	2.31	2.03	1.57
収入源の増加	1.95	2.25	1.99	1.59
将来のキャリアの向上	2.05	2.34	2.11	1.68
仕事の意義づけ	2.02	2.33	2.12	1.66
創造性の向上	2.03	2.33	2.09	1.64
社会関係資本の増加	2.14	2.69	2.22	1.70

## 学び直し層

n=1,800

(pt) ※ 1～4 pt	一人でコツ コツ型 (236)	コミュニティ 参加型 (621)	広く浅く型 (588)	一人で気ま ま型 (355)
仕事の成果向上	2.80	2.80	2.44	2.11
収入源の増加	2.38	2.68	2.28	1.89
将来のキャリアの向上	2.96	2.91	2.58	2.36
仕事の意義づけ	2.81	2.84	2.48	2.14
創造性の向上	2.83	2.79	2.44	2.11
社会関係資本の増加	2.37	2.80	2.28	1.76

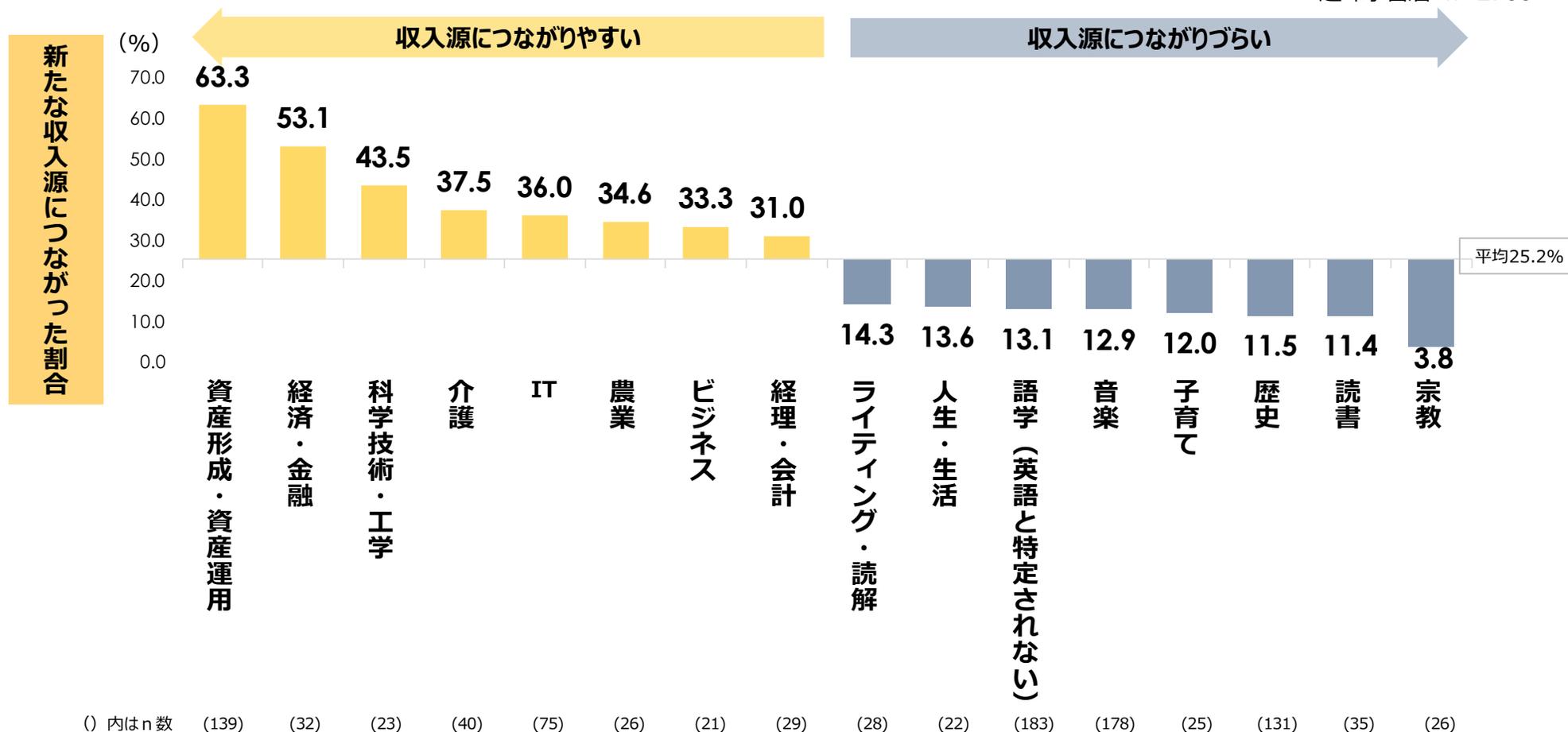
【凡例】数値が高いほど、濃色で色付け

( ) 内はn数

「新たな収入源につながった」割合が多い趣味の学習内容は、「資産形成・資産運用」「経済・金融」「科学技術・工学」「介護」等。  
「宗教」「読書」「歴史」などは収入源につながっている割合が少ない。

※肯定回答率が高い上位8項目と、下位8項目を抜粋（実施者が20人未満の項目を除く）

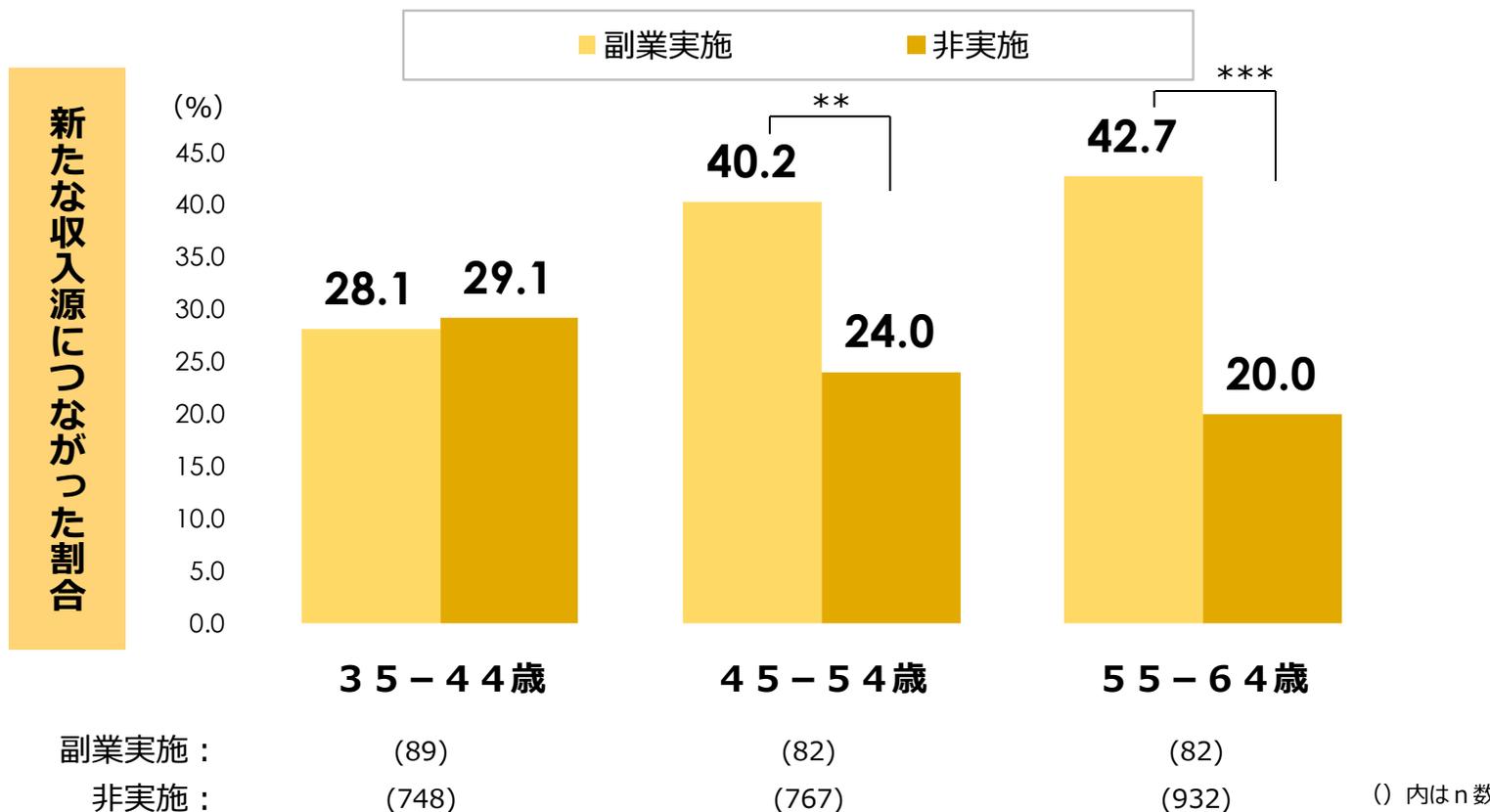
趣味学習層 n=2700



( ) 内はn数

45歳以上では、副業を実施している趣味学習層は、趣味学習が「新たな収入源につながった」割合が4割超と高い。ミドルの後半～シニア就業者では、副業を通じて趣味の学習を収入源につなげようとする人が多い可能性がうかがえる。

趣味学習層 n=2,700



\*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

# ミドル・シニアの趣味の学習の効果 〈心理面〉

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

パーソル 総合研究所

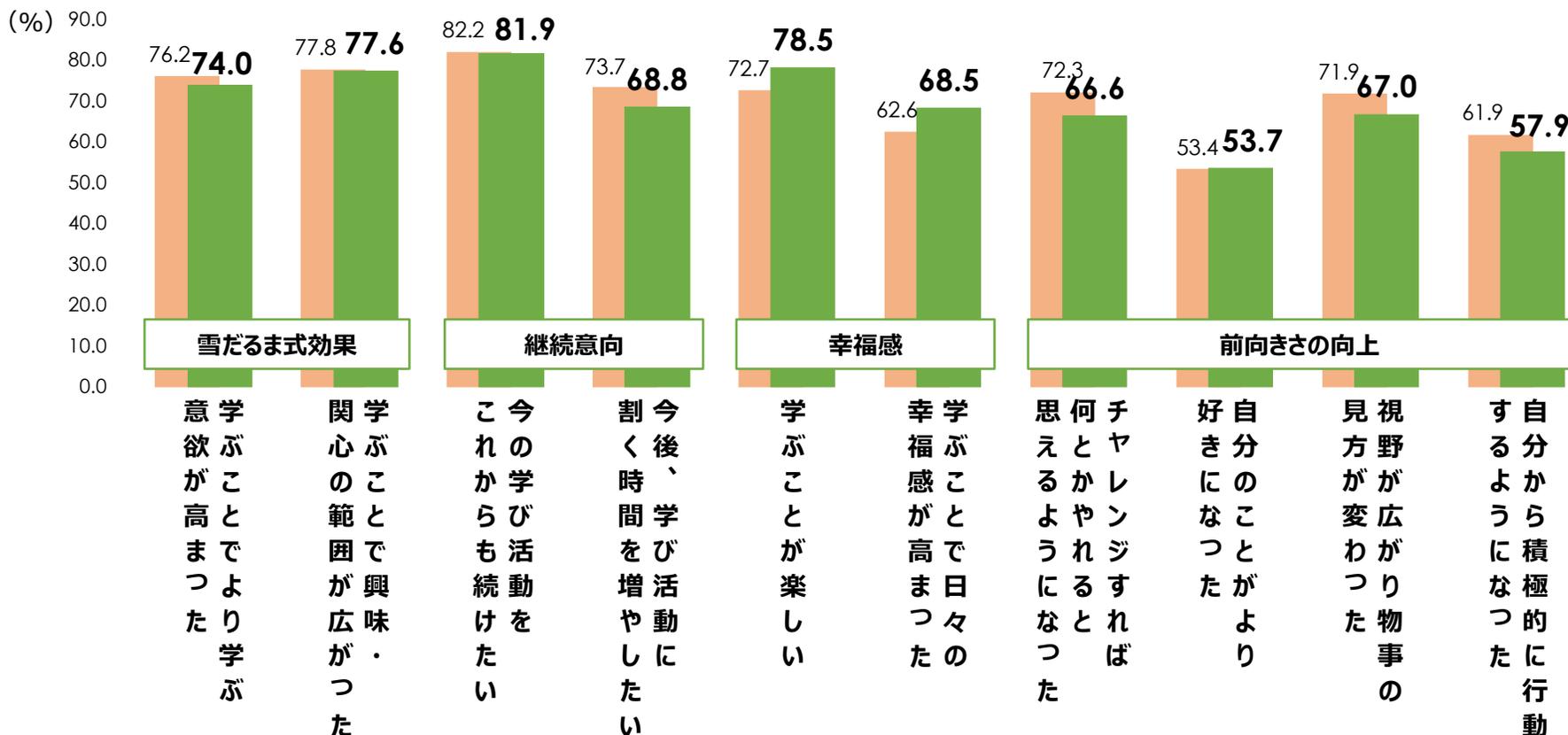
趣味の学習によってグラフ項目にあるような心理的効果を感じているミドル・シニア就業者の割合は、学び直し層とほぼ変わらない。  
約8割が趣味の学びを継続したい意向を持ち、学ぶことが楽しいと感じている。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

■ 学び直し層(1800)

■ 趣味学習層(2700)

( ) 内はn数

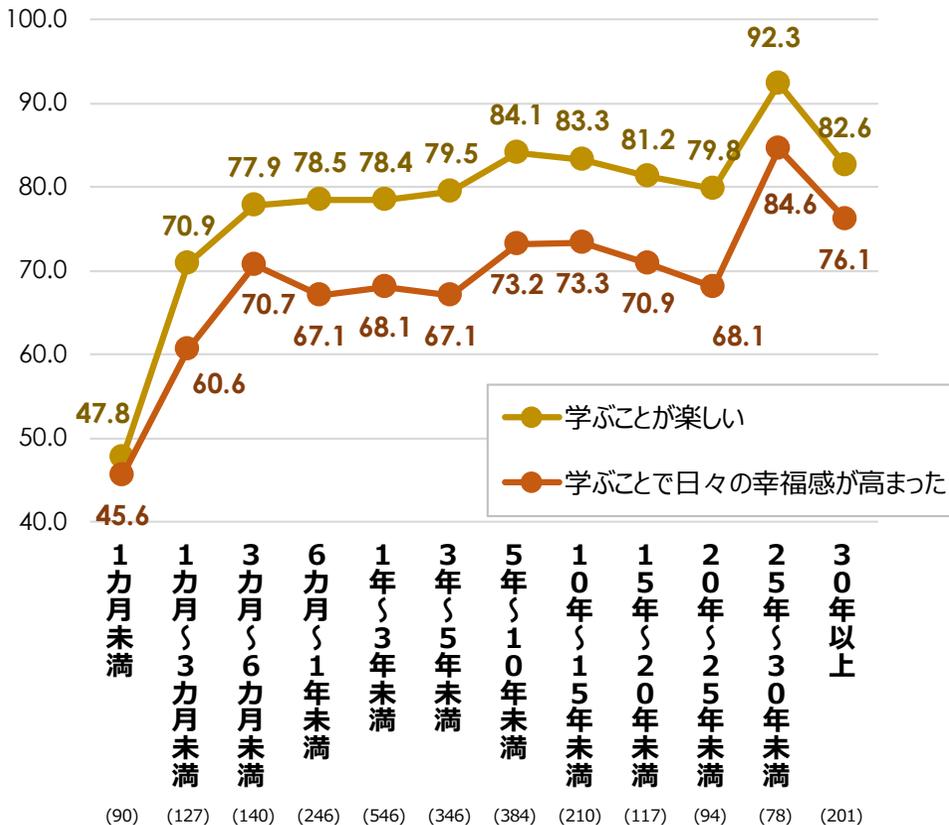


趣味の学習による「幸福感」は、仕事・キャリアに関する学び直しと比べ、学習期間の浅いうちから感じられる傾向がある。  
まずは幸福感を感じやすい趣味の学習に取り組むことを通じて、学習行為への抵抗感をなくすことが期待できると考えられる。

## 趣味学習層

n=2,700

(%) ※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

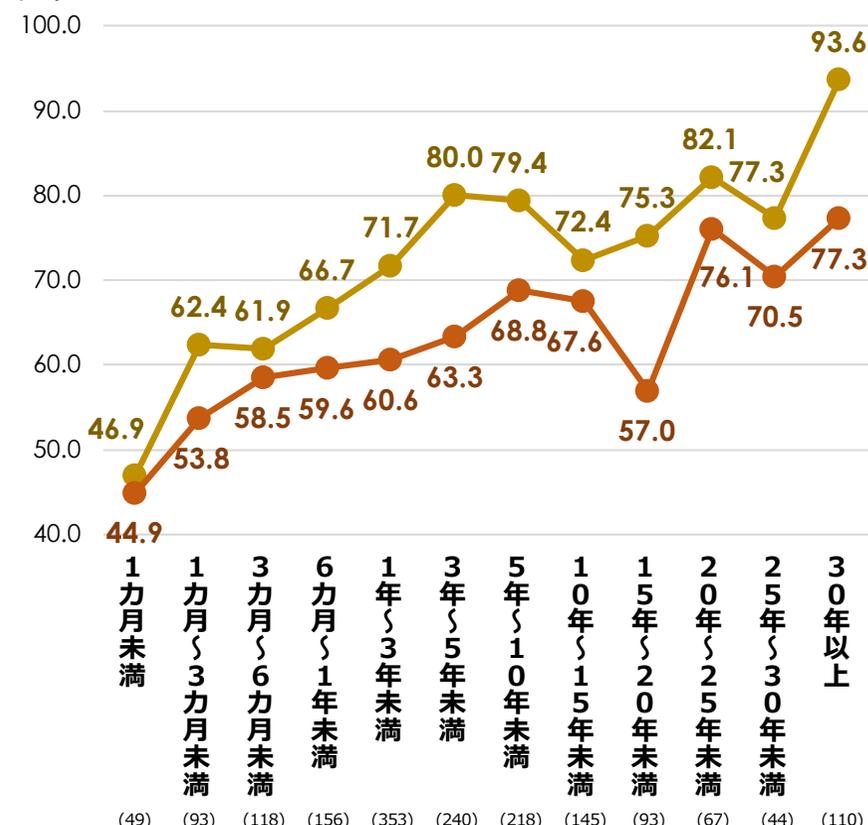


( ) 内はn数

## 学び直し層

n=1,800

(%) ※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計



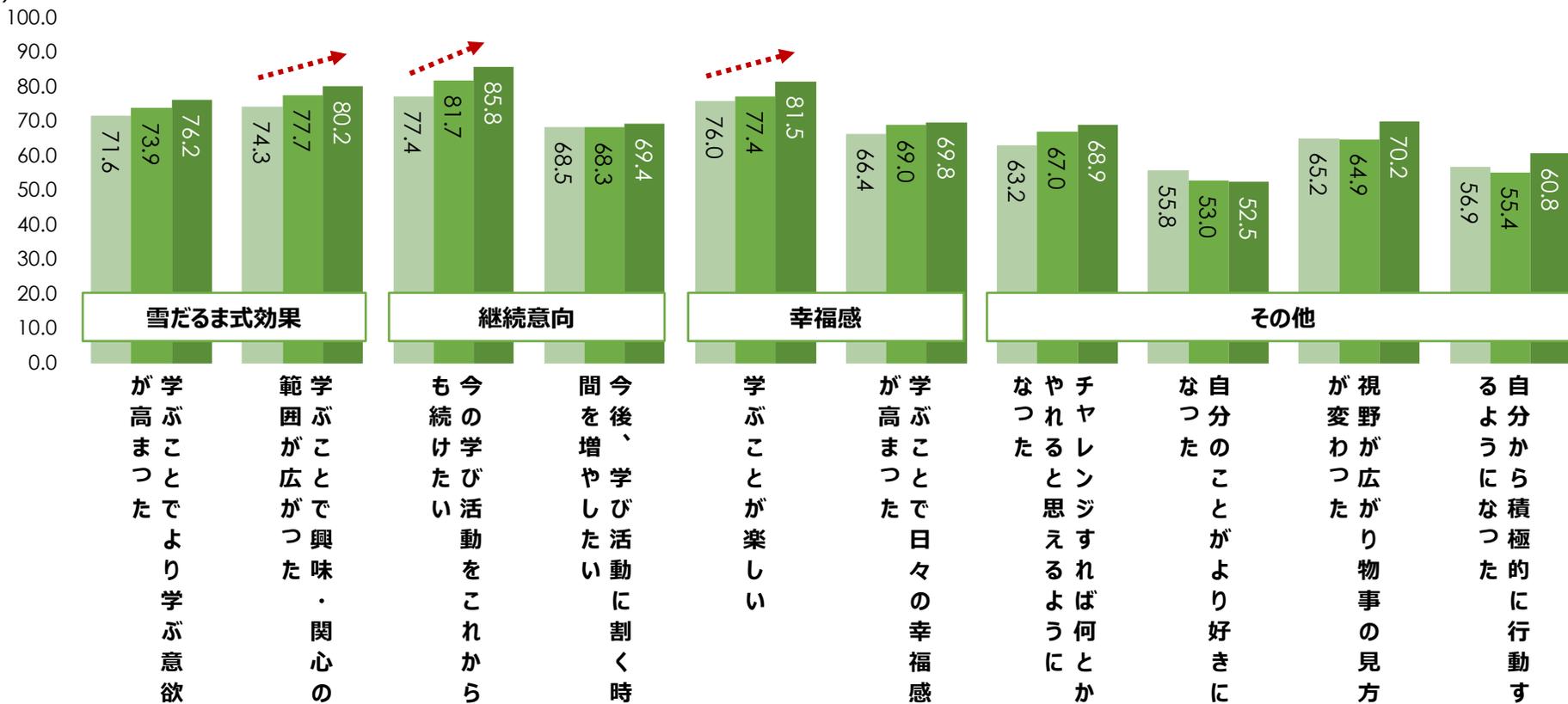
趣味の学習の「継続意向」や「幸福感」は、年代が上がるにつれやや高まる傾向がある。

シニア就業者は、趣味の学習から幸福感を得ている人が多いことがうかがえる。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計 (%)

■ 35 - 44歳(837) ■ 45 - 54歳(849) ■ 55 - 64歳(1014)

趣味学習層  
n=2700

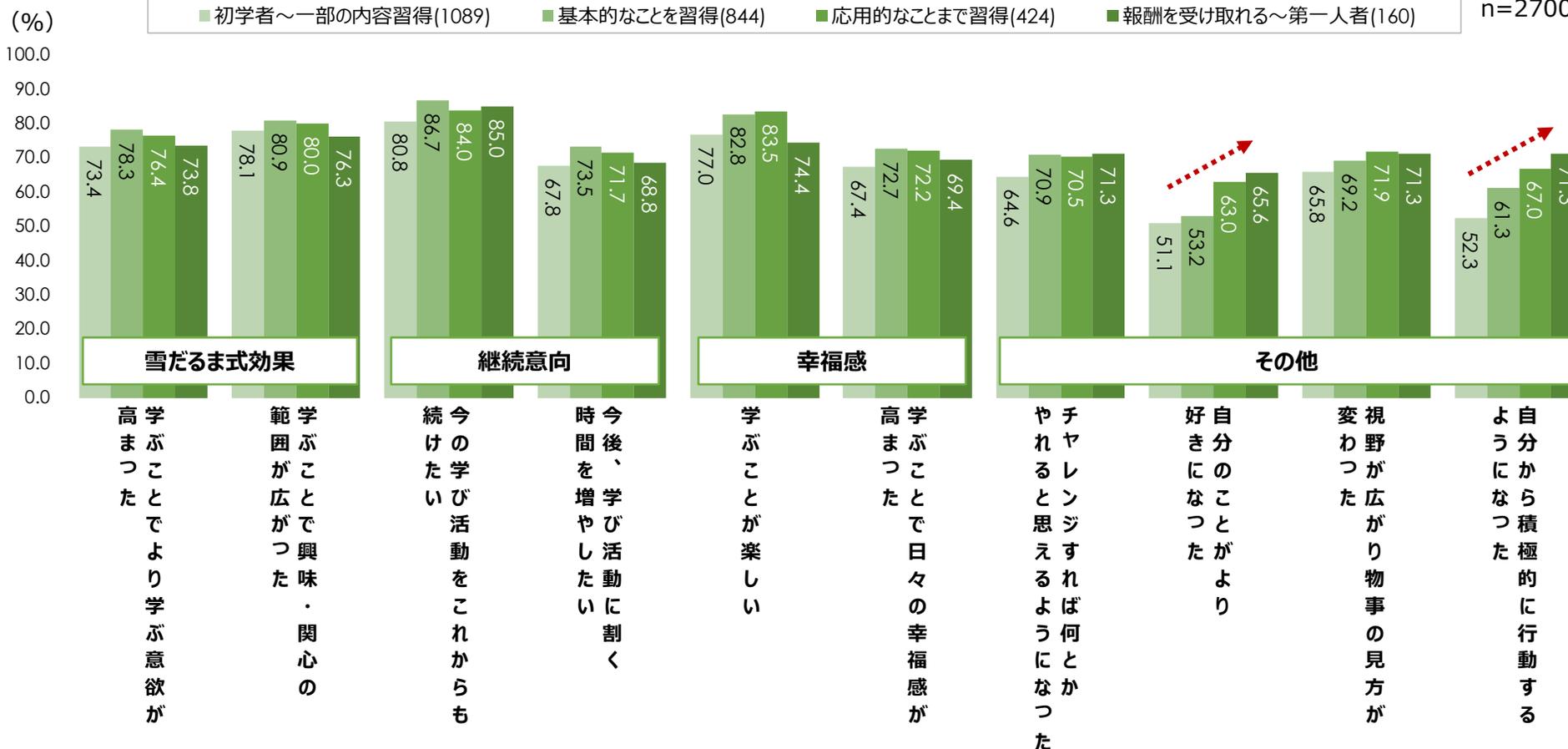


( ) 内はn数

「雪だるま式効果」「幸福感」といった趣味の学習を通じた心理的効果は、趣味の習熟度とは関係なく実感されている傾向。  
 ただし、「自分のことがより好きになった」「自分から積極的に行動するようになった」は、習熟度が高いほど増加。

※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

趣味学習層  
n=2700



( ) 内はn数

趣味学習層・学び直し層ともに、「一人でコツコツ型」が最も学習の「継続意向」や学習による「幸福感」などの心理的効果を強く感じている傾向。次いで、「コミュニティ参加型」が高い。

## 趣味学習層

n=2,700

(pt) ※ 1～4 pt	一人でコツ コツ型 (313)	コミュニティ 参加型 (1050)	広く浅く型 (818)	一人で気ま ま型 (519)
雪だるま式効果	3.17	2.97	2.74	2.90
継続意向	3.27	2.98	2.77	2.98
幸福感	3.19	2.97	2.72	2.83
前向きさの向上	2.91	2.83	2.56	2.42

## 学び直し層

n=1,800

(pt) ※ 1～4 pt	一人でコツ コツ型 (236)	コミュニティ 参加型 (621)	広く浅く型 (588)	一人で気ま ま型 (355)
雪だるま式効果	3.24	3.00	2.80	2.80
継続意向	3.24	3.00	2.83	2.94
幸福感	3.05	2.92	2.66	2.65
前向きさの向上	2.97	2.93	2.61	2.44

【凡例】数値が高いほど、濃色で色付け

()内はn数

# 意欲あり趣味層と学び直し層の類似点

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

パーソル 総合研究所

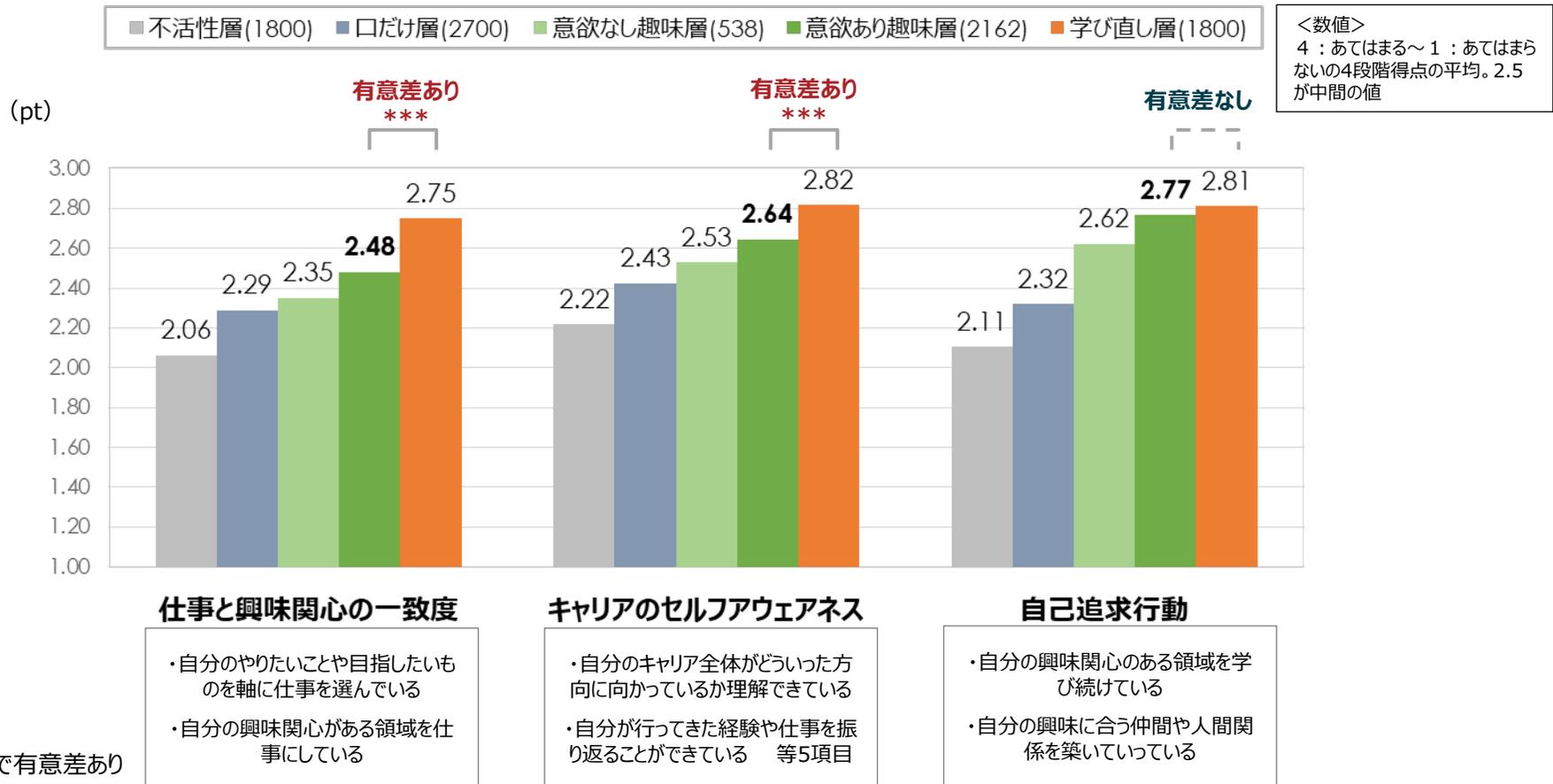
ミドル・シニア就業者の学び直しを促進する要因<sup>※</sup>を、意欲あり趣味層（学び直す意欲はあるが趣味の学習だけしている）と学び直し層の間で比較すると、以下の通り。意欲あり趣味層は、多くの要因を学び直し層と同程度持っており、差がある要因も他の層よりは持つ。

### 学び直しの促進要因をどれだけ持っているかを、意欲あり趣味層と学び直し層で比較した結果

		学び直し層との一致点	類似点（学び直し層よりは低い、他の層に比べ高い）
個人特性	キャリア意識	「自己追求行動（興味関心を追求する行動）」が高い	「仕事と興味関心の一致度」や「キャリアのセルフアウェアネス」が高い
	学び直しマインド	「エンジョイメント（何事も楽しむマインド）」が高い	「好奇心」「いけ図々しさ」「自己効力感」が高い
	人間関係	刺激を受けられる知り合いが多い	-
過去経験		-	学生時代：自主的に勉強していた人が多い 20代：業務外学習や、プロジェクトを率いた経験が多い 社会人全体：通常業務とは異なるプロジェクトへの参加や部下や後輩の育成経験が多い
人材マネジメント要因	上司	上司が仕事関連の学びに熱心	-
	職務特性	（主観的な感覚として）仕事の負荷が低い	成果の明確さ、技能の高度さ、クリエイティビティが多い
	人事管理	職務範囲が無限定	所属組織の育成の手厚さやキャリアの透明性が高い
	学習風土	自由に副業・兼業ができる	所属組織に学び直しに積極的な従業員や、職場外のセミナーや勉強会への参加奨励が多い
	研修訓練	-	技能研修やキャリア研修、自己啓発支援の経験率が多い

※口だけ層と学び直し積極層の比較分析により導出。

意欲あり趣味層は、学び直す意欲や行動を高める「仕事と興味関心の一致度」「キャリアのセルフアウェアネス」「自己追求行動」のいずれも、他の分類に比べれば学び直し層に最も近い。  
特に、「自己追求行動」は、学び直し層と差がない。



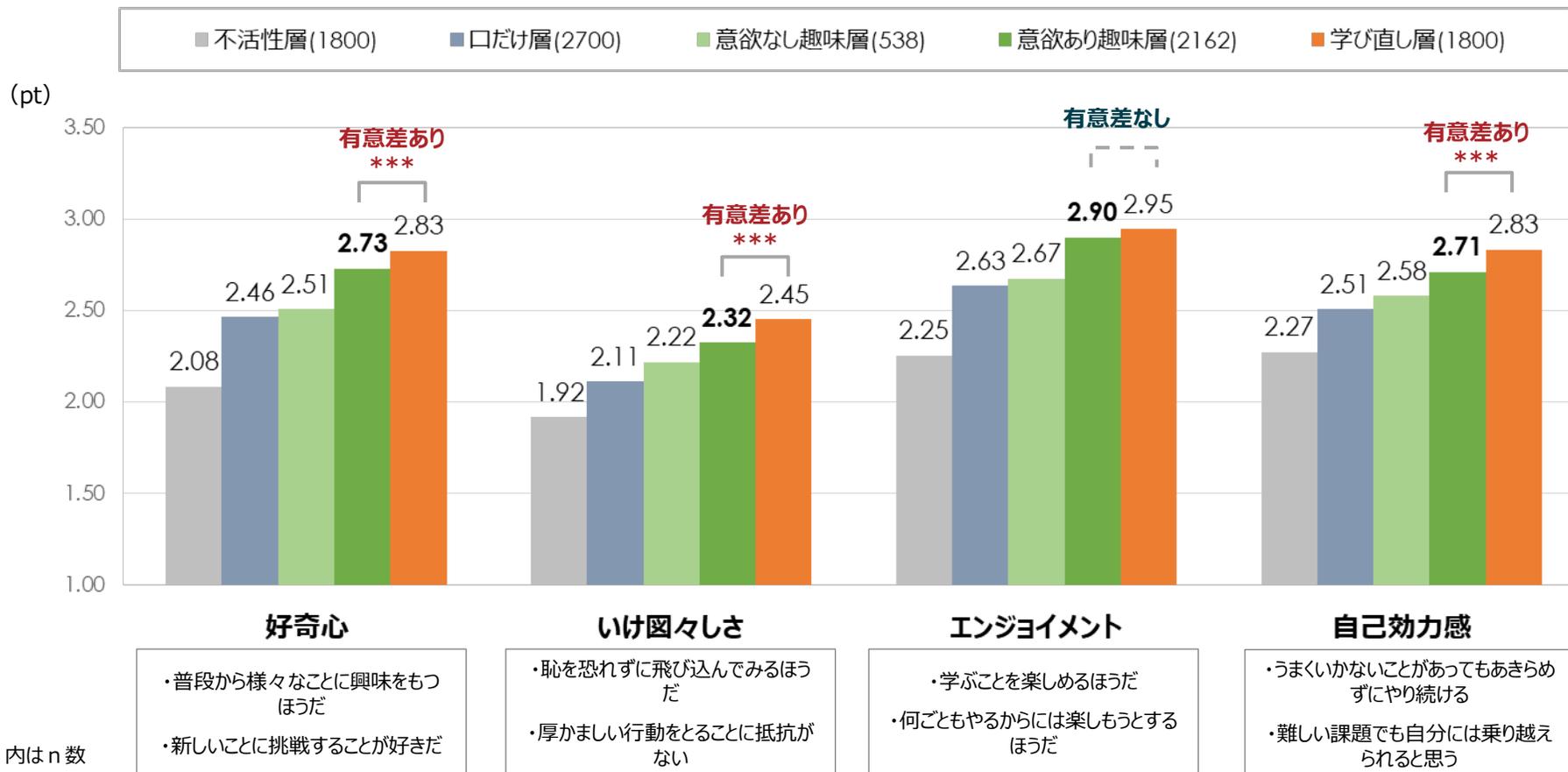
( ) 内はn数

\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

※「仕事と興味関心の一致度」の「意欲なし趣味層-口だけ層間」、「自己追求行動」の「学び直し層-意欲あり趣味層間」以外の全群間に5%水準で有意差あり

意欲あり趣味層は、学び直す行動を促す「好奇心」「いけ図々しさ」「エンジョイメント」「自己効力感」いずれも、他の分類と比較し、学び直し層に最も近い。  
特に、何事も楽しむマインドである「エンジョイメント」は意欲あり趣味層と学び直し層で有意差がなく近似する。

<数値> 4：あてはまる～1：あてはまらないの4段階得点の平均。2.5が中間の値

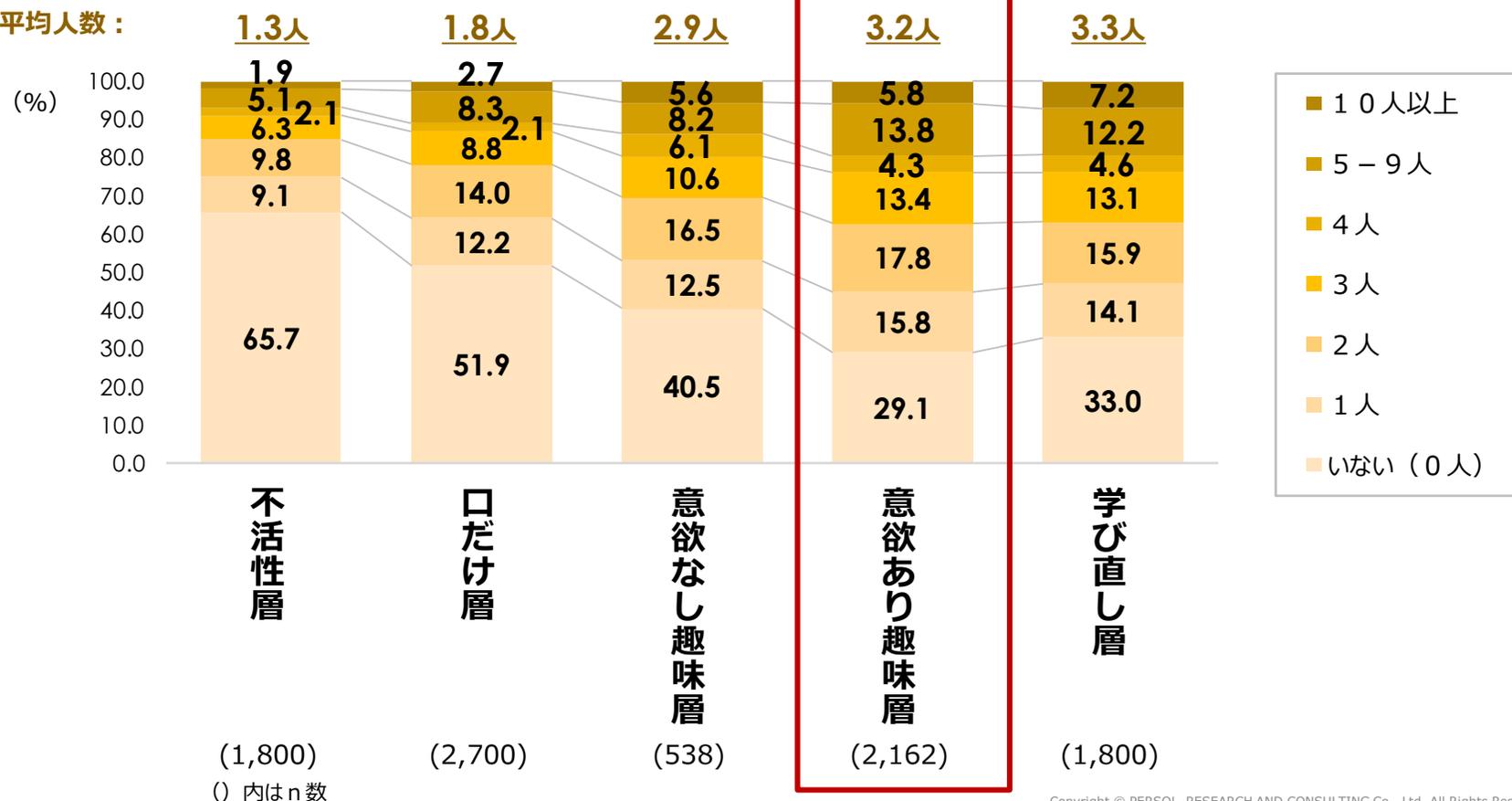


\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

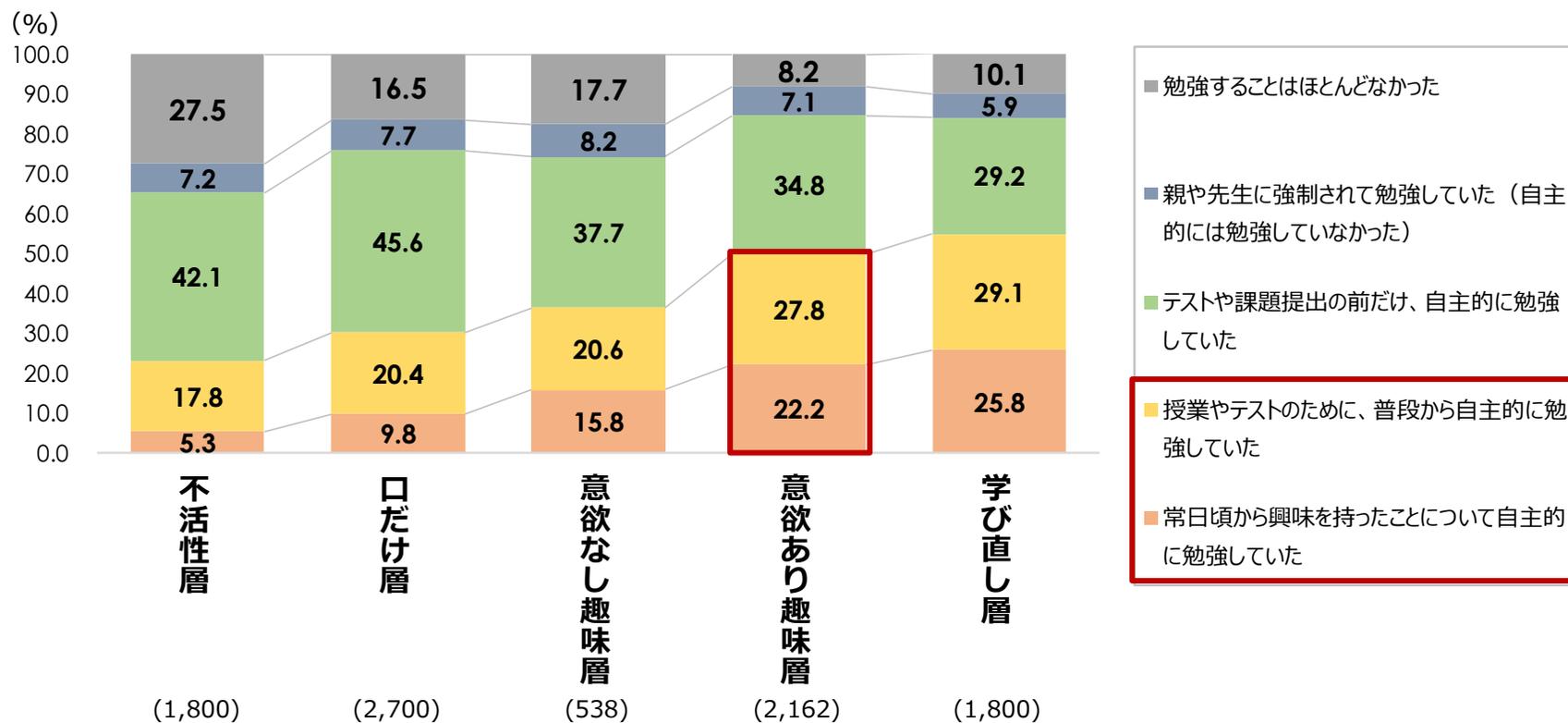
意欲あり趣味層は、「新しい発見や目標が得られるような、刺激を受けられる知り合いの人数」が学び直し層と同程度に多い。  
 仕事・趣味に関わらず、自主的な学びを行っているミドル・シニア就業者は刺激的な人脈を持つ傾向。

## 新しい発見や目標が得られるような、刺激を受けられる知り合いの人数

平均人数：



学生時代の学習態度からみると、意欲あり趣味層は、学び直し層よりもやや自主的に勉強していた割合が  
少ないが、その他の層と比べれば最も近い傾向。



( ) 内はn数

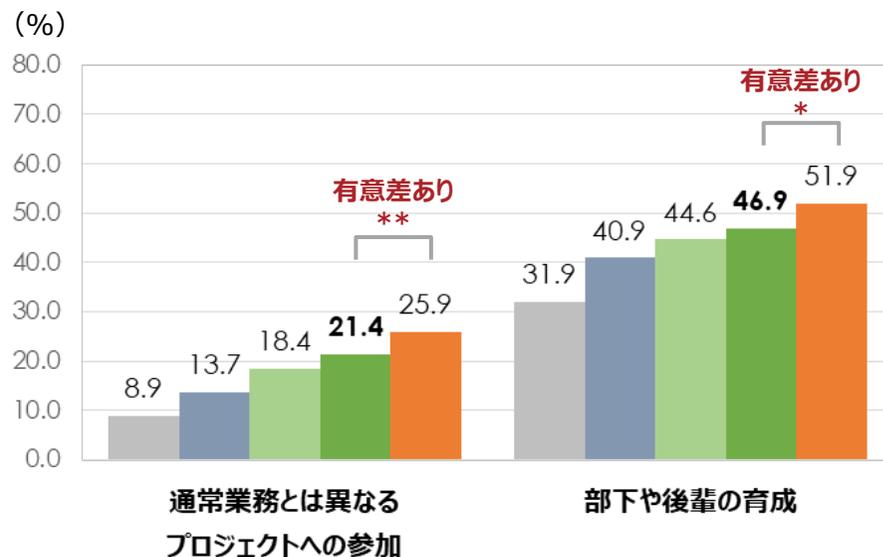
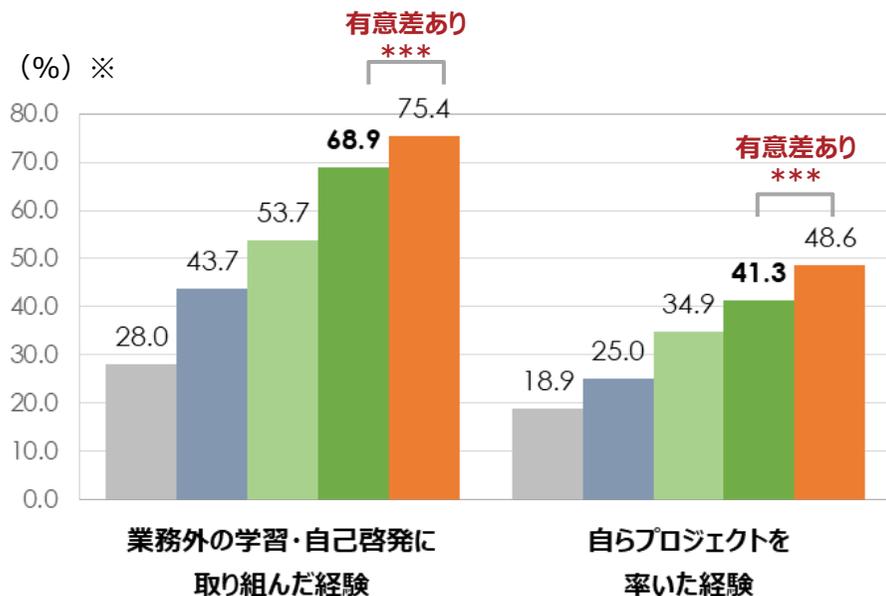
※「意欲あり趣味層」と「学び直し層」との間にカイ2乗検定で0.1%水準で有意差あり

学び直しを促進する経験について、20代の時と社会人時代全体に分けてその経験率をみた。20代では、「業務外学習に取り組んだ経験」「自らプロジェクトを率いた経験」について、意欲あり趣味層は学び直し層と差があるものの他の層より類似。社会人時代全体では、「通常業務とは異なるプロジェクトへの参加」や「部下や後輩の育成」に差があるものの他の層より類似。

## 20代の経験

## 社会人時代全体の経験

■ 不活性層(1800) ■ 口だけ層(2700) ■ 意欲なし趣味層(538) ■ 意欲あり趣味層(2162) ■ 学び直し層(1800)



( ) 内はn数

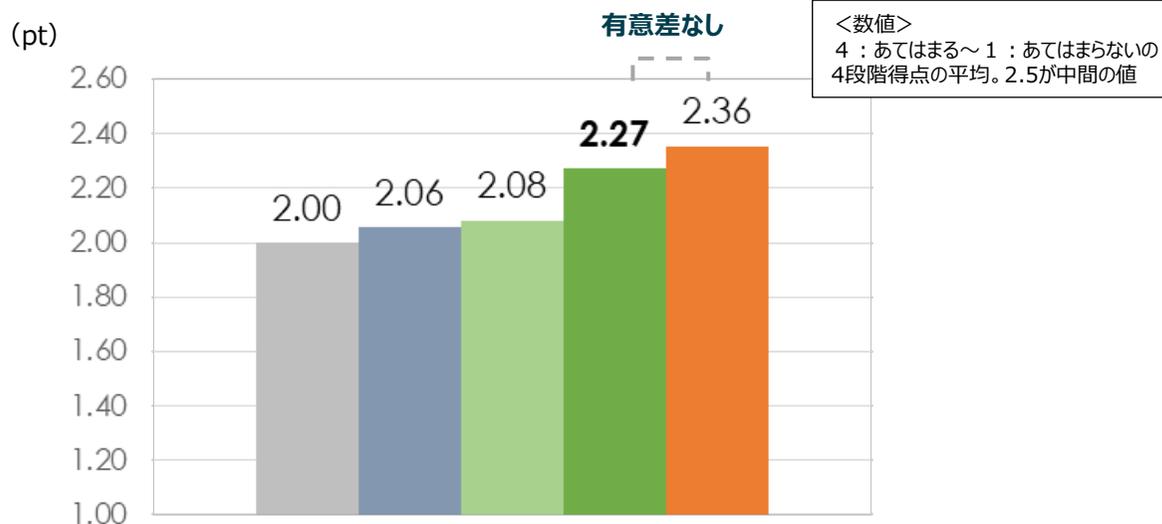
※「多く経験した」「経験した」選択率計

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

意欲あり趣味層は、学び直し行動を促進する「上司の仕事関連の学びへの熱心さ」が学び直し層と差がない。  
意欲あり趣味層は、学び直し層と同様に、上司が学びに熱心な傾向があり、その影響を受けていることがうかがえる。

会社員、公務員、専門家の係長以下  
n=3940

■ 不活性層(786) ■ 口だけ層(1176) ■ 意欲なし趣味層(227) ■ 意欲あり趣味層(892) ■ 学び直し層(859)



上司の仕事関連の学びへの熱心さ

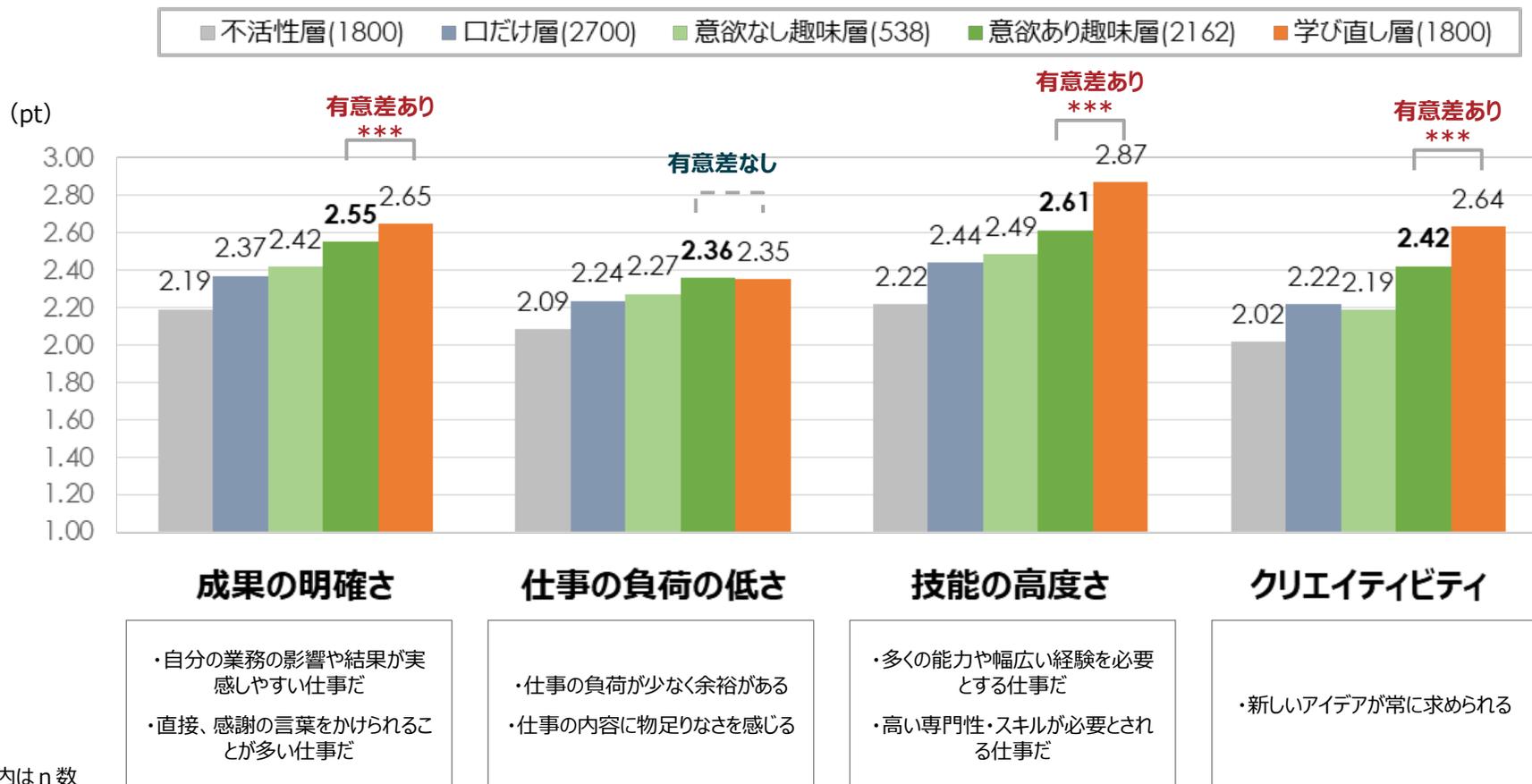
- ・業務外の仕事に関する学習・自己啓発に熱心だ
- ・業務外の仕事に関する学習・自己啓発を強く勧めてくる

( ) 内はn数

※α係数=0.75 (n=4039 (係長以下) )

職務特性をみると、意欲あり趣味層は、学び直し行動を促進する「仕事の負荷の低さ」が学び直し層と同程度。  
「成果の明確さ」「技能の高度さ」「クリエイティビティ」は、有意差があるものの、学び直し層に最も近い。

<数値> 4 : あてはまる ~ 1 : あてはまらないの4段階得点の平均。2.5が中間の値



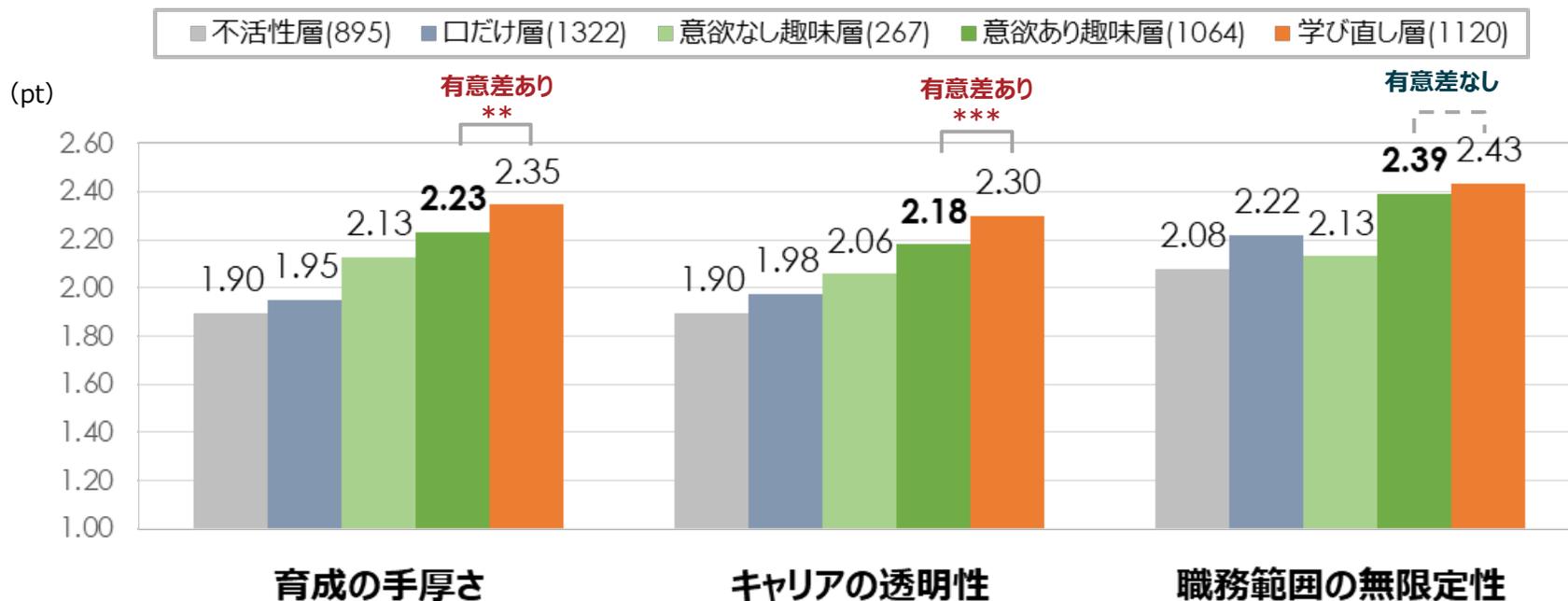
( ) 内はn数

\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

人事管理の傾向をみると、意欲あり趣味層は、学び直し行動を促進する「職務範囲の無限定性」が学び直し層と同程度。  
「育成の手厚さ」「キャリアの透明性」は、有意差があるものの、学び直し層に最も近い。

<数値> 4：あてはまる～ 1：あてはまらないの4段階得点の平均。2.5が中間の値

正社員のみ



- 育成の手厚さ**
- ・若手に研修やセミナーに行く機会が多く与えられている
  - ・中高年に研修やセミナーに行く機会が多く与えられている
  - ・現場での教育・OJTが手厚く行われている

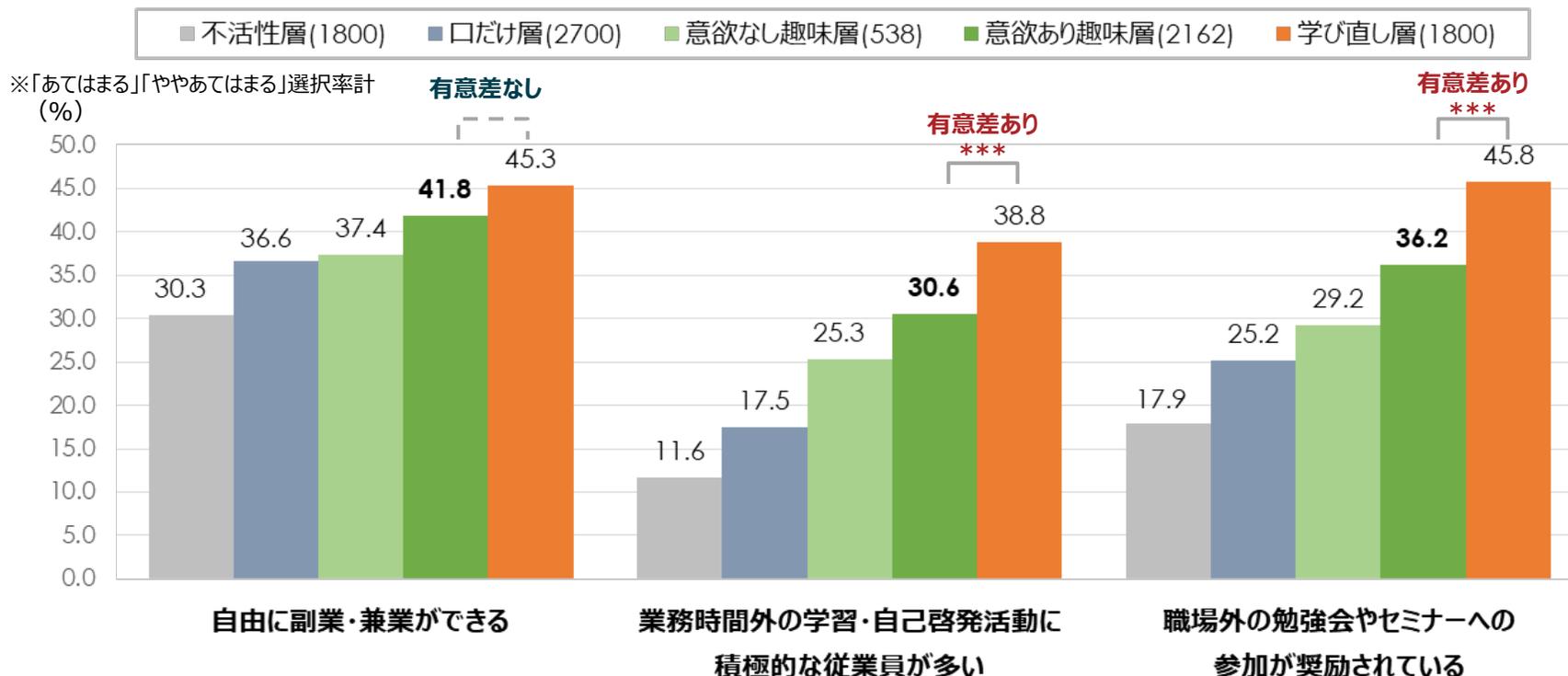
- キャリアの透明性**
- ・社内にどんな職務があるかが全従業員に明らかになっている
  - ・社内のキャリア・パスが明確に示されている
  - ・社内公募による異動が行われている 等

- 職務範囲の無限定性**
- ・自分の仕事の担当範囲が不明確である
  - ・担当でない仕事について、応援を要請されることが多い

( ) 内はn数

\*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

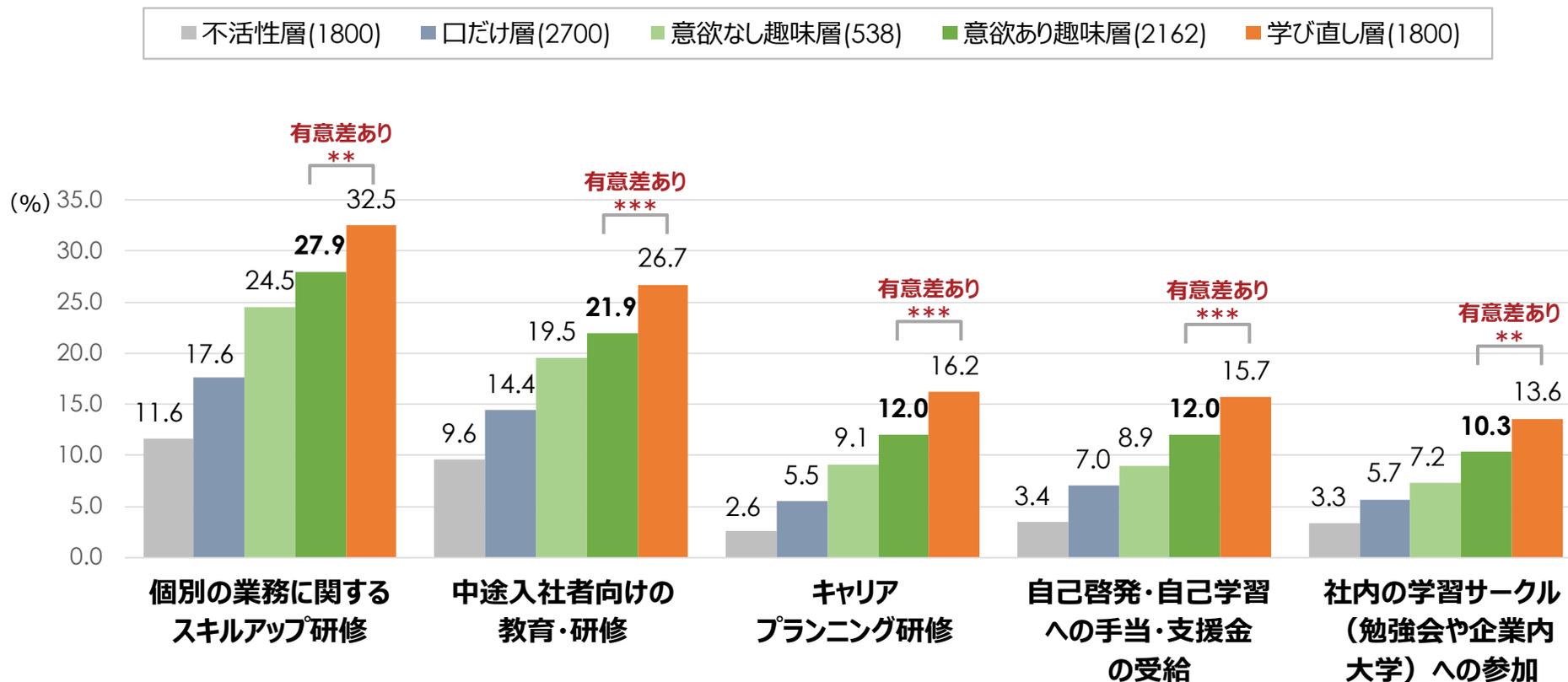
学習に関する組織風土の傾向をみると、意欲あり趣味層は、学び直し行動を促進する「自由に副業・兼業ができる」割合が学び直し層と同程度。その他は、有意差があるものの、学び直し層に最も近い。



( ) 内はn数

\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

教育訓練の経験率をみると、意欲あり趣味層は、学び直し行動を促進する「スキルアップ研修」や「キャリアプランニング研修」、  
「自己啓発への手当・支援金の受給」「社内の学習サークル参加」の経験率は、有意差があるものの、学び直し層に最も近い。



( ) 内はn数

\*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意差あり

意欲あり趣味層が学び直し層に移行するには

パーソル総合研究所

シンクタンク本部



PERSOL

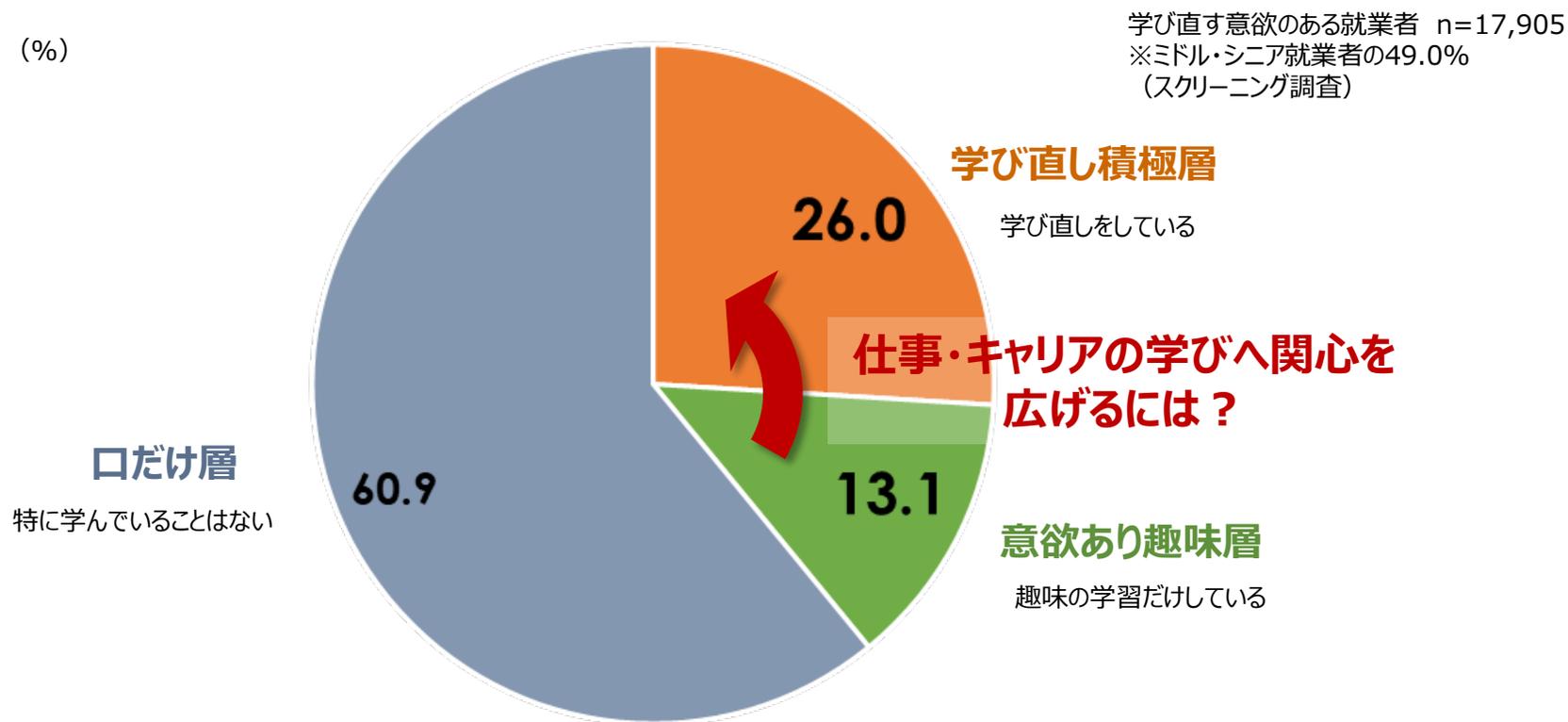
パーソル 総合研究所

学び直す意欲があるミドル・シニア就業者のうち、学び直しを実行しているのは26.0%で、13.1%は趣味学習のみを実施。  
「意欲あり趣味層」が仕事・キャリアの学びに関心を広げ、「学び直し積極層」になるための組織的介入のポイントを探った。

ウェイトバック処理

## 学び直し実行率

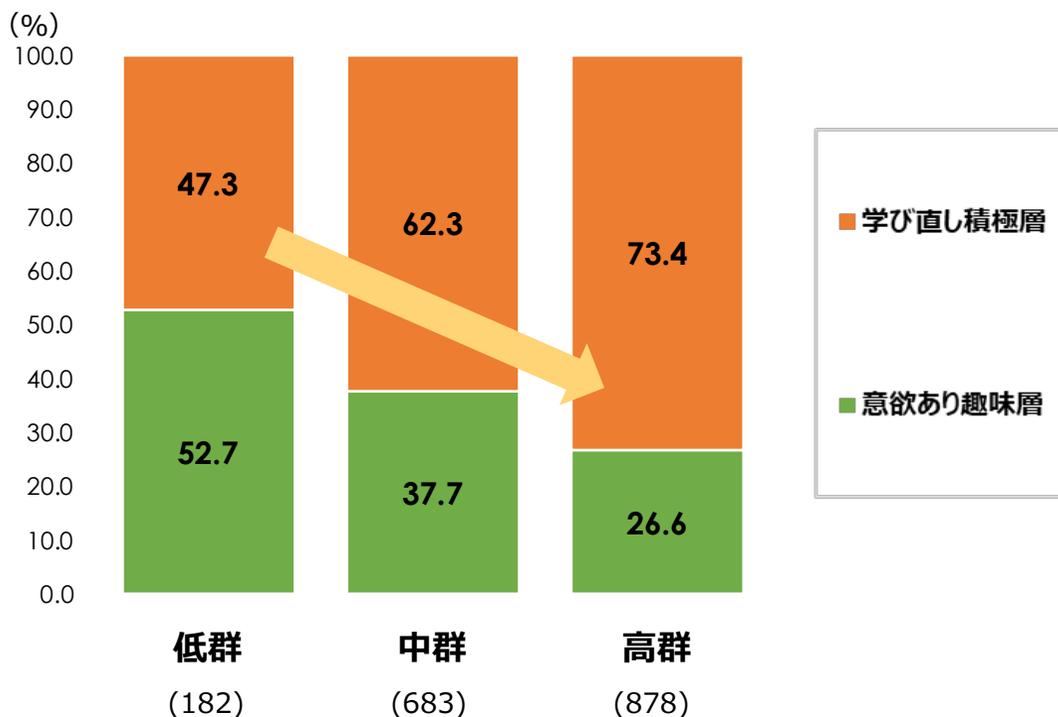
(%)



「仕事と興味関心の一致度」や「キャリアのセルフアウェアネス」が高いグループでは、意欲あり趣味層の割合が低く、学び直し積極層の割合が高い傾向がある。この実態から、仕事と興味関心の一致度を高めたり、キャリアビジョンを明確にすることで、意欲あり趣味層が学び直し積極層に移行する可能性が示唆される。

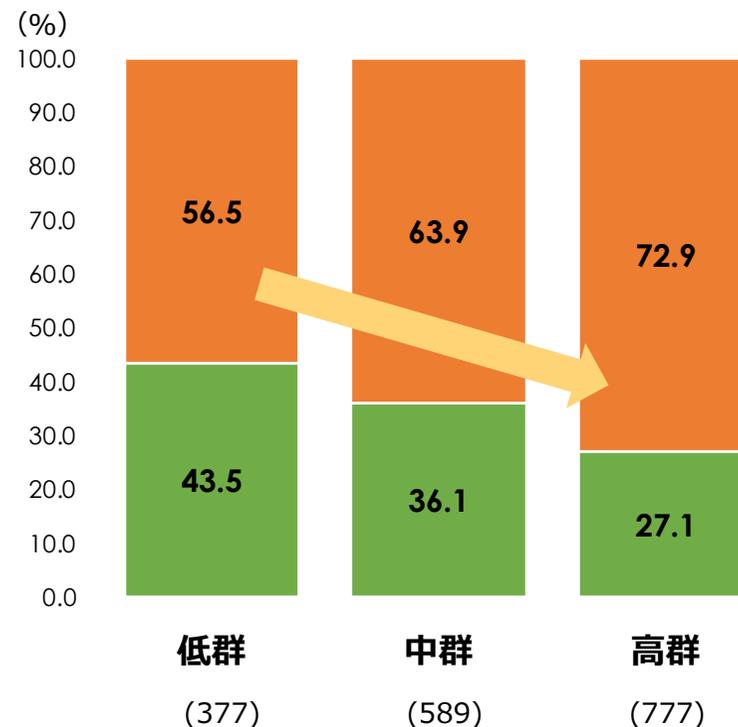
ウェイトバック処理

学び直す意欲のある業務外学習実施者



仕事と興味関心の一致度

- ・自分のやりたいことや目指したいものを軸に仕事を選んでいる
- ・自分の興味関心がある領域を仕事にしている



キャリアのセルフアウェアネス

- ・自分のキャリア全体がどういった方向に向かっているか理解できている
- ・自分が行ってきた経験や仕事を振り返ることができている 等5項目

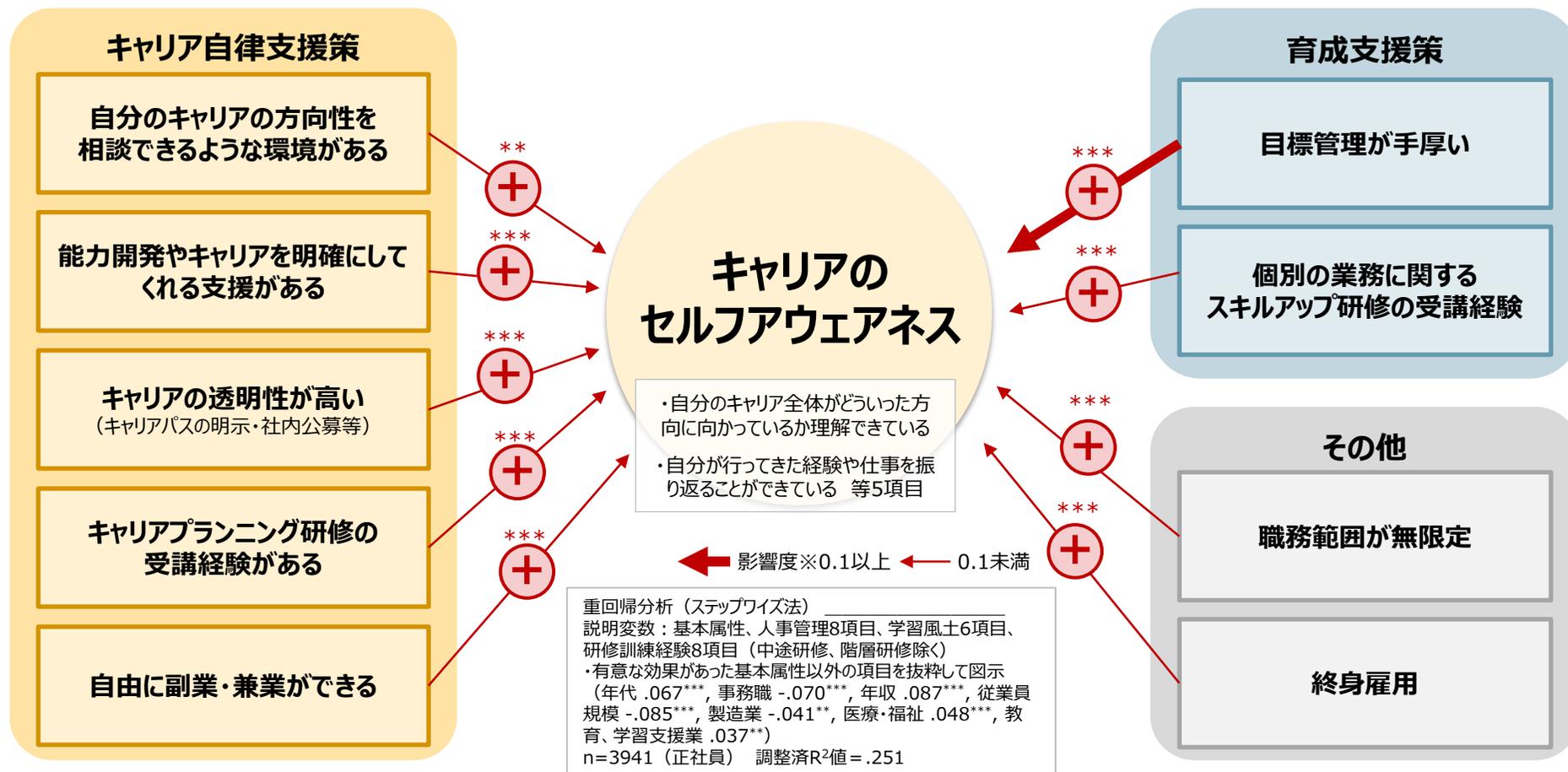
※いずれも、カイ二乗検定で群間に0.1%水準の有意差あり ( ) 内はn数

職場のキャリア自律支援策や育成支援策を経験していると答えたミドル・シニア正社員ほど、

「キャリアのセルフアウェアネス」が高い傾向。

特に「目標管理の手厚さ」の影響が強く、組織の目標と個人の目標のすり合わせがキャリアの自覚に重要であることが分かる。

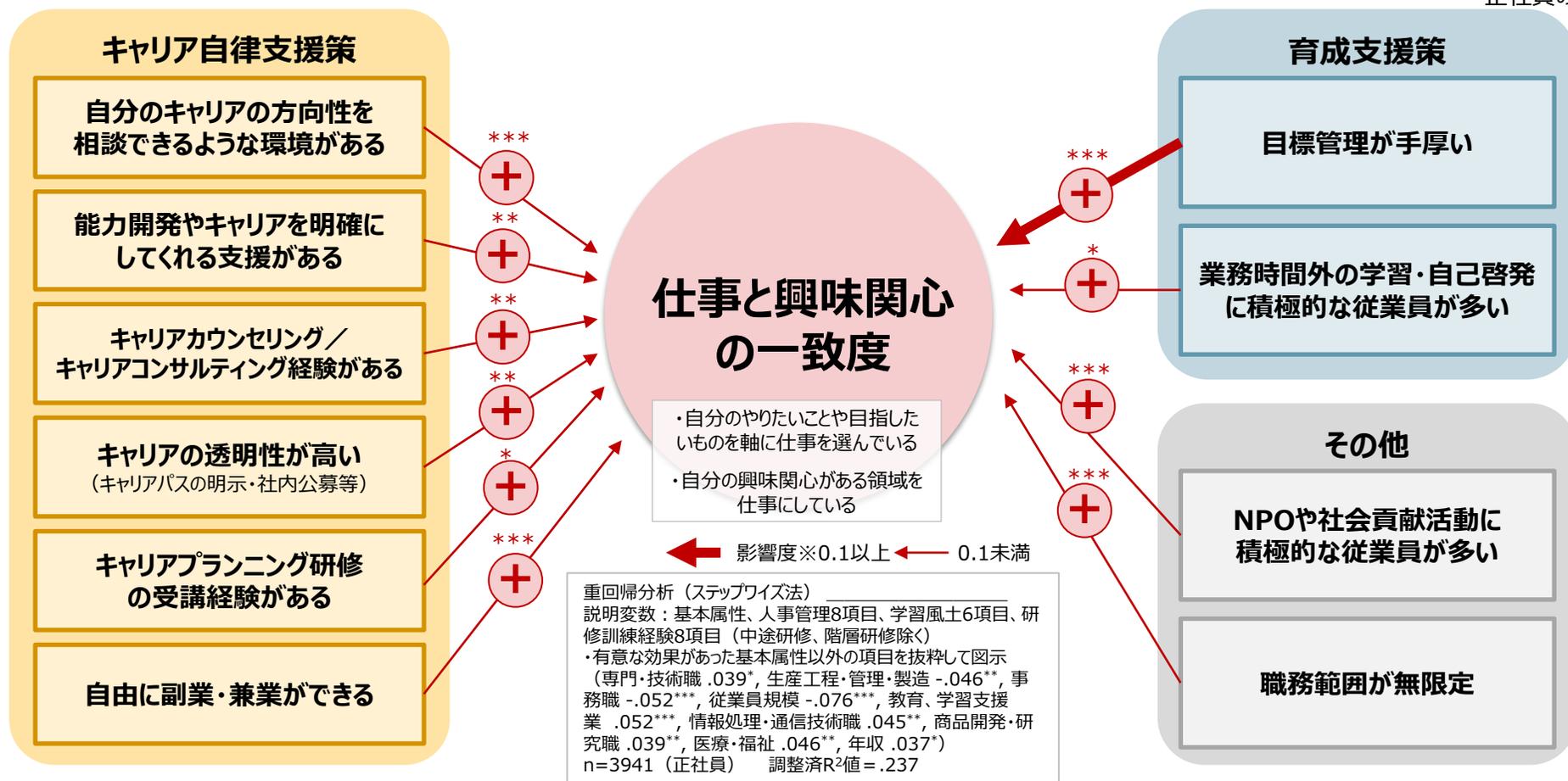
正社員のみ



※影響度は標準化偏回帰係数 \*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意

職場のキャリア自律支援策や育成支援策を経験していると答えたミドル・シニア正社員ほど、「仕事と興味関心の一致度」が高い傾向。特に「目標管理の手厚さ」の影響が強く、組織の目標と個人の目標のすり合わせが興味関心と仕事を結びつけるために重要であることが分かる。

正社員のみ



※影響度は標準化偏回帰係数 \* : 5%水準、\*\* : 1%水準、\*\*\* : 0.1%水準で有意

趣味学習層は、「キャリアのセルフアウェアネス」や「仕事と興味関心の一致度」を高める以下のキャリア自律支援や育成支援を、  
 学び直し層に比べて受けていない傾向がある。意欲あり趣味層にもこのような職場からの介入を増やすことで、  
 学び直し積極層へ移行する可能性が示唆された。

## キャリアのセルフアウェアネスや仕事と興味関心の一致度を高める施策の実施率

### 人事管理 正社員のみ

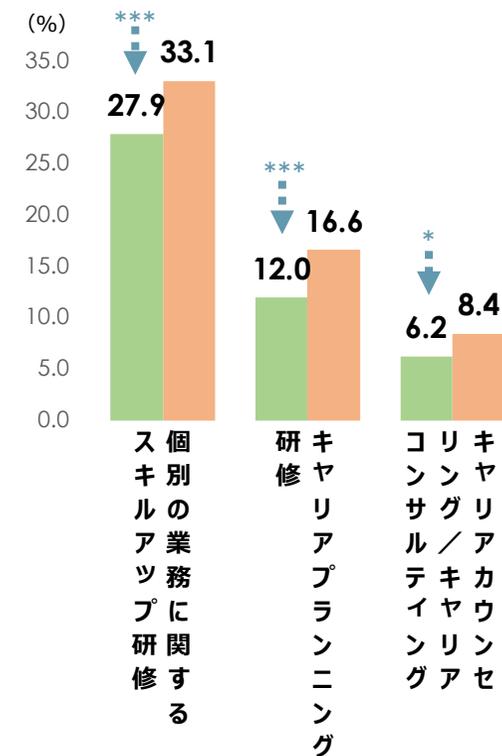
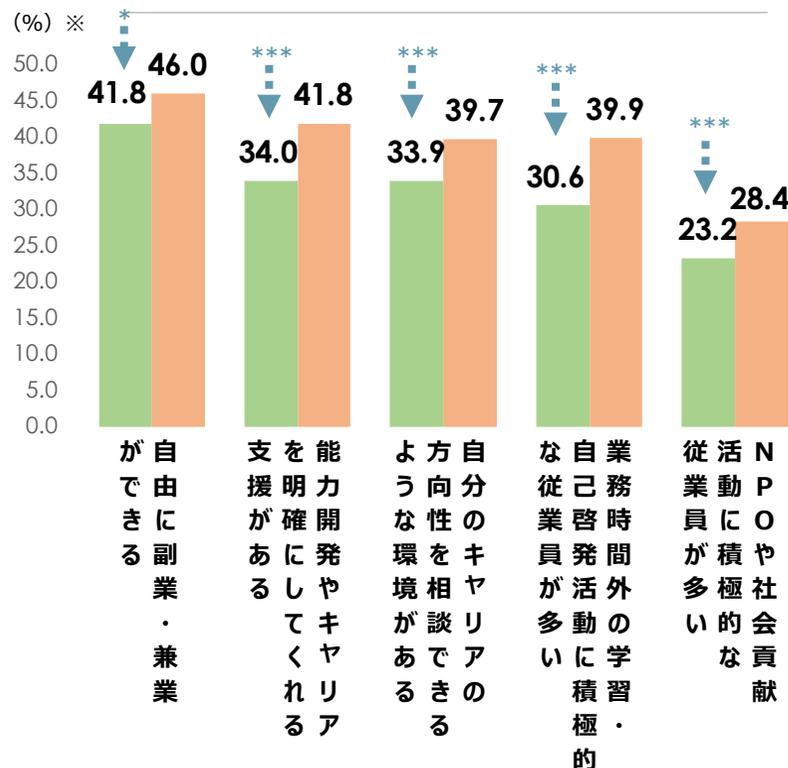
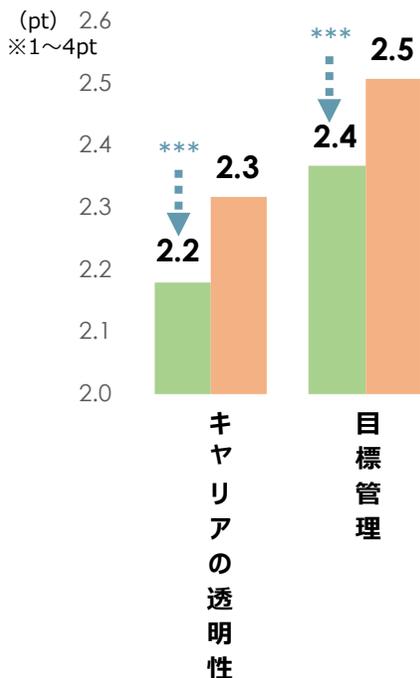
### 学習風土

### 研修訓練経験率

■意欲あり趣味層(1064) ■学び直し積極層(1015)

■意欲あり趣味層(2162) ■学び直し積極層(1611)

■意欲あり趣味層(2162) ■学び直し積極層(1611)



( ) 内はn数

\*\*\* : 0.1%水準、\*\* : 1%水準、\* : 5%水準で有意差あり

※「あてはまる」「ややあてはまる」回答率

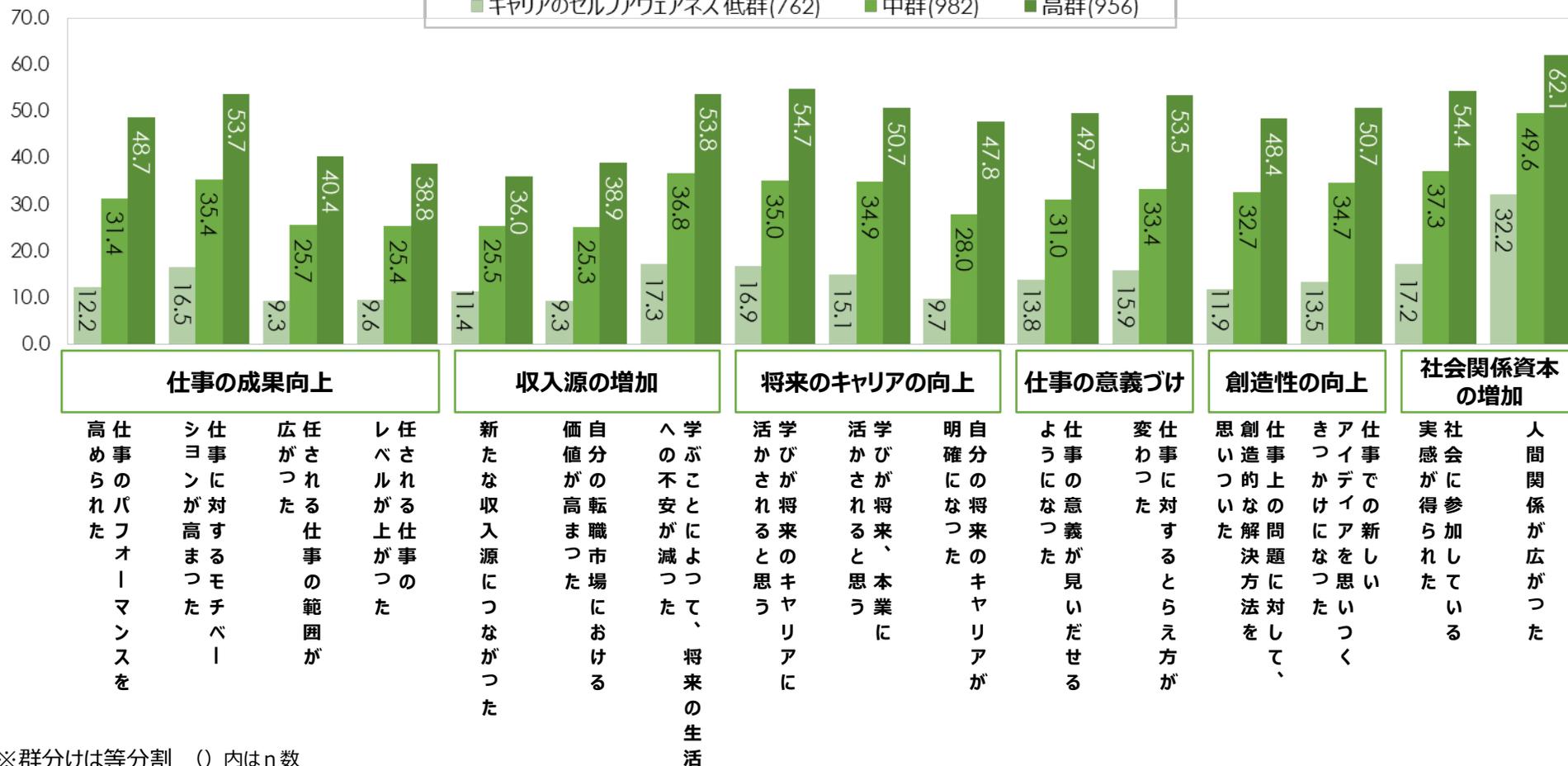
「キャリアのセルフアウェアネス」が高いほど、趣味の学習によって仕事や収入への波及効果を感じている。

キャリアビジョンが明確なミドル・シニア就業者は、趣味であっても仕事とのつながりを意識している人が多いと考えられる。

(%) ※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

趣味学習層 n=2700

■ キャリアのセルフアウェアネス 低群(762) ■ 中群(982) ■ 高群(956)



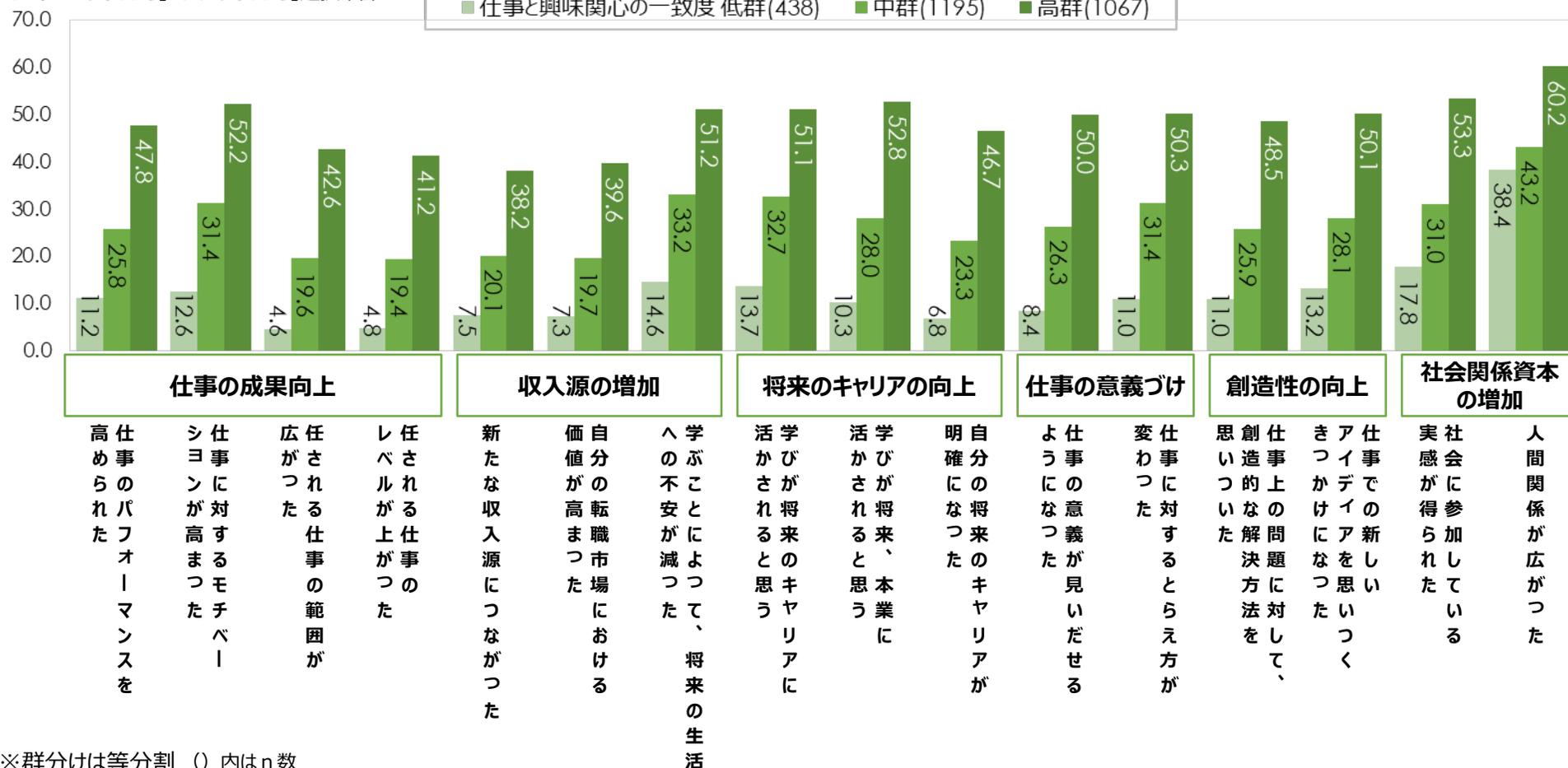
※群分けは等分割 ( ) 内はn数

「仕事と興味関心の一致度」が高いほど、趣味の学習によって仕事や収入への波及効果を感じている。

仕事自身の興味関心と一致しているミドル・シニア就業者は、自身の興味関心から行っている趣味も仕事と重なる部分が多いと考えられる。

(%) ※「あてはまる」「ややあてはまる」選択率計

趣味学習層 n=2700



# Appendix.

パーソル総合研究所  
シンクタンク本部



## ■スクリーニング調査 全国就業者男女35～64歳 最終学歴高卒以上 (n=38,871)

※令和2年国勢調査の雇用形態・最終学歴の構成比に合わせたウェイトバック処理後の数値

性年代	%
男性 35 - 39歳	7.2
男性 40 - 44歳	9.0
男性 45 - 49歳	9.4
男性 50 - 54歳	9.9
男性 55 - 59歳	9.9
男性 60 - 64歳	8.7
女性 35 - 39歳	6.8
女性 40 - 44歳	7.6
女性 45 - 49歳	8.2
女性 50 - 54歳	8.5
女性 55 - 59歳	8.3
女性 60 - 64歳	6.3

居住地域	%
関東 1都6県	38.2
関西 2府4県	17.3
その他の地域	44.5

最終卒業校	%
高校	44.7
各種専門学校	10.3
高等専門学校	3.2
短期大学	8.9
大学	29.2
大学院（修士）	3.0
大学院（博士）	0.7

雇用形態	%
会社員（正社員）	57.9
契約社員	4.0
派遣社員	2.9
嘱託社員	0.7
公務員・団体職員	6.5
専門家（医師・弁護士・会計士など）	1.3
自営業	6.8
自由業	1.3
パート・アルバイト	18.6

## ■本調査 全国就業者男女35～64歳 最終学歴高卒以上（n=9000）

※業務外学習の実施状況・学び直し意欲により割付

性年代	%
男性 35 - 39歳	7.5
男性 40 - 44歳	8.8
男性 45 - 49歳	9.0
男性 50 - 54歳	8.7
男性 55 - 59歳	9.3
男性 60 - 64歳	9.7
女性 35 - 39歳	7.0
女性 40 - 44歳	8.1
女性 45 - 49歳	7.8
女性 50 - 54歳	7.8
女性 55 - 59歳	8.2
女性 60 - 64歳	8.2

婚姻状況	%
既婚	57.3
未婚	32.8
離別	8.7
死別	1.2

子供有無	%
子供無し	47.8
子供あり	52.2

最終卒業校	%
高校	22.8
各種専門学校	10.7
高等専門学校	3.1
短期大学	10.8
大学	45.7
大学院（修士）	5.5
大学院（博士）	1.4

居住地域	%
関東1都6県	41.4
関西2府4県	18.0
その他の地域	40.5

雇用形態	%
会社員（正社員）	51.9
契約社員	5.3
派遣社員	3.6
嘱託社員	1.1
公務員・団体職員	7.1
専門家（医師・弁護士・会計士など）	2.1
自営業	6.4
自由業	1.6
パート・アルバイト	21.1

## ■本調査 全国就業者男女35～64歳 最終学歴高卒以上 (n=9000)

※業務外学習の実施状況・学び直し意欲により割付

企業規模	%
10人未満	16.9
10人～50人未満	16.4
50人～100人未満	9.8
100人～200人未満	7.6
200人～300人未満	4.8
300人～500人未満	5.3
500人～1,000人未満	6.4
1,000人～2,000人未満	5.5
2,000人～5,000人未満	6.0
5,000人～1万人未満	4.2
1万人以上	8.8
わからない	8.4

職位	%
一般社員・従業員	47.6
主任・係長相当	19.0
担当課長・課長相当	12.7
担当部長・部長相当	6.6
事業部長相当	1.4
取締役相当	2.2
社長相当	5.1
その他	5.5

※会社員、公務員、専門家、自営業のみに聴取

業種	%
農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取業	0.8
建設業	5.1
製造業	18.2
電気・ガス・熱供給・水道業	1.4
情報通信業	6.0
運輸業、郵便業	4.9
卸売業、小売業	11.0
金融業、保険業	4.7
不動産業、物品賃貸業	2.5
学術研究、専門・技術サービス業 (法律、税理士、測量など)	2.1
宿泊業、飲食サービス業	3.1
生活関連サービス業、娯楽業	2.4
教育、学習支援業	5.9
医療、福祉	11.0
複合サービス事業(郵便局、協同組合など)	0.6
サービス業(その他)	10.0
国家公務、地方公務	4.9
その他(上記以外)	5.5

職種	%
間接部門	19.1
事務職	16.5
営業・販売職	9.8
サービス職	7.9
生産工程・管理・製造	8.5
配送・物流・運輸職	3.5
情報処理・通信技術職	5.3
商品開発・研究職	2.5
専門・技術職	17.5
その他	9.5

尺度	下位項目	α係数
仕事の成果の向上	仕事のパフォーマンスを高められた	0.92
	任される仕事の範囲が広がった	
	任される仕事のレベルが上がった	
	仕事に対するモチベーションが高まった	
収入源の増加	新たな収入源につながった	0.79
	自分の転職市場における価値が高まった	
	学ぶことによって、将来の生活への不安が減った	
将来のキャリアの向上	学びが将来のキャリアに活かされると思う	0.87
	学びが将来、本業に活かされると思う	
	自分の将来のキャリアが明確になった	
仕事の意義づけ	仕事の意義が見いだせるようになった	0.87
	仕事に対するとらえ方が変わった	
創造性の向上	仕事上の問題に対して、創造的な解決方法を思いついた	0.87
	仕事での新しいアイデアを思いつくきっかけになった	
社会関係資本の増加	社会に参加している実感が得られた	0.76
	人間関係が広がった	

因子分析・信頼性分析

因子分析は、最尤法・プロマックス回転 n=4500 (学習者)

尺度	下位項目	α係数
雪だるま式効果	学ぶことでより学ぶ意欲が高まった	0.79
	学ぶことで興味・関心の範囲が広がった	
継続意向	今の学び活動をこれからも続けたい	0.73
	今後、学び活動に割く時間を増やしたい	
学びによる幸福感	学ぶことが楽しい	0.76
	学ぶことで日々の幸福感が高まった	
前向きさの向上	チャレンジすれば何とかやれると思えるようになった	0.83
	自分のことがより好きになった	
	視野が広がり物事の見方が変わった	
	自分から積極的に行動するようになった	

因子分析・信頼性分析

因子分析は、最尤法・プロマックス回転 n=4500 (学習者)

因子	下位項目	α係数
<b>キャリアのセルフアウェアネス</b> (内面的自己認識)	自分のキャリア全体がどういった方向に向かっているか理解できている	0.89
	自分が行ってきた経験や仕事を振り返ることができている	
	自分の得意なことや技能・スキルが何かを理解できている	
	自分が仕事を通じて実現したいことがわかっている	
	自分がこれまでに得た知識・スキル・経験を筋道立てて人に教えられる	
<b>仕事と興味関心の一致度</b>	自分のやりたいことや目指したいものを軸に仕事を選んでいる	0.78
	自分の興味関心がある領域を仕事にしている	
<b>自己追求行動</b>	自分の興味関心のある領域を学び続けている	0.67
	自分の興味に合う仲間や人間関係を築いていっている	

※セルフアウェアネスには内面的自己認識（自分が自己をどう見ているのかの認識）と外面的自己認識（他者からどう見られているかの認識）があるが、ここでは内面的自己認識を指す。

尺度	下位項目	α係数
<b>好奇心</b>	普段から様々なことに興味をもつほうだ	0.80
	新しいことに挑戦することが好きだ	
<b>いけ図々しさ</b>	恥を恐れずに飛び込んでみるほうだ	0.72
	厚かましい行動をとることに抵抗がない	
<b>エンジョイメント</b>	学ぶことを楽しめるほうだ	0.79
	何ごとともやるからには楽しもうとするほうだ	
<b>自己効力感</b>	うまくいかないことがあってもあきらめずにやり続ける	0.81
	難しい課題でも自分には乗り越えられると思う	

尺度	下位項目	α係数
キャリアの透明性	社内にどんな職務があるかが全従業員に明らかになっている	0.84
	社内公募による異動が行われている	
	社内のキャリア・パスが明確に示されている	
	自分のスキルや経験が可視化される仕組みがある	
	昇格・昇進の基準はオープンにされている	
職務範囲の無限定性	自分の仕事の担当範囲が不明確である	0.70
	担当でない仕事について、応援を要請されることが多い	
年功主義	勤めた年数に応じて給与が増えていく	0.74
	昇進・選抜は一定の年齢と紐付いている	
異動・転勤の多さ	職務変更をとまなう異動が頻繁にある	0.79
	転居をとまなう転勤が多い	
終身雇用	定年まで雇用されることが前提になっている	0.73
	役職定年・ポストオフがある	
	近年、早期退職募集・リストラは無い	
	退職金制度がある	
新卒偏重主義	組織には新卒入社者のほうが多い	0.83
	幹部層には新卒入社者が多い	
育成の手厚さ	若手に研修やセミナーに行く機会が多く与えられている	0.85
	中高年に研修やセミナーに行く機会が多く与えられている	
	現場での教育・OJTが手厚く行われている	
目標管理	個人の目標は、上司とよく話し合っ決められている	0.87
	個人の目標は、組織の目標とよく紐付いている	
	組織のビジョンや理念が明確に示されている	

因子分析・信頼性分析  
 因子分析は、最尤法・プロマックス回転 n=4668 (正社員)

尺度	下位項目	α係数
業務の自律性	自分が責任を負う仕事の範囲が明確である	0.65
	仕事のやり方は自分で決めることができる	
成果の明確さ	自分の業務の影響や結果が実感しやすい仕事だ	0.69
	直接、感謝の言葉をかけられることが多い仕事だ	
技能の高度さ	多くの能力や幅広い経験を必要とする仕事だ	0.83
	高い専門性・スキルが必要とされる仕事だ	
仕事の単調さ	単純な繰り返しの作業が多い	0.82
	いつも定型的な仕事が多い	
仕事の変化のなさ	仕事内容は長い間変わっていない	0.61
	仕事を続けても、習熟度が変わらない	
仕事の負荷の低さ	仕事の負荷が少なく余裕がある	0.63
	仕事の内容に物足りなさを感じる	
学習内容の明確さ	仕事に必要な知識・スキルが明確である	0.78
	仕事で次に何を習得すればよいのかが明確である	
仕事の難易度	仕事内容が徐々に難しくなっていく	0.81
	自分の能力よりも難しい仕事を与えられる	
クリエイティビティ	新しいアイデアが常に求められる	—

因子分析・信頼性分析

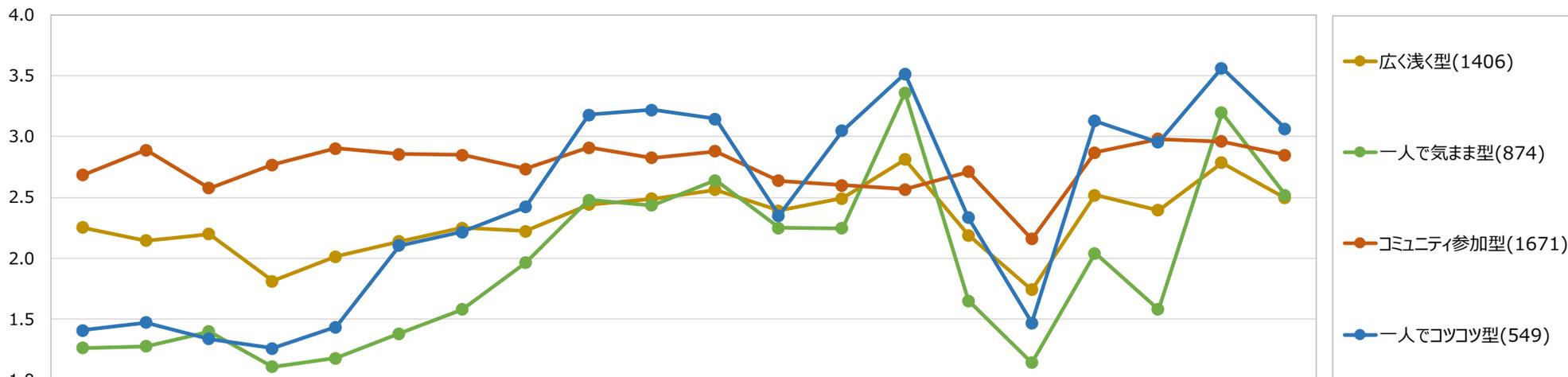
因子分析は、最尤法・プロマックス回転 n=9000

<数値>

4 : Aに近い ~ 1 : Bに近いの4段階得点の平均。一対比較法で聴取し、Aはグラフ横軸に記載の項目、Bはその反対の意味の項目だった。

(pt) ※1~4pt

学習者 n=4,500



を学	学	人	に	決	仲	学	人	バ	他	を	多	学	週	い	学	ス	学	い	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す
利	習	人	沿	め	間	人	と	ッ	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
用	サ	人	つ	ら	と	と	対	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
し	ー	人	て	れ	と	と	話	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
て	ビ	人	て	た	と	と	し	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
る	ス	人	て	カ	と	と	な	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
機	・	人	て	リ	と	と	が	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
関	教	人	て	キ	と	と	ら	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
	育	人	て	ュ	と	と	ら	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
	育	人	て	ラ	と	と	ら	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
	機	人	て	ム	と	と	ら	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	
	関	人	て		と	と	ら	ク	者	持	様	に	1	る	ぶ	ッ	学	特	ま	必	活	W	自	い	学	で	学	が	学	学	も	自	す	

( ) 内はn数

階層的クラスター分析  
 学び方20項目の回答結果に基づき、学び直し層 (n=1800) と趣味学習層 (n=2700) を同時に分析し、4つのクラスターに分類

学び直す意欲はあるが趣味の学習だけしている「意欲あり趣味層」の属性別の出現率を倍数でみた。  
 例えば、「派遣社員」では、意欲あり趣味層は平均の1.3倍いるが、学び直し層では0.6倍と少ない。

ウェイトバック処理

		(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか	人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体			9000	1.0	1.0	1.0
性年代別	男性 35 - 39歳		554	1.7	1.2	1.4
	男性 40 - 44歳		729	1.5	1.0	1.0
	男性 45 - 49歳		763	1.5	0.9	1.1
	男性 50 - 54歳		763	1.2	1.1	0.9
	男性 55 - 59歳		859	0.9	1.0	1.3
	男性 60 - 64歳		818	1.0	1.1	1.3
	女性 35 - 39歳		610	1.0	1.0	0.7
	女性 40 - 44歳		674	1.0	1.1	0.8
	女性 45 - 49歳		700	0.8	1.0	0.9
	女性 50 - 54歳		752	0.7	1.0	0.8
	女性 55 - 59歳		880	0.5	0.9	0.9
	女性 60 - 64歳		897	0.5	0.9	0.9
最終学歴別	高校		4,025	0.6	0.7	0.8
	各種専門学校		888	0.8	1.0	0.9
	高等専門学校		230	1.2	1.3	1.3
	短期大学		895	0.7	1.0	0.9
	大学		2,626	1.5	1.4	1.2
	大学院 (修士)		266	2.3	1.5	1.3
	大学院 (博士)		69	3.1	1.1	1.7

		(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか	人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体			9000	1.0	1.0	1.0
雇用形態別	会社員 (正社員)		4,490	1.2	1.0	1.0
	契約社員		506	0.6	1.0	1.1
	派遣社員		313	0.6	1.3	1.3
	嘱託社員		85	0.3	1.4	2.0
	公務員・団体職員		487	1.3	1.6	1.6
	専門家		123	2.4	1.2	1.0
	自営業		635	1.2	0.8	1.0
	自由業		117	1.9	1.2	1.0
	パート・アルバイト		2,245	0.4	0.9	0.8
	職位別	一般社員・従業員		3,104	0.9	0.8
主任・係長相当			935	1.7	1.3	1.3
担当課長・課長相当			597	1.7	1.2	1.2
担当部長・部長相当			265	2.1	1.7	1.8
事業部長相当			49	2.9	2.3	1.1
取締役相当			118	1.6	1.2	0.9
社長相当			284	2.0	0.9	0.8
その他			382	1.0	0.7	0.9

学び直す意欲はあるが趣味の学習だけしている「意欲あり趣味層」の属性別の出現率を倍数でみた。

例えば、「生活関連サービス・娯楽業」では意欲あり趣味層が平均の1.4倍いるのに対し、学び直し層は平均の0.9倍と、意欲あり趣味層が多い。

ウェイトバック処理

		(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか	人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体			9000	1.0	1.0	1.0
業種別	農業、林業、漁業、鉱業等		87	1.1	1.1	1.4
	建設業		522	1.2	0.8	1.1
	製造業		1,676	0.9	1.0	0.8
	電気・ガス・熱供給・水道業		136	1.0	1.1	1.5
	情報通信業		479	1.6	0.9	0.8
	運輸業、郵便業		498	0.8	1.0	1.2
	卸売業、小売業		1,128	0.7	0.8	1.0
	金融業、保険業		363	1.3	1.0	1.1
	不動産業、物品賃貸業		211	1.1	1.1	1.1
	学術研究、専門・技術サービス業		151	1.3	1.1	1.1
	宿泊業、飲食サービス業		327	0.6	1.0	0.9
	生活関連サービス業、娯楽業		209	0.9	1.4	0.9
	教育、学習支援業		346	2.0	1.6	1.2
	医療、福祉		929	1.1	1.0	0.9
	複合サービス事業		46	1.4	1.0	1.2
	サービス業（その他）		953	0.8	0.9	1.1
	国家公務、地方公務		370	1.0	1.5	1.6
	その他（上記以外）		567	0.8	0.8	0.6

		(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか	人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体			9000	1.0	1.0	1.0
企業規模別	100人未満		4,316	0.9	0.9	1.5
	100~300人未満		1,004	1.2	1.2	2.0
	300~500人未満		412	1.3	1.3	1.9
	500~1000人未満		488	1.3	1.2	1.6
	1000~2000人未満		416	1.2	1.0	2.4
	2000~1万人未満		741	1.4	1.3	2.4
	1万人以上		668	1.4	1.2	1.8
個人年収別	100万円未満		986	0.5	0.9	1.3
	100万~200万円未満		1,249	0.5	0.9	1.5
	200万~300万円未満		1,192	0.8	1.0	1.5
	300万~400万円未満		1,117	0.9	0.9	1.6
	400万~500万円未満		837	1.4	1.1	2.3
	500万~600万円未満		677	1.5	1.0	1.2
	600万~700万円未満		431	1.6	1.3	2.1
	700万~800万円未満		356	1.7	1.4	2.0
	800万~1,000万円未満		391	1.9	1.3	2.8
	1,000~1,500万円未満		238	1.9	1.1	2.1
	1,500~2,000万円未満		36	2.6	2.1	1.2
	2,000万円以上		31	2.8	1.5	0.7

学び直す意欲はあるが趣味の学習だけしている「意欲あり趣味層」の属性別の出現率を倍数で見ると、「資材・購買」では意欲あり趣味層が平均の2.2倍と多いが、学び直し層では1.0倍。

「広報・宣伝・編集」「幼稚園教諭・保育士」「警備・清掃・ビル管理」も同様の傾向。

ウェイトバック処理

(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか		人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体		9000	1.0	1.0	1.0
職種詳細別	経営・経営企画	269	2.2	1.1	1.2
	財務・会計・経理・法務	469	1.0	1.1	1.2
	総務・人事	423	1.4	1.2	1.3
	資材・購買	61	1.0	2.2	1.9
	広報・宣伝・編集	33	1.9	3.1	3.2
	企画・マーケティング	66	2.0	1.5	1.0
	営業推進・営業企画	92	1.4	1.1	1.7
	事務・アシスタント	1,405	0.5	0.9	0.8
	営業事務・営業アシスタント	159	1.2	1.1	0.9
	受付・秘書	45	0.9	1.2	1.9
	法人向け営業職	306	1.4	1.1	0.9
	個人向け営業職	159	1.1	1.0	1.0
	販売職	433	0.5	0.9	0.9
	顧客サービス・サポート	252	0.9	1.2	1.0
	【飲食】接客・サービス	245	0.5	0.9	0.8
	【飲食以外】接客・サービス	253	0.6	1.0	1.1
	理美容師	47	1.0	0.6	0.6
	生産技術・生産管理・品質管理	342	0.9	1.1	1.0

(倍) ※全体と比べ、各属性に学び直し層、意欲あり趣味層、意欲なし趣味層が何倍いるか		人数	学び直し層	意欲あり趣味層	意欲なし趣味層
全体		9000	1.0	1.0	1.0
職種詳細別	製造（組立・加工）	592	0.5	0.9	0.8
	ドライバー	167	0.5	0.8	1.2
	配送・倉庫管理・物流	228	0.5	1.0	1.2
	IT系技術職	326	2.1	0.6	0.7
	クリエイティブ職	52	1.9	1.5	1.3
	商品開発・研究	139	1.8	1.5	1.8
	建築・土木系施工管理・設計	153	1.9	0.8	1.1
	建築・土木系職人・現場作業員	79	1.4	0.6	0.4
	医療系専門職	337	1.5	1.0	0.5
	福祉系専門職	299	1.1	0.9	1.1
	教育関連	197	2.7	1.7	1.6
	幼稚園教諭・保育士	59	1.0	1.5	1.0
	その他専門職	187	1.4	0.8	1.6
	軽作業	169	0.5	0.7	0.4
	警備・清掃・ビル管理	255	0.4	1.1	1.2
	その他	661	0.6	0.7	0.7
	Webクリエイティブ職	25	2.6	1.2	1.1
	コンサルタント	19	2.0	1.1	4.8

※30人以下の職種はグレー網掛け